上田市文化財調査報告書第５７集

藤之木遺跡

浦里住宅団地（仮称）造成工事に伴う藤之木遺跡発掘調査概報

1996.3

上　田　市

上田市教育委員会

長野県住宅供給公社

上田市文化財調査報告書第５７集

藤之木遺跡

浦里住宅団地（仮称）造成工事に伴う藤之木遺跡発掘調査概報

1996.3

上　田　市

上田市教育委員会

長野県住宅供給公社

序

上田市の最西部に位置する浦野地区には、古代には都と東国・奥州を結ぶ令制東山道が、近世には上田と松本を結ぶ保福寺道が通っていました。近代になると、国道１４３号線が近代的な道路幅と直線性をもって開通し、松本平と上田を結ぶ交通の要衝となっていました。なかでも、保福寺道においては「浦野宿」が形成され、その家並みは現在にも伝わり、往時をしのばせています。また、今では残り少なくなった木造校舎の浦里小学校は、近代の「教育県長野」の機運の昂まりを、その校舎の随所に体現しています。

このたび、長野県住宅供給公社によって当地に住宅団地が造成されることになり、その区域内に存在する藤之木遺跡を発掘調査し、その結果についての概要をここにご報告する次第です。

上田市は、平成８年度からはじまる第三次長期基本構想を「創造。活力。ときめきのまち　上田　－学術研究都市をめざして－」と掲げました。私たちは、この実現のためにも、先人の文化を学び、後世に伝えなければなりません。『20世紀末の上田市の祖先は、大切な文化財を、何も私たちに残さなかった…』と未来の子供達にいわれないためにも、また、真に学術的に水準の高い都市を作るためにも、基礎的資料の収集である発掘調査を高水準でおこない、せめて記録だけでも後世に伝えることは、地道な活動ではありますが、重視しなければなりません。また、現在編さん作業を行っている上田市誌は、「市民の誰もが読める」本を目指していますが、これは、こうした基礎的な資料の収集。研究の上に構築される、ピラミッドの頂点のように、もっとも崇高な目標点です。

ここにご報告する調査結果は、諸般の事情で概要のみのものとなってしまいましたが、今後の市誌等を通じてご報告差し上げて参りたいと存じます。

最後となりましたが、今回の調査に際し、ご理解・ご協力をいただいた長野県住宅供給公社、浦野。越戸・藤之木の各自治会の皆さま、そして何より、盛夏の炎天下に、過酷な作業に従事していただいた皆さまに感謝申し上げ、序といたします。

平成８年３月

上田市教育委員会教育長　内藤　尚

例　　言

1　本書は、長野県上田市大字浦野字湯道における、浦里住宅団地造成に伴う、藤之木遺跡発掘調査概要報告書である。

2　調査は、長野県住宅供給公社の委託に基づき、上田市（上田市教育委員会事務局社会教育課）が実施した。

3　現地調査は、平成７年４月１７日から８月１０日まで行い、整理作業は、現地調査中から平成８年３月３１日まで実施した。

4　遺構の実測は、中沢徳士・大井敬子・池内宣裕・井沢光子・山本万里・丸田由紀子・小山倍子・池田市郎が行った。

5　諸般の事情により、遺物の実測は実施していない。

6　遺物の洗浄は、現地作業員が雨天時等に行い、注記と接合は整理作業員が行った。

7　本文の執筆は中沢が行った。

8　遺構・遺物写真は、中沢・池内が撮影し、全体航空写真は、図化用航空写真の撮影とともに、㈱新日本航業に委託して実施した。

9　版組及び遺構の観察表の作成は、実測者の観察をもとに整理作業員が行った。

10　現地調査に係る基準点・水準測量及びメッシュ杭打（３×３ｍ）は、みすず測量設計㈱に委託して実施した。

11　本調査に係る資料は、上田市立信濃国分寺資料館に保管している。

12　本調査にあたり、次の方々にご指導・ご協力をいただいた。記して感謝する次第である。

浦野・越戸・藤之木自治会の皆さん、五十嵐幹雄、塩入秀敏さん室

13　本調査に係る調査の体制は次のとおりである。

事務局の体制	調査作業の体制
教育長：内藤尚 教育次長：荒井鉄雄 社会教育課長：松沢征太郎 文化係長：岡田洋一 主査（担当）：中沢徳士 主任：尾見智志 〃：塩崎幸夫 〃：久保田敦子 主事：清水彰 嘱託：西入元三郎	調査補助　池内宣裕・西沢勝・大井敬子 調査作業 磯部應二・竹内勇・成沢伯・野田三雄 土屋友春・小山幹雄・小山倍子・井沢光子 井沢ゆき・関美和・里美モトメ・吉原みさを 室沢美代子・山本万里・滝沢章子・平林とみ子 井沢尚美・酒井梓・池田市郎・甲田五夫 関忠彦・西沢勲・山崎武比古・桜井守夫 清水圭子・丸田由紀子・池田才次郎・久保田哲 関とみ江・宮崎のぶい・鈴木義房・鈴木まさみ

凡　　例

遺　構

1　遺構は、次の（　）内に示す略号で表し、続く番号は任意である。
竪穴住居址（ＳＢ－）　土壙（ＳＫ－）　溝址（ＳＤ－）　ピット（Ｐ－）　住居址内ピット（Ｐ）　単体出土土器（Ｐｏ－）

2　遺構の図版は、原則として国家座標に基づく北を頁の上とし、その他の場合は方位を示した。

3　遺構実測図は、原則として原図1/20で、1／3縮小とした。また、住居址の竈、遺物出土状況等、必要に応じて原図1/10、1／3縮小とした。

4　遺構が、時代の新しい遺構、あるいは攪乱等によって破壊を受け、プランが明確でない場合は、その遺構の推定プランを破線で示した。

5　住居址の主軸方位は、国家座標の真北と竈を通る住居址の中軸線との成す角度で示した。

6　標高の単位は、すべて「ｍ」である。

7　遺構図中の網点□は焼土を示し、▒は炭化物を示す。

8　遺構写真図版の縮小は、任意である。

9　遺構観察表の標記方法は次のとおりである。

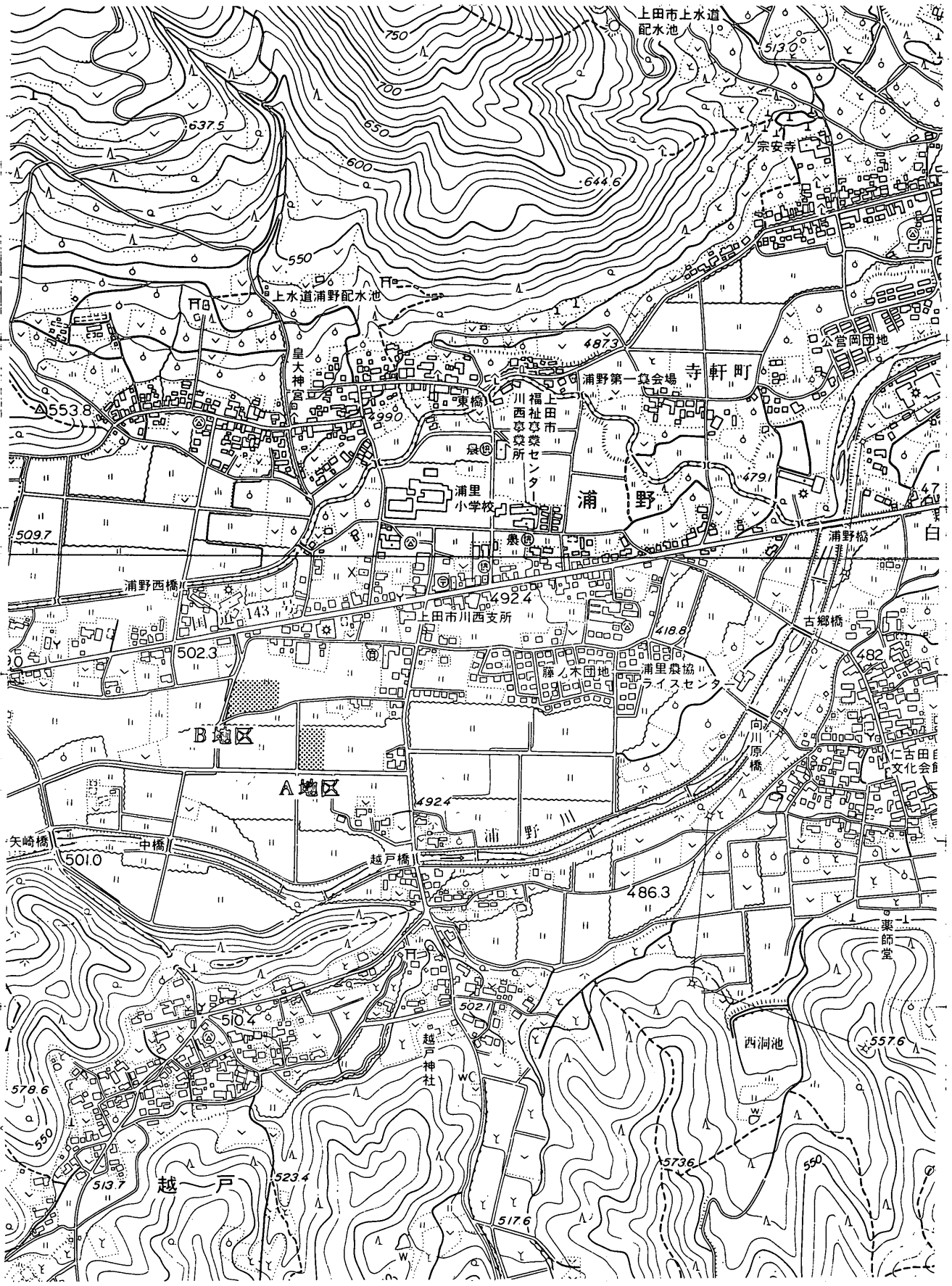
遺構	遺構番号	形態 方位 規模	平面形態 凡例5による 平面の長軸×短軸（単位：m）	壁　高 床　高 床面積	壁の残高　最大~最小（方角） 床の標高（単位：m） 床の平面積（単位：㎡）	竈	位置 方位 規模	竈の位置 主軸方位 最大長×最大幅
図版	図版番号							
柱穴	住居址に伴う柱穴の（長径×短径×深さ）単位：m							
備考								

遺　物

1　本調査では、遺物の実測は省略した。

目　　次

序
例言
凡例
目次
第一章　序説
　第１節　調査に至る経過……1
　第２節　調査の方法　……2
　第３節　調査の経過　……2
第二章　遺跡の環境　……4
　第１節　地理的環境　……4
　第２節　歴史的環境　……4
　第３節　遺跡の基本層序……8
第三章　調査の結果　……9
　第１節　検出遺構図　……9
　第２節　遺構観察表　……74
写真図版
報告書抄録



第１図　藤之木遺跡発掘調査地点

第一章 序　説

第１節　調査に至る経過

平成６年１０月、長野県住宅供給公社（以下、「公社」という。）から、上田市教育委員会事務局社会教育課（以下、「事務局」という。）に、上田市大字浦野字湯道地区に、37,000㎡に及ぶ住宅団地の造成計画があり、平成７年度４月から施工、平成８年７月分譲開始の予定があるが、埋蔵文化財についてはいかがか、という協議があった。

事務局で、その範囲に係る埋蔵文化財の分布状況を分布図及び分布調査報告書（1977上田市教育委員会発行「上田市の原始・古代文化」）によって確認したところ、当該区域の北半部に周知の埋蔵文化財包蔵地である藤之木遺跡が存在していることが示されていた。事務局では、遺跡の範囲確認のための試掘調査を12月21～23日に実施した。その結果、施工範囲の北西部及び南中央部に弥生時代後期～平安時代の住居址・溝址・ピット等が確認され、その保護措置が必要となった。（1995上田市教育委員会発行「市内遺跡Ⅳ」）事務局では、上田市の担当課を通じてこのことを伝え、平成７年１月６日、遺跡の保護協議を、公社、上田市担当課（川西支所）、事務局及び長野県教育委員会事務局文化課（以下、「文化課」という。）の担当者により、上田市川西支所会議室において実施した。

協議では、開発の概要について公社から、試掘調査の結果について事務局から説明した後、具体的な協議にはいった。文化課からは、今回の事業は埋土部分についても発掘調査による記録保存が必要な事業であること、公社からは、発掘調査をするだけの期間的・時間的な余裕がないこと、事務局からは、調査に割ける人員が不足していること、という意見が交わされた。最後に、文化課から事務局に対し、さらに詳細に遺跡の範囲を確定するため、追加トレンチ調査を実施するとともに、調査費の積算と調査体制の再検討を、公社に対し、工期及び事業費の再検討をするよう指導があり、２月初旬に改めて協議を実施することとした。

事務局では２月３日に追加調査を実施し、その結果をもって３月17日、再度協議を実施した。その結果、調査期間・調査費用については十分なものではなかったが、事務局の体制的な力量と、公社の予算的な限界により、次のとおり協議が成立した。

1 発掘調査地：上田市大字浦野字湯道	5 調査の作業日数：発掘作業60日、整理作業120日、合計180日
2 遺跡名：藤之木遺跡	6 調査に要する費用：32,000,000円
3 遺跡の状況：（地目）田及び畑　（破壊状況）一部	7 調査報告書作成部数：300部
4 調査の目的及び概要：浦里住宅団地造成に先立ち、施工範囲内に存在する藤之木遺跡6,000㎡以上を発掘調査し、遺跡の記録保存を図る。 遺跡における発掘作業は平成7年7月17日までに終了する。 調査報告書は平成8年3月25日までに刊行する。	8 発掘調査の主体者：上田市長竹下悦男（上田市教育委員会）
	9 その他：調査の結果、重要な遺構などが検出されたときは、その保存について改めて協議する。

第２節　調査の方法

遺跡名は、長野県教育委員会作成の遺跡台帳に記載されている「藤之木遺跡」とした。また、記録の便宜を図るため、遺跡略号としてＦuji-Ｎo-ＫiのＦＮＫを与えた。各種の記録や遺物の注記等は、この記号を用いている。

調査範囲の設定については、今回の造成工事が、「永久構造物の建設」に該当するため、原則として施工区内の遺跡については全面調査対象とした。ただし、昭和40年代のほ場整備事業により、壊滅的な破壊を受けている範囲については、対象外とした。この結果、調査区域は２ケ所設定され、東からＡ、Ｂの区域名を付した。そして、Ａ地区の略号をＦＮＫ－Ａ、Ｂ地区の略号をＦＮＫ－Ｂとした。調査面積は、Ａ地区が約2,000㎡、Ｂ地区が約4,500㎡である。

遺構調査に際しては、表土剥ぎはすべてバックホーを用い、その後の作業はすべて人力によった。測量には、国家座標による３×３ｍのメッシュを設定し、簡易やり方測量を実施した。メッシュの交点には記号を付し、グリッドを設定、基準点を０とし、そこから方向を表すために東・西・南・北をＥ・Ｗ・Ｓ・Ｎと、距離を表すため、３ｍを１単位とした記号を付した。例えば、基準点から北に15ｍ、東に24ｍのポイントは、Ｎ５Ｅ８となる。グリッド記号は、北東のメッシュポイントによって表し、包含層出土遺物は、このグリッド記号によって取り上げた。また、調査終了後は、航空写真測量用の写真撮影を実施してある。

なお、基準点の座標値はＡ地区北のＸ＝41,211.00、Ｙ＝-30,303.00であり、上田地区は国家座標第Ⅷ量系に属している。

第３節　調査の経過

現地調査は、平成７年４月17日にバックホーによる表土剥ぎから着手した。人手による作業は４月26日からとし、この間、作業員の募集を上田市川西支所を窓口に行い、作業棟の設置、基準点やメッシュ杭打ちの準備等を行った。

４月26日から作業員を約40名投入し、Ａ地区の遺構検出～掘り上げ～写真撮影～実測と行い、順次Ｂ地区へ移動していき、現地調査終了は当初７月17日までの予定であったが、予想以上に良好な遺構が多数検出されたり、長引く梅雨の影響で、最終的には８月10日まで順延された。以下、調査の進捗を調査日誌（抄）によってみる。

調査日誌（抄）

4/17　Ａ区の重機による表土剥に着手する。

4/26　この日から作業員投入。作業の方法、雇用条件等について説明の後、Ａ区の遺構検出に入る。

4/27　Ａ区の表土剥が終了する。

4/28　Ｂ区表土剥着手。Ａ区の遺構検出作業と並行してＢ区の遺構検出作業を行う。

5/10　Ａ区遺構掘り上げ着手。並行してＢ区の遺構検出作業を行う。

5/29 雨のため、作業棟で土器洗いを行う。
6/ 2 重機による表土剥がすべて終了する。
6/ 5 Ｂ区ＳＤ－０１の掘り上げに着手。
6/ 7 前日来の雨のため、午前中はＡ・Ｂ区ともに排水作業を行ったものの、Ａ区がぬかるみで調査が不可能なため、午後は全員でＢ区ＳＤ－０１の掘り上げを行う。
6/ 9 雨のため、作業棟内で土器洗いを行う。
6/14 大雨のため、午後の作業を中止する。
6/28 航空写真撮影に備え、Ａ区の清掃及びＡ区周辺の草刈りを行う。
6/29 Ａ区測量用航空写真撮影を行う。Ａ区の掘り上げ終了。
6/30 Ｂ区ＳＢ－４９床面から銀環が、ＳＢ－５４から草食動物（馬か？）のものと思われる骨が出土する。
7/ 4 雨のため、作業棟内で土器洗いを行う一方、Ｂ区の排水作業及び周辺の草刈りを行う。
7/11 朝方雨のため、10時まで作業棟内で土器洗いを行い、以後、排水作業と掘り上げを行う。
7/12 雨のため、現場作業は全面中止し、Ｂ区の排水作業を行いつつ、作業棟内で出土遺物の整理を行う。
7/21 雨のため、現場作業は全面中止し、Ｂ区の排水作業を行いつつ、作業棟内で出土遺物の整理を行う。
7/31 Ｂ区Po-05 を半載したところ、弥生時代後期の合わせ甕棺と判明する。
8/ 7 Ｂ区の掘り上げがほぼ終了し、航空写真撮影に備え、Ｂ区の遺構清掃を行う。
8/ 8 Ｂ区測量用航空写真撮影を行い、現地調査がほぼ終了したため、発掘機材の片付けを行う。
8/10 実測作業・掘り上げ作業がすべて終了し、現地調査をすべて終了する。

これ以降、上田市天神二丁目に所在する埋蔵文化財整理室で遺物整理作業と報告書作成作業を断続的に行い、平成８年３月、本報告書を刊行し、調査はすべて終了した。

なお、この間、公社と上田市で締結した委託契約の内容のうち、現地調査終了期限の変更契約を平成７年７月１０日に行い、入札差金及び不用額の発生に伴う委託金額の変更契約を平成８年２月１６日に行っている。

第二章　遺跡の環境

第１節　地理的環境

藤之木遺跡は、上田市の西端、通称川西地区に所在する。川西地区は大別すると、浦野川を主流とする浦里地区と、室賀川を主流とする室賀地区及び浦野川と室賀川が合流する小泉地区に分けられ、本遺跡は浦里地区のほぼ中央に位置する。

浦里地区には、青木村山中に源を発し、千曲川に向かって北東流する浦野川が南側に流れ、北側を子檀嶺(こまゆみ)岳(1,223m)に源を発する阿鳥川が流れる微高地上に位置する。遺跡は、基本的にはこの浦野川が形成した扇状地面にあり、阿鳥川によって形成される北側からの扇状地によって、浦野川が南に圧迫され、平野部が一段と広くなっている箇所である。

遺跡の標高はおおむね５００m前後を計り、遺跡の北５００mには三ツ頭山(923m)。飯縄山(932m)が、南には夫神岳(1,250m)と、それから続く山塊と川西丘陵が連なり、浦野川扇状地は西の青木村に行くに従い幅を狭め、東は千曲川に向かって、いよいよその幅を広めている。

浦野川は現在、遺跡から約３００m南、比高差で約７m下を流れている。しかし、Ａ地区の調査では、浦野川の旧河床を掘り抜いて建てた古墳時代後期の竪穴住居址や、旧河床を掘り抜いて建て、氾濫による砂礫で埋没した平安時代後期の竪穴住居址が検出されており、浦野川の水位は現在よりかなり高く、また、川の左岸は北に寄っていたことが伺える。

気候は典型的な内陸性のもので、特に年間降水量は1,000mm以下と極めて少なく、天然の湧水には恵まれないため、この地域の遺跡の多くは河川の段丘上に位置し、水を河川に依拠していることが伺える。

第２節　歴史的環境

周辺の遺跡から、この地域の歴史的な概要を見ると、縄文時代早期がその初現となっている。すなわち、浦里地区に隣接する青木村の、湯ノ平遺跡において楕円・山型押型文土器及び諸磯Ａ・Ｂ式土器、地獄沢遺跡で諸磯Ｃ式及び下島式土器が採取されている。上田市では、小泉地区の和合遺跡で上原式、室賀地区の谷鬼遺跡で芽山式土器の採取がある。

中期以降、遺跡数は増加し、青木村で38、浦里地区で10、室賀地区で10、小泉地区で13遺跡が知られている。

中期後葉から後期にかけては、室賀地区で1990年に室賀川左岸の日影遺跡が調査され、敷石住居址４軒が（1992年上田市教育委員会『日影・田中遺跡』）、小泉地区で1989年の小泉地区浦野川左岸の大道下遺跡の調査で、敷石住居址４軒・石棺墓が検出されている。

後期では、当遺跡から２００m北東の阿鳥川右岸段丘上の下前沖遺跡が、1980年に発掘調査され、加曽利Ｂ式、大洞C_2式及び土製耳飾81点の出土を見ている。（1981年上田市教育委員会『下前沖遺跡』）

弥生時代の遺跡については、前中期の遺跡は報告されておらず、そのほとんどが後期後

葉箱清水期の遺跡である。なかでも、1986～87年に調査された小泉地区の浦野川右岸の琵琶塚遺跡からは、23軒の当期の住居址が、前述の大道下遺跡からも８軒の住居址が、さらに室賀地区室賀川左岸の岳の鼻遺跡では古墳時代への過渡的な住居址が多数検出し、室賀川と浦野川の合流地点を中心に、弥生時代後期から古墳時代初頭にかけて、一大文化圏が形成されたことが伺われる。

古墳時代の遺跡については、古墳の数に比べて少数である。小泉地区の和合将軍塚古墳は礫槨をもつ竪穴式石室と推測され、かつて鉄剣２口が出土したと伝えており、６世紀前葉の古墳に比定される。その他、周辺で湮滅したものも含めた18基の古墳のすべては後期後葉から終末期に築造されている。藤之木遺跡に直近の古墳としては、遺跡南の飯縄山塊中腹に古墳時代後期の浦野塚古墳がある。

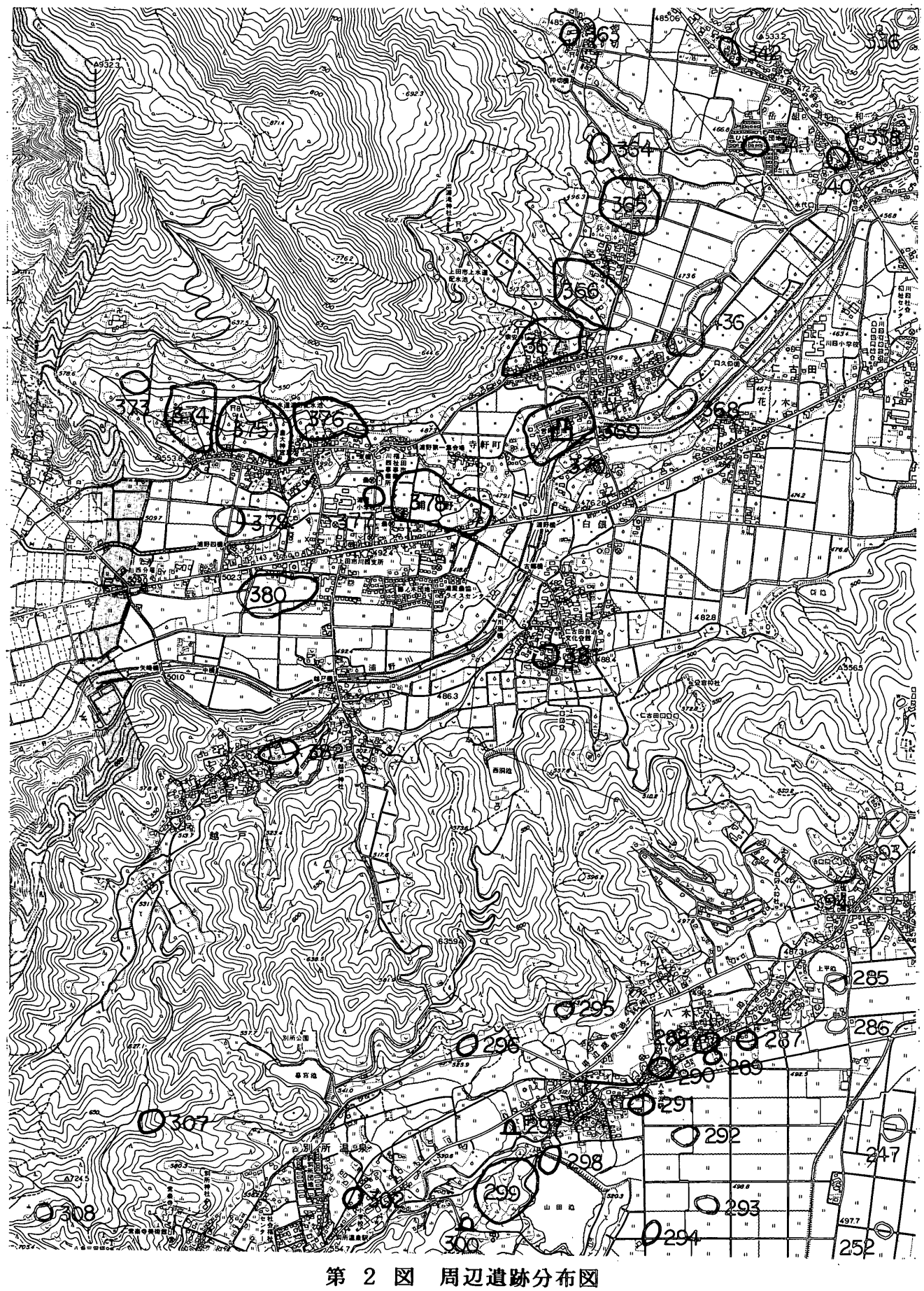
集落遺跡としては、前出の琵琶塚遺跡・大道下遺跡・岳の鼻遺跡が確認されている。琵琶塚遺跡、大道下遺跡、岳の鼻遺跡では30～50軒の住居址が各遺跡で確認され、前述古墳の築造を支える基盤の存在が想定され、浦野川流域を経済基盤とした勢力の台頭を感じさせる。

奈良・平安時代の当地域の開発はいよいよ盛んになったと思われ、遺跡数が急増する。８世紀、上田には信濃国府・信濃国分寺が置かれ、令制東山道も川西地区谷平野の中央を、直線的に開かれたと考えられている。1990年の小泉地区高田遺跡の調査では、８世紀前半から11世紀にかけての、東山道最盛期の遺跡が姿を現し、想定東山道に直結する集落であったことが考えられる。また、この高田遺跡の存続した時期、近接する琵琶塚遺跡・大道下遺跡から該期の痕跡がなくなっていることから、当地域の水田開発と、それに伴う集落の移動も推定されている。しかし、条里的遺構は現段階では確認されていない。

文献上では、万葉集十四の東歌に「彼の児らと　宿ずやなりなむ　はたすすき　浦野の山に月片寄るも」とあり、この浦野は当地域周辺に比定されている。また、日本三代実録四年三月五日の「信濃国正六位上馬背神」の馬背神は、やはり浦野の「馬背神社」に比定されている。この地域が「和名類聚抄」にある跡部郷に含まれるか、福田郷に含まれるかは判明していないが、考古学的にも文献上でも、当地域に関しては該期の資料が豊富で、今ならば超一級国道ともいうべき東山道に沿う当地域は、中央と東山道諸国の文物や情報が行き交う、開けた地域であったことが知られる。

その後、中世には、隣接する青木村当郷地区に所在する大法寺三重塔（国宝）や、遺跡の南方の市坂峠を越えた別所の安楽寺・常楽寺に代表される仏教文化が隆盛し、「信州の学海」とうたわれた。戦国時代には浦野氏の居館岡城を武田氏が押さえ、北信濃進出の拠点とし、周辺の峰々には山城が構えられた。近世には上田と松本を結ぶ保福寺道が設けられ、浦野は宿として栄える一方、養蚕・蚕種業を主とする農村を形成し、その面影は現在も比較的良好に残っている。

近年は、隣町の丸子町と松本市を結ぶ三才山トンネル開通により、一時は通行量の減った国道１４３号線が、中央道長野線麻績インターチェンジのオープンにより、アクセス道として再び交通量が増え、沿線の開発が盛んになってきている。


363
364
365
366
367
368
369
370
373
374
375
376
377
378
379
380
381
382
285
286
287
288
289
290
291
292
293
294
295
296
298
299
300
302
307
308
247
252
336
338
340
436
浦野
別所温泉
別所公園
八木
白鳥
寺軒町
花ノ木
古田
上田市上水道配水池

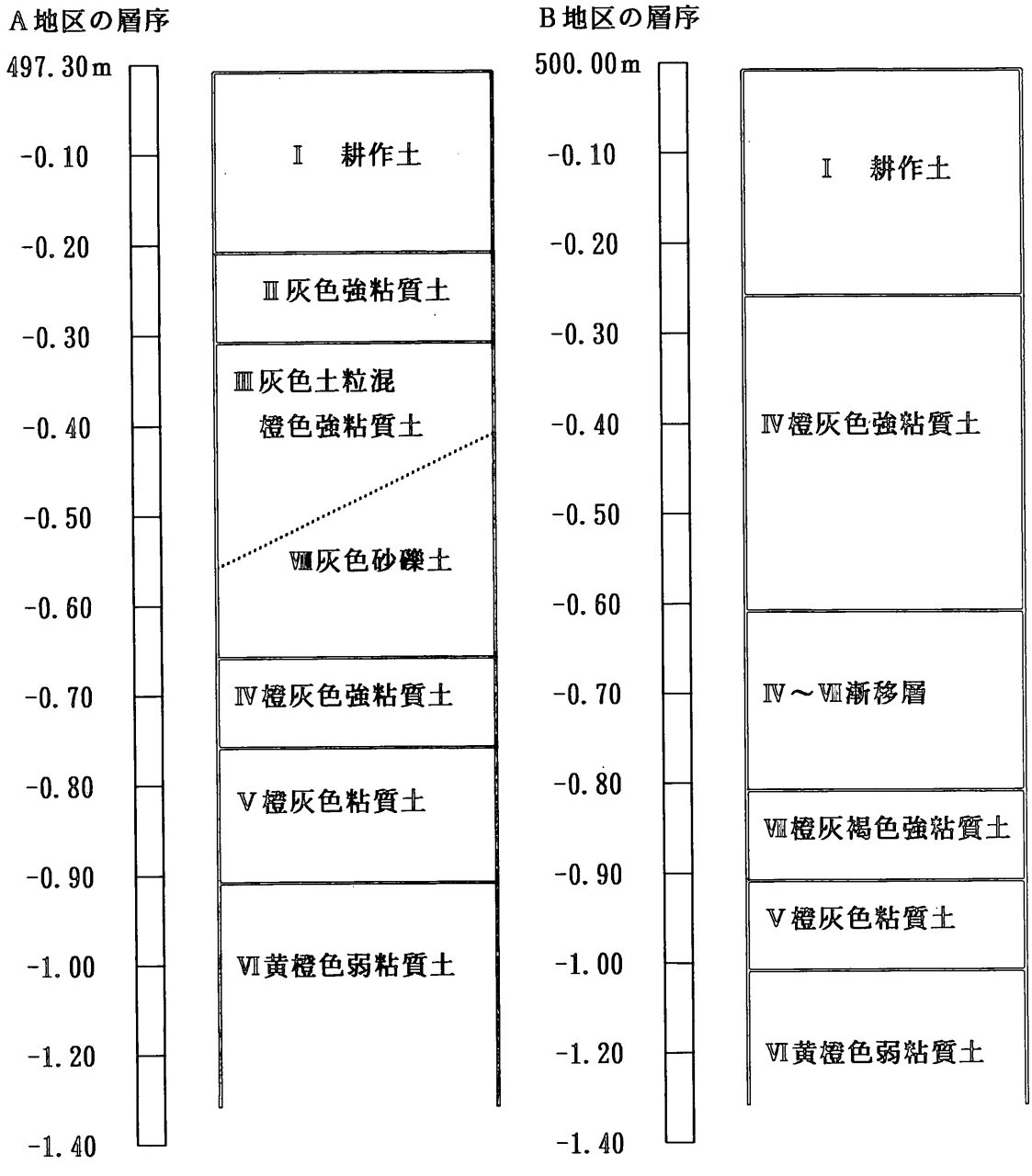
第 2 図　周辺遺跡分布図

番号	遺　跡　名	時　代	遺跡の所在地	備　考	番号	遺　跡　名	時　代	遺跡の所在地	備　考
247	加生遺跡	縄・弥	十人字加生		341	岳の鼻遺跡	弥～平	下室賀字岳の鼻	91~92調査
252	東長畑遺跡	縄～平	手塚字東長畑		342	岳之本遺跡	平	下室賀字岳之本	
285	上平遺跡	平	中野字上平		363	寺前遺跡	縄～平	下室賀字寺前	
286	柳堂遺跡	平	八木沢字柳堂		364	押切遺跡	平	下室賀字押切	
287	中丸田遺跡	縄	八木沢字中丸田		365	原遺跡	縄・平	岡字原	
288	表田中遺跡	平	八木沢字表田中		366	滝遺跡	〃	岡字滝	
289	上丸田遺跡	縄	八木沢字上丸田		367	古城遺跡	平	岡字古城	
290	砂畑遺跡	弥・平	八木沢字砂畑		368	久保遺跡	〃	岡字久保	
291	馬場遺跡	〃	八木沢字馬場		369	岡城跡	近	岡字城	市指定史跡
292	塚田遺跡	平	八木沢字塚田		370	城遺跡	平	岡字城	
293	塚田遺跡	弥・平	山田字塚田		373	入馬越遺跡	縄・平	浦野字入馬越	
294	原田遺跡	弥～平	山田字原田	84調査	374	中馬越遺跡	縄	浦野字中馬越	
295	宮の前遺跡	弥～平	別所字宮の前	92~93調査	375	西之宮遺跡	平	浦野字西之宮	
296	中曽根遺跡	平	別所字中曽根		376	東之宮遺跡	弥・平	浦野字東之宮	
297	大塚古墳	古	別所字大塚	湮滅	377	前沖内堀遺跡	縄	浦野字前沖内堀	
298	池田口遺跡	平	八木沢字池田口		378	下前沖遺跡	縄～平	浦野字下前沖	80調査
299	池田山古墳	?	八木沢字向池田	90調査	379	上前沖遺跡	平	浦野字上前沖	
300	北の沢古墳	古	山田字北の沢		**380**	**藤之木遺跡**	**弥～平**	**浦野字藤之木**	**95調査**
302	比蘭樹遺跡	縄	別所字比蘭樹		381	本村遺跡	平	浦野字本村	
307	北谷遺跡	平	別所字北谷		382	西沢遺跡	〃	浦野字西沢	
336	鍛冶山遺跡	弥	小泉字鍛冶山		393	飯縄腰遺跡	縄	中野字飯縄腰	
338	和合遺跡	縄～平	小泉字和合		394	塩之入遺跡	縄・平	中野字塩之入	
340	岳之里遺跡	平	下室賀字岳之里		436	山崎遺跡	平	岡字山崎	

＊1　遺跡の番号は、長野県教育委員会作成の遺跡分布図による。
＊2　時代の、「縄」は縄文時代、「弥」は弥生時代、「古」は古墳時代、「奈」は奈良時代、「平」は平安時代、「中」は中世、「近」は近世を指す。なお、「～」はこの間の時代を含むことを示す。
＊3　所在地の表記は、大字から示した。
＊4　備考の数字は19□□年を指し、「90」は1990年を示す。

第 1 表　藤之木遺跡周辺遺跡一覧表

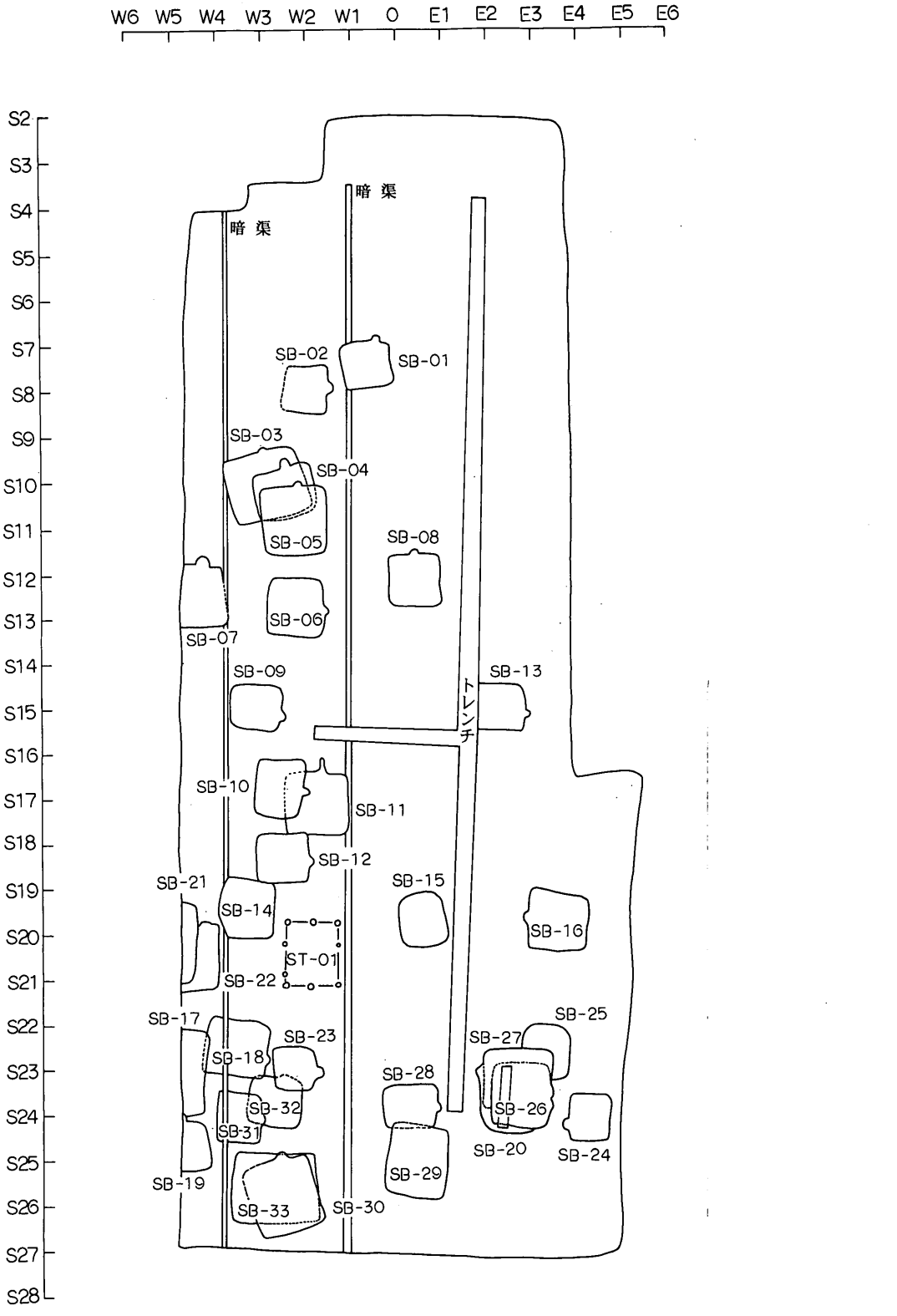
第３節　遺跡の基本層序



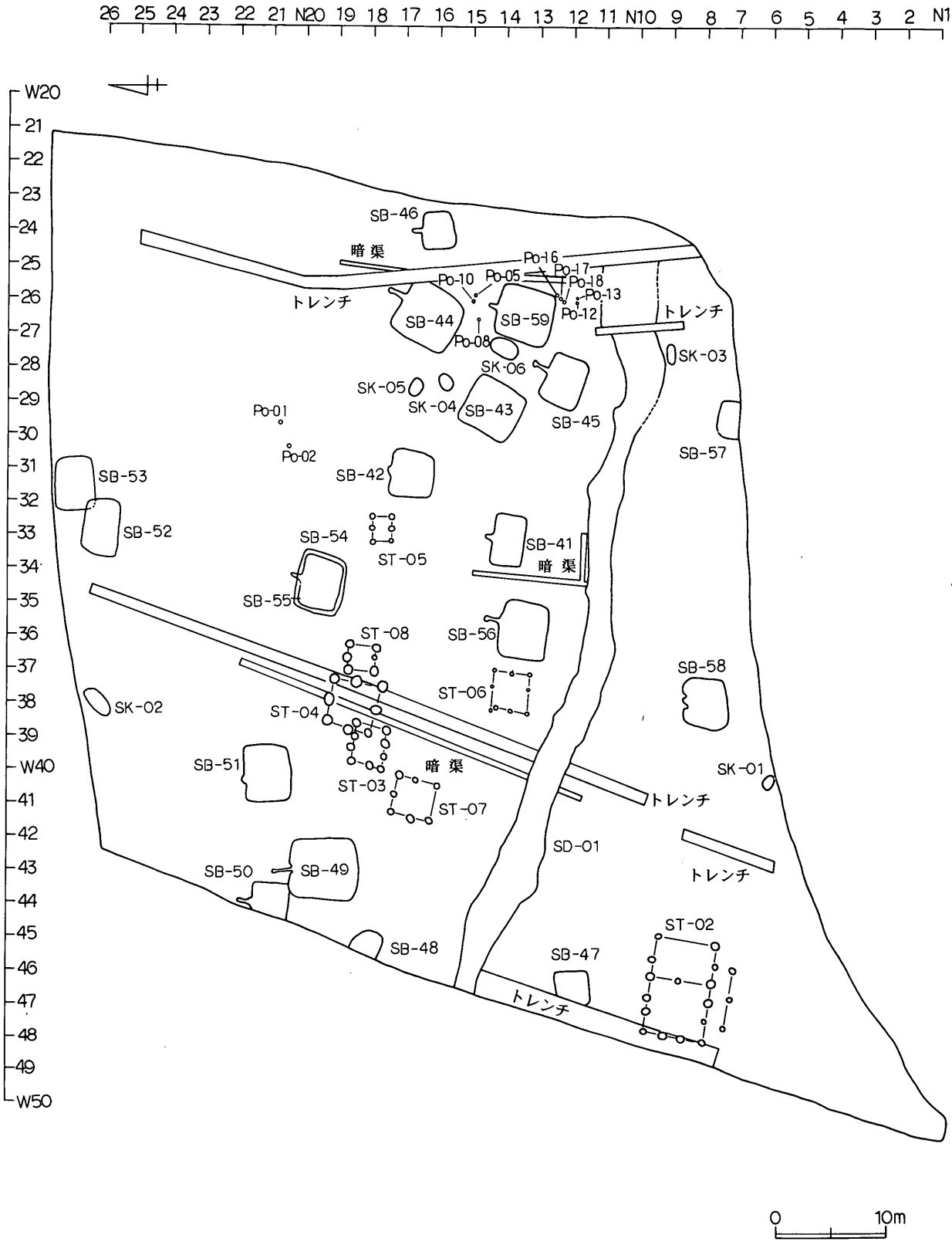
全体の地形が東南下がりで、浦野川の流れと、阿鳥川の扇状地によって形成された地形である。Ａ地区においては、かつてほ場整備事業が実施されており、土の移動と撹乱が著しい。Ⅱ・Ⅲ層は、ほ場整備の際、盛られた土と思われる。Ⅲ層は、調査区の北西部にいくに従い、Ⅶの砂礫層になる。このⅦ層はほ場整備の影響を受けずにいるもので、浦野川の氾濫の様子を示す。遺構検出面は、Ａ地区ではⅤ層上に現れる。Ⅴ層は全体に暗い色調で、遺構はⅤ層上に白っぽく浮かび上がる。これに対して、Ｂ地区は、土層の状態は良く、遺構はⅦ層上に検出される。これは、ほ場整備の影響もさることながら、遺跡の範囲確認調査の際の観察によれば、Ａ地区の北を流れる水路を境に、南側は浦野川の氾濫の影響を受け、北側は微高地で氾濫の影響を受けていないことがわかる。さらにその北、国道１４３号線側へ寄ると、阿鳥川の影響で、湿地帯となっていくようである。

第三章　調査の結果

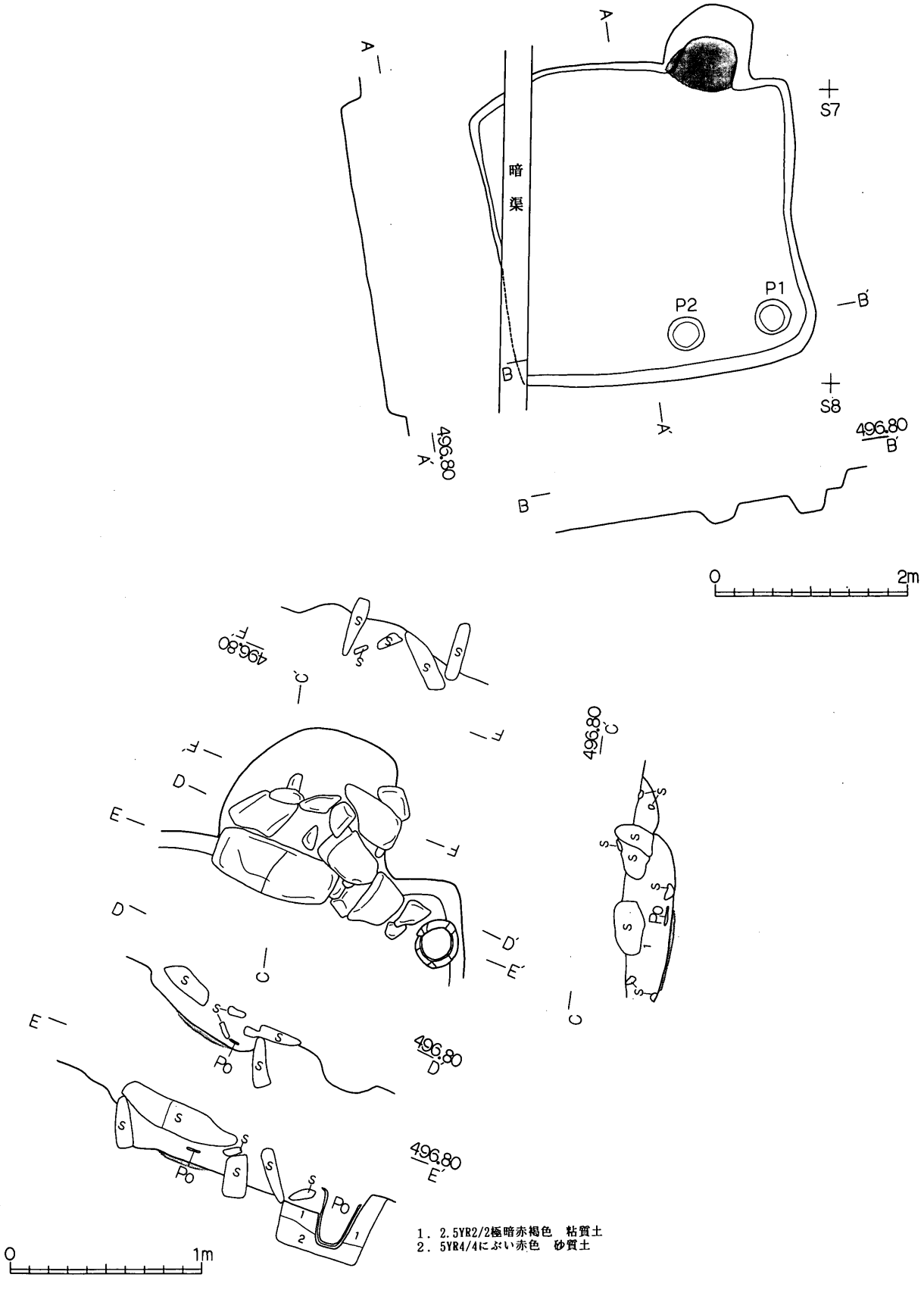
第１節　検出遺構図



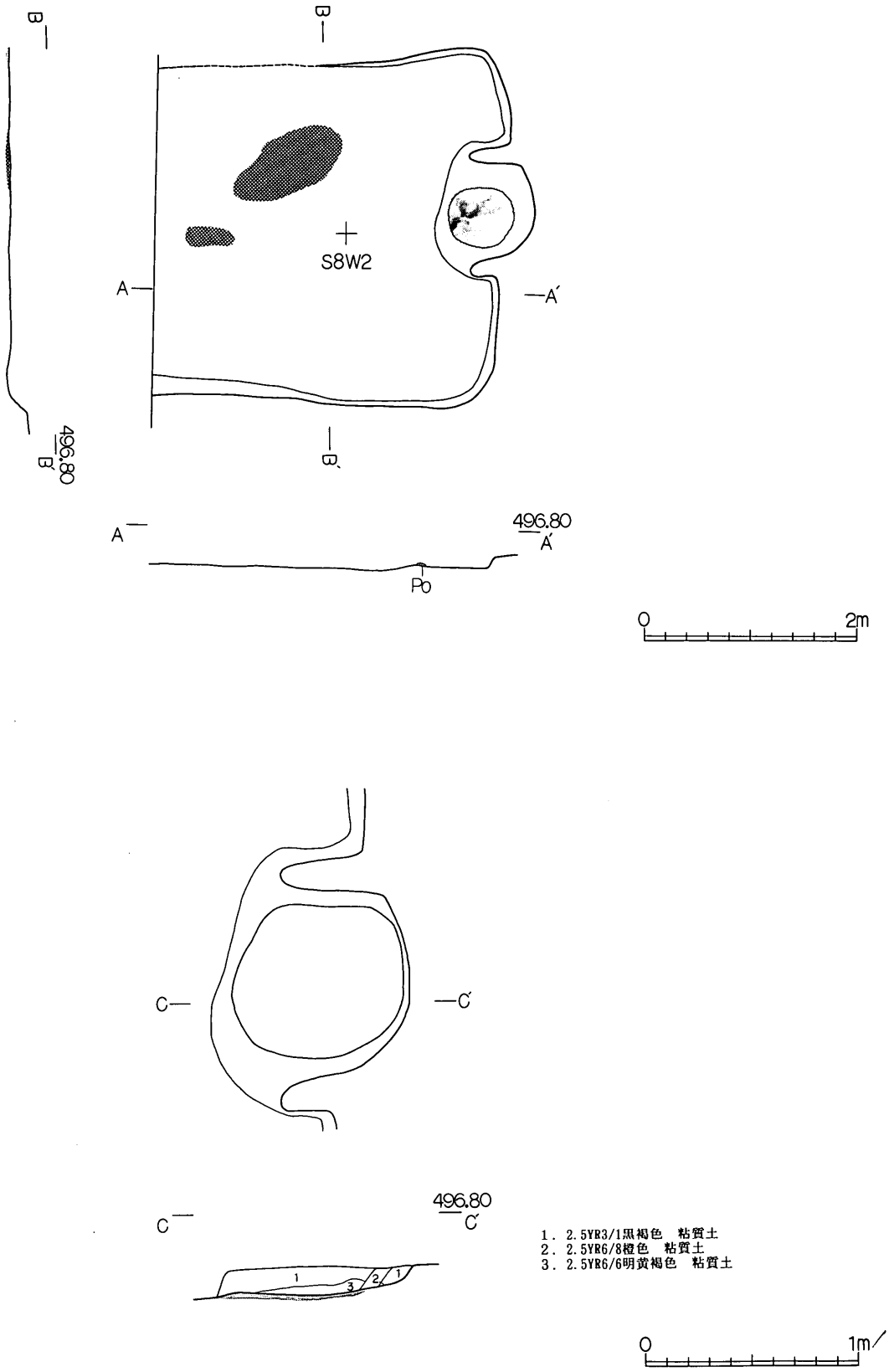
第 3 図　A区配置図


26 25 24 23 22 21 N20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 N10 9 8 7 6 5 4 3 2 N1
W20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
W40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
W50
SB-46
暗渠
Po-16
Po-17
Po-10
Po-05
Po-18
Po-13
Po-12
トレンチ
SB-44
SB-59
トレンチ
Po-08
SK-03
SK-06
SK-05
SK-04
SB-43
SB-45
Po-01
Po-02
SB-57
SB-42
SB-53
SB-52
SB-54
ST-05
SB-41
暗渠
SB-55
ST-08
SB-56
SB-58
ST-06
SK-02
ST-04
SB-51
暗渠
ST-03
ST-07
SK-01
トレンチ
SD-01
トレンチ
SB-50
SB-49
ST-02
SB-48
SB-47
トレンチ
0
10m

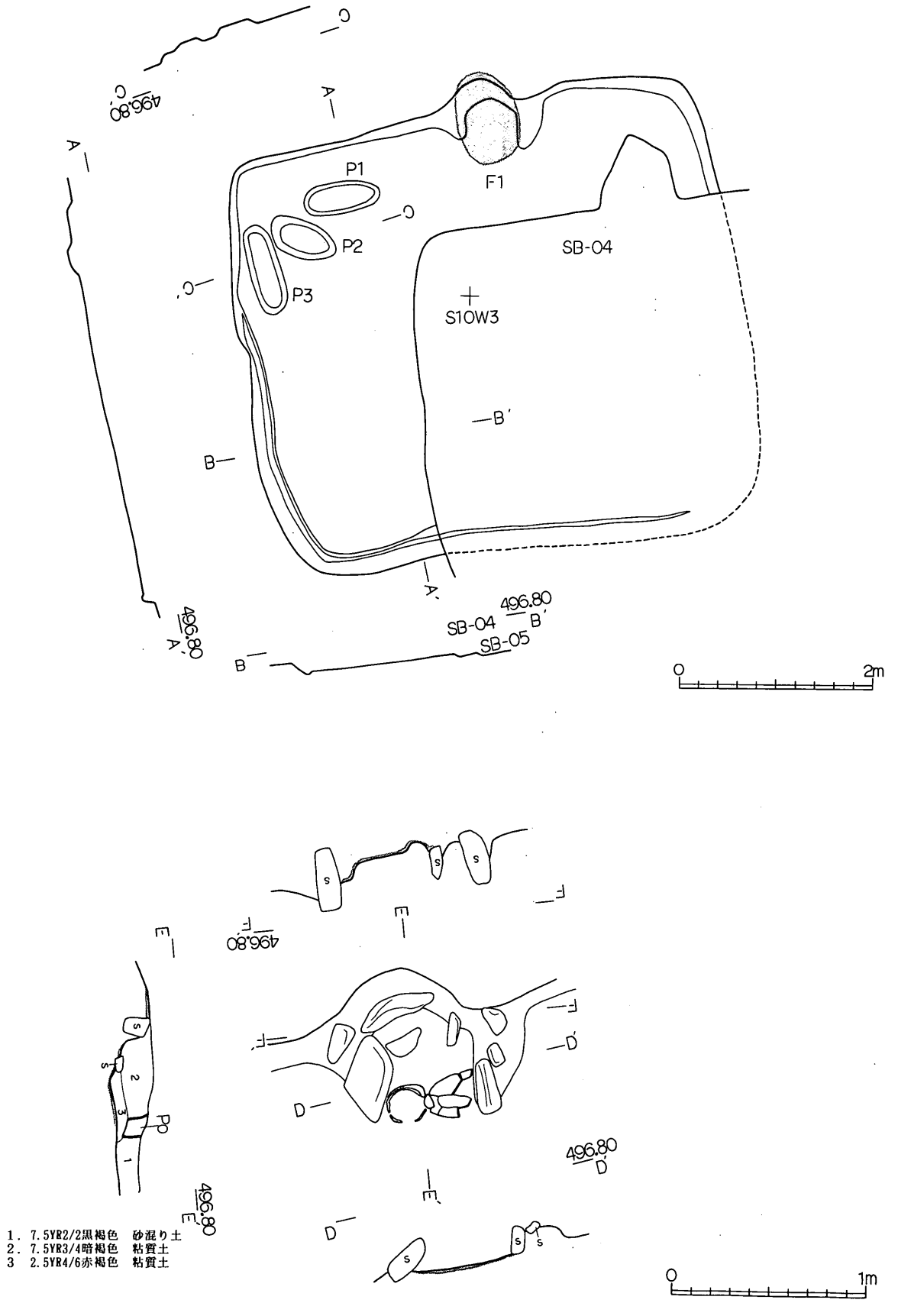
第 4 図　B区配置図



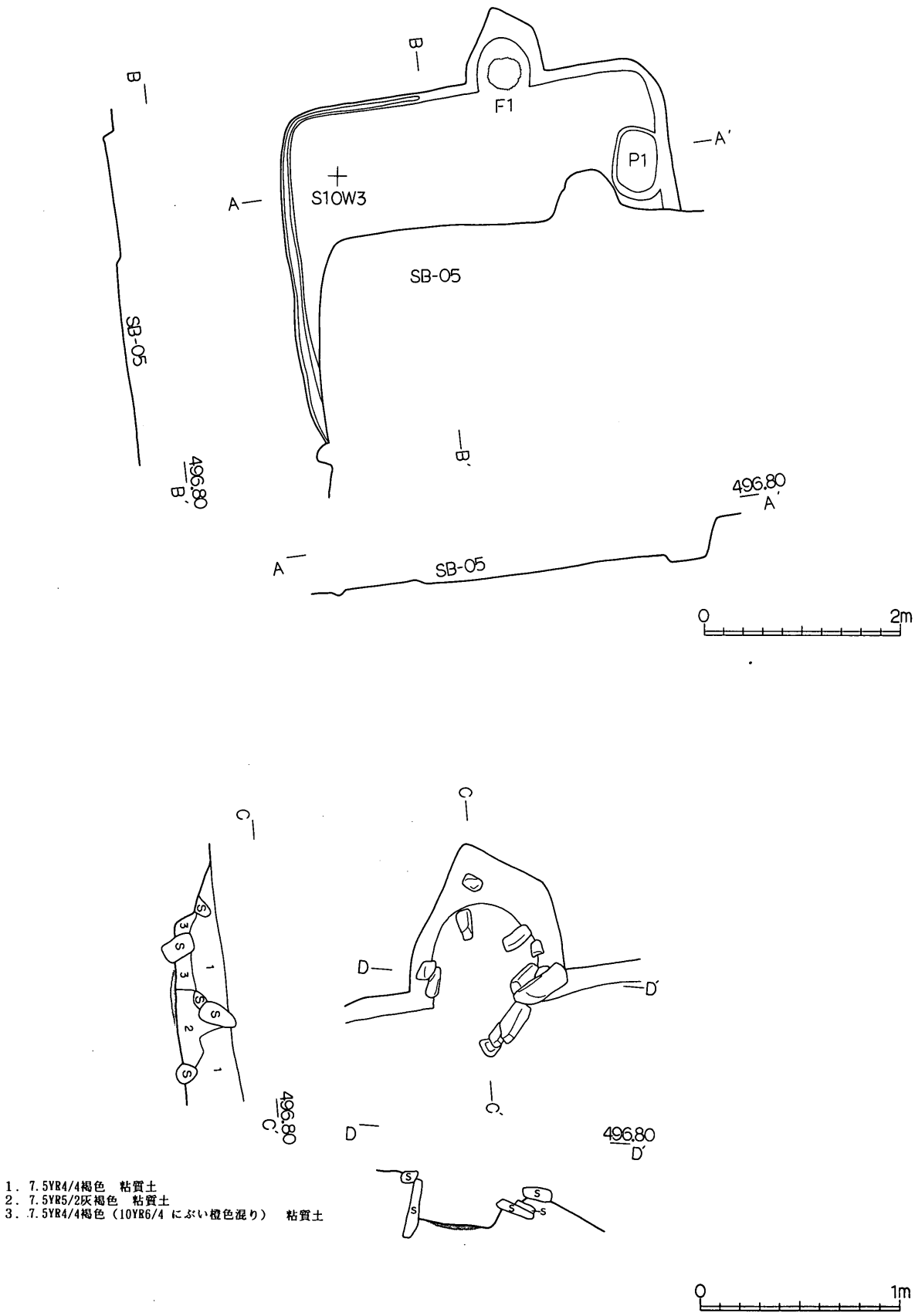
第 5 図　第1号住居址実測図



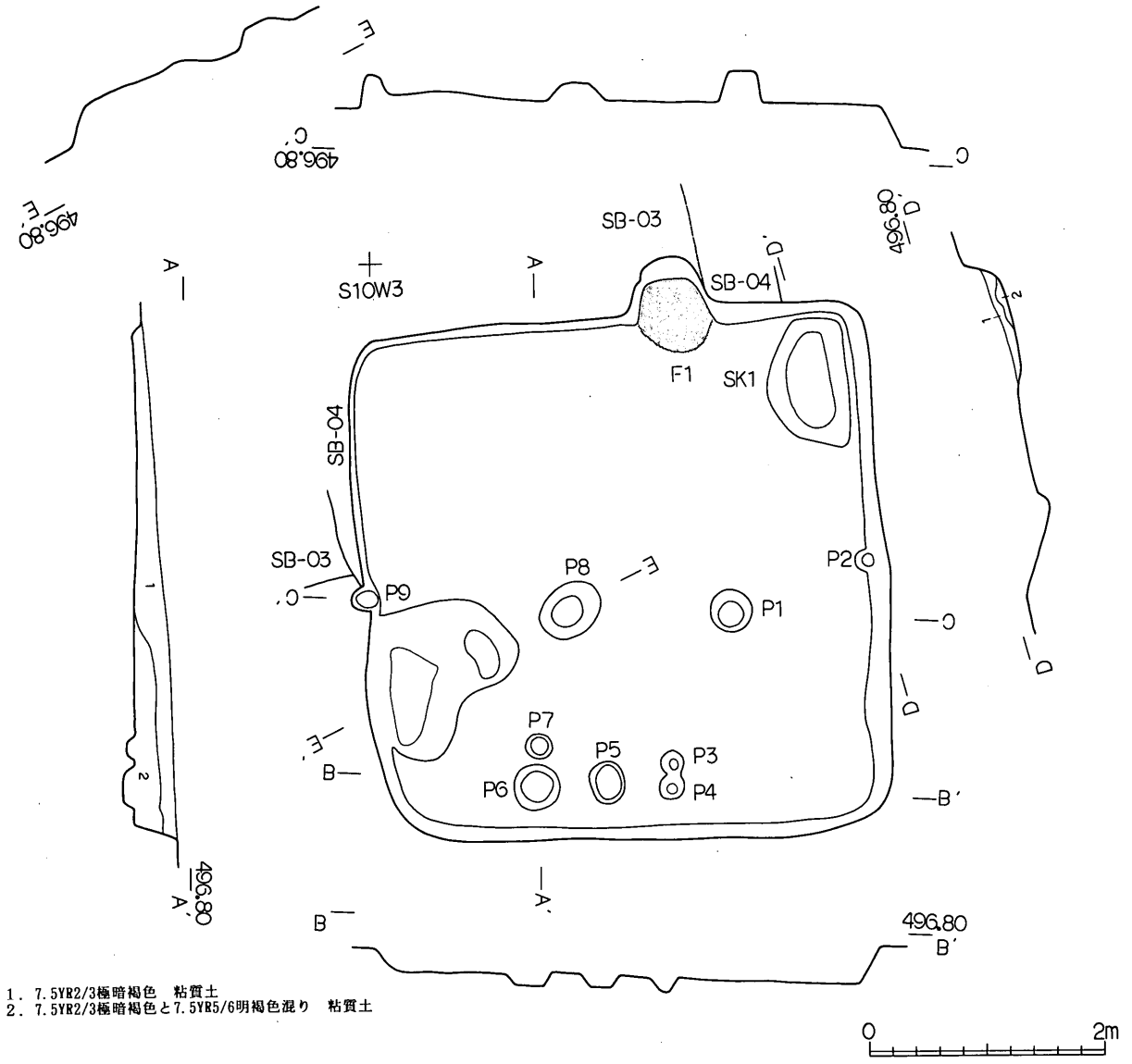
第 6 図　第2号住居址実測図

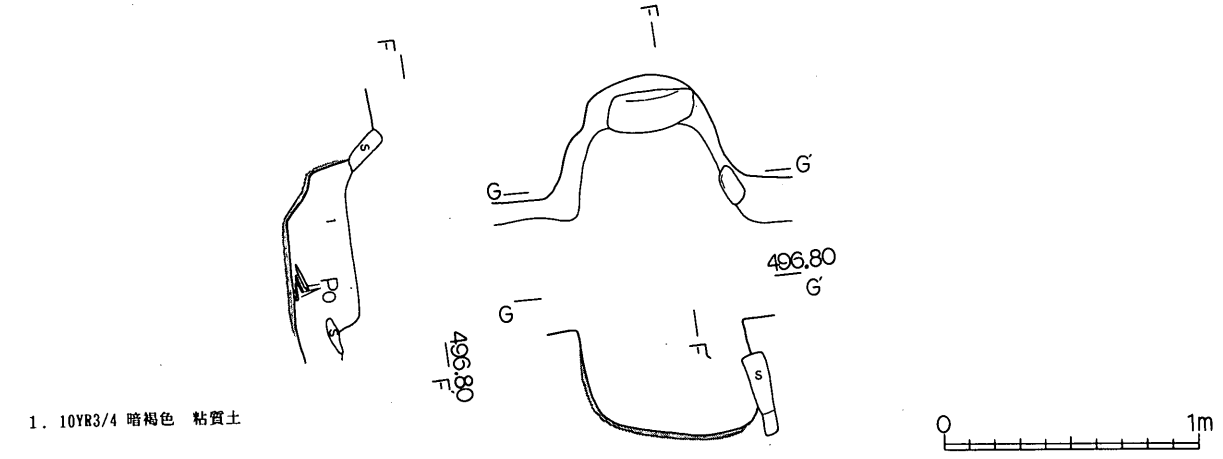


第 7 図 第3号住居址実測図

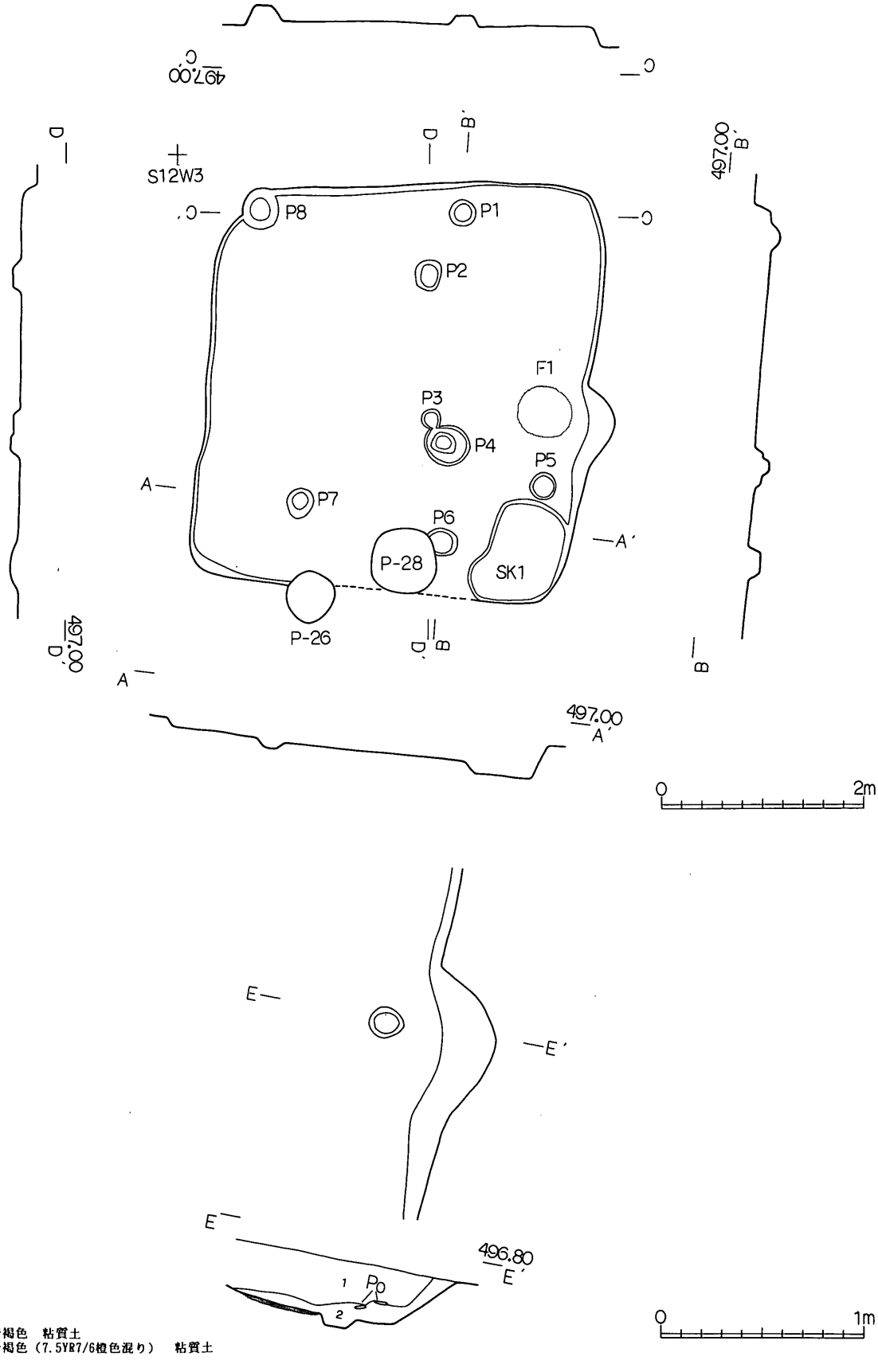


第 8 図　第4号住居址実測図



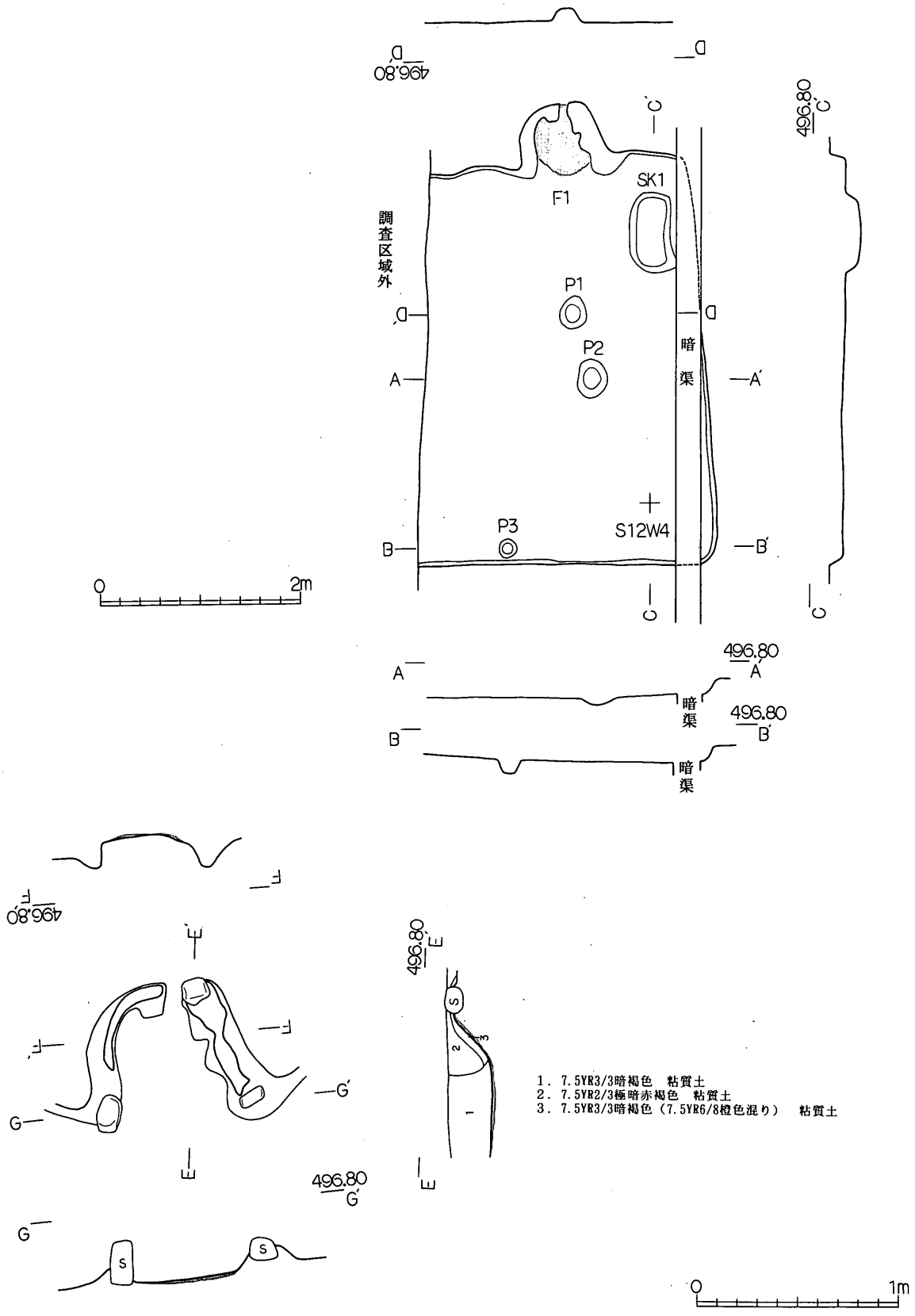


第 9 図　第5号住居址実測図

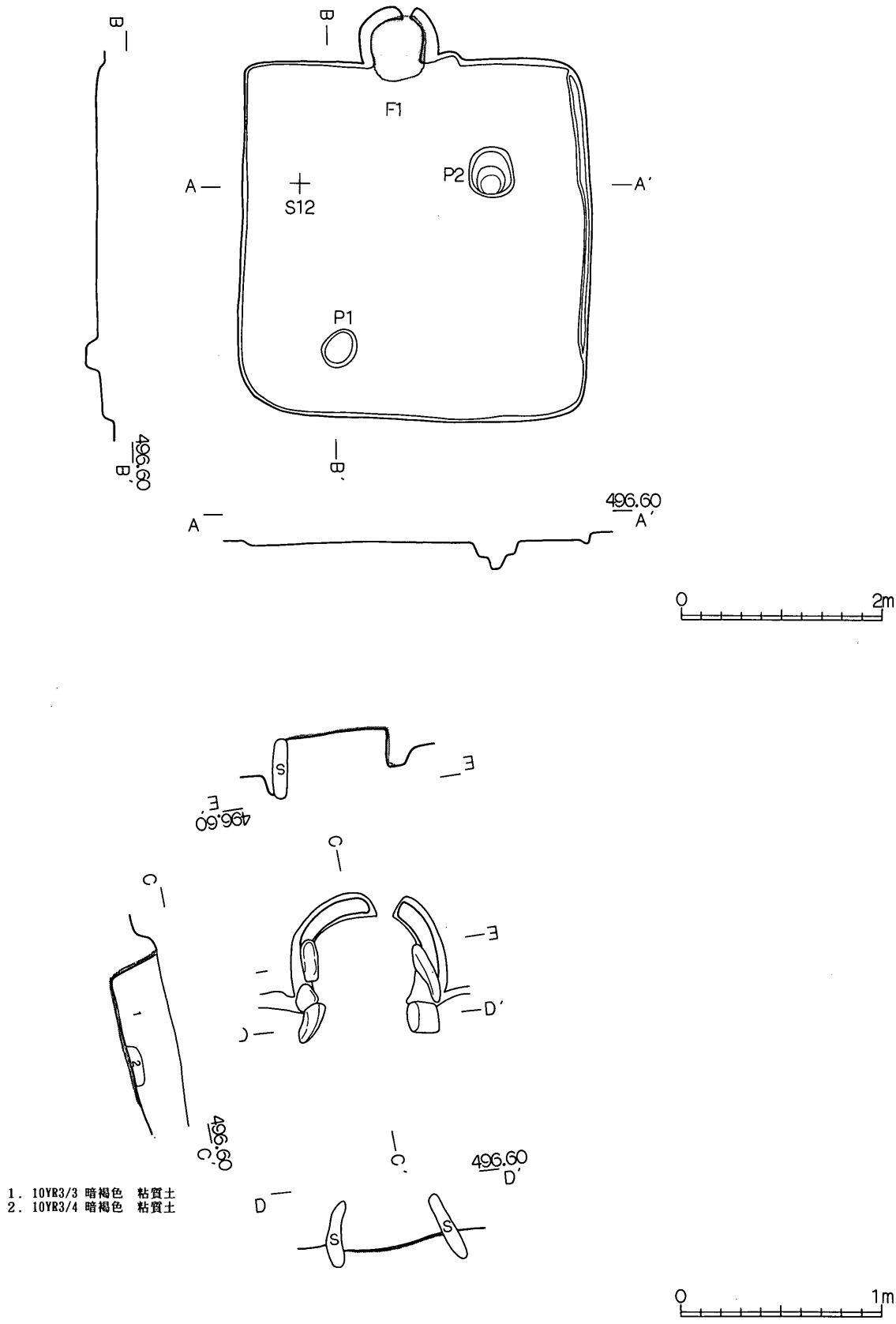


1．7.5YR3/3暗褐色　粘質土
2．7.5YR3/3暗褐色（7.5YR7/6橙色混り）　粘質土

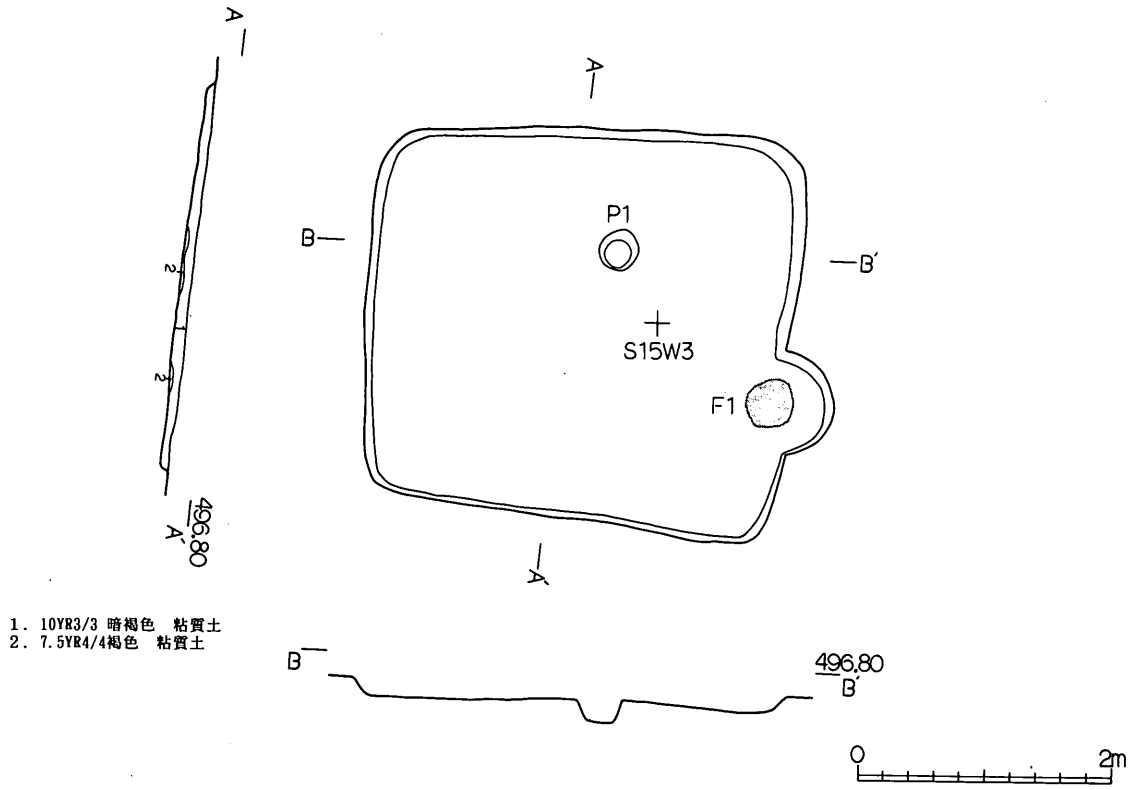
第１０図　第６号住居址実測図

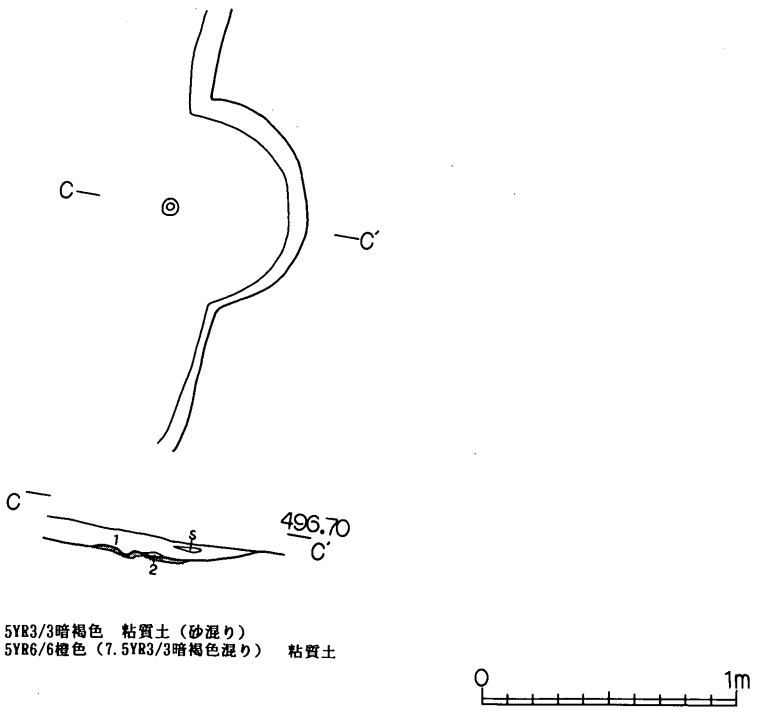


第１１図　第７号住居址実測図

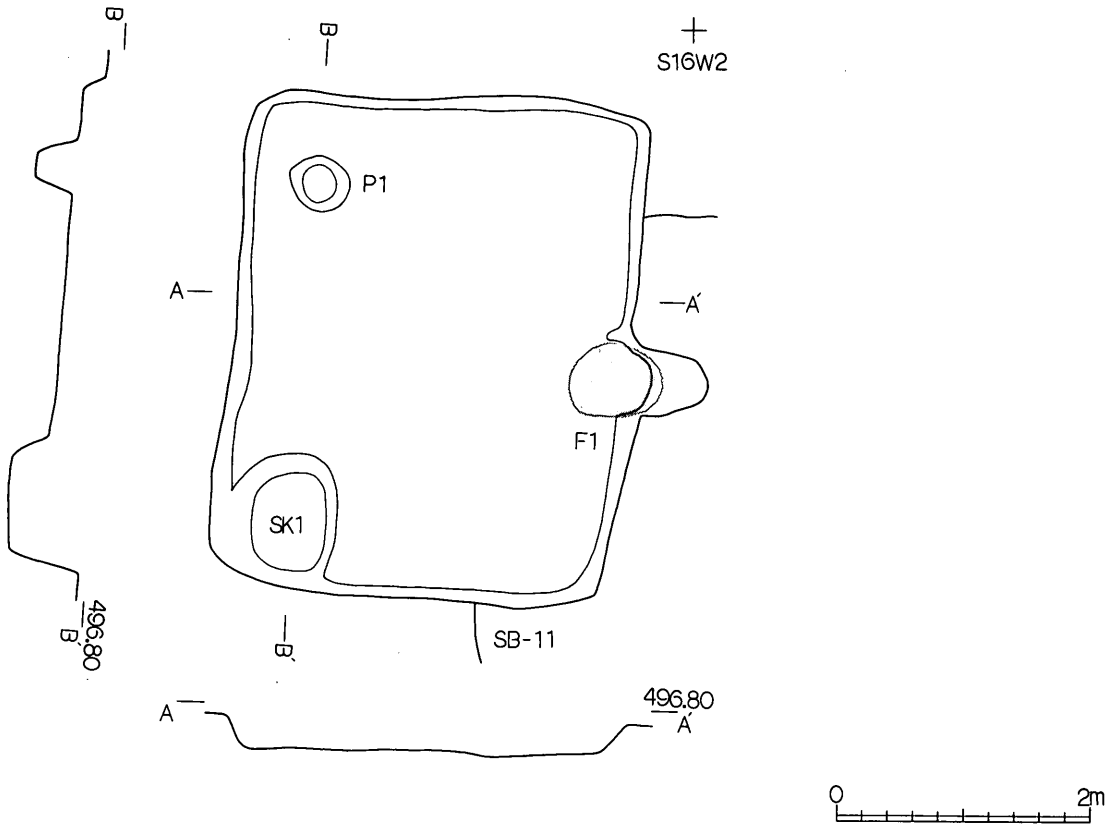


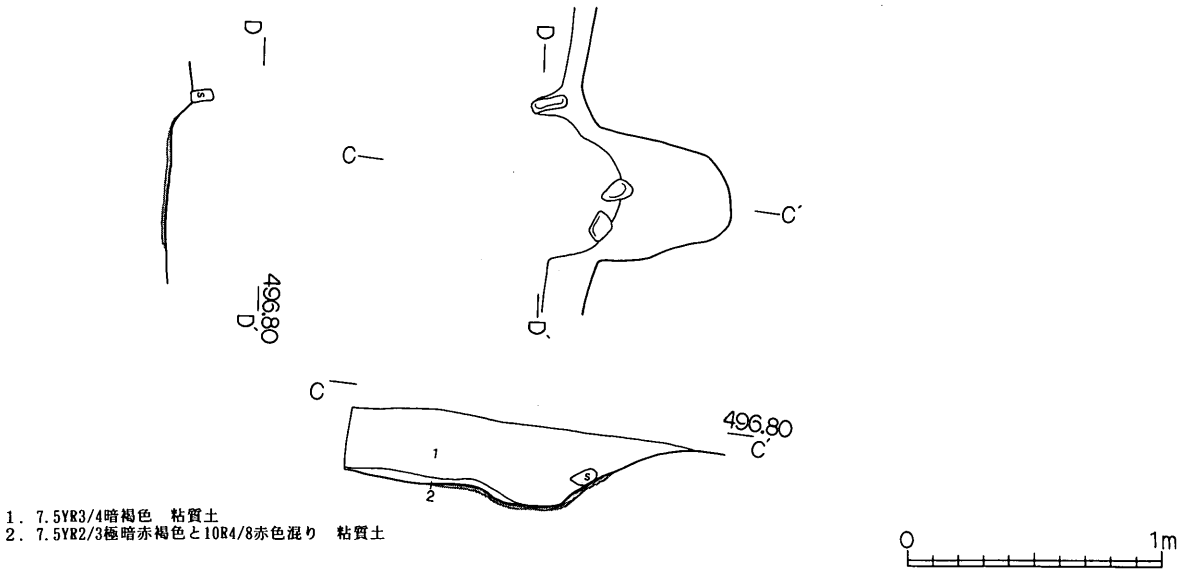
第１２図　第８号住居址実測図





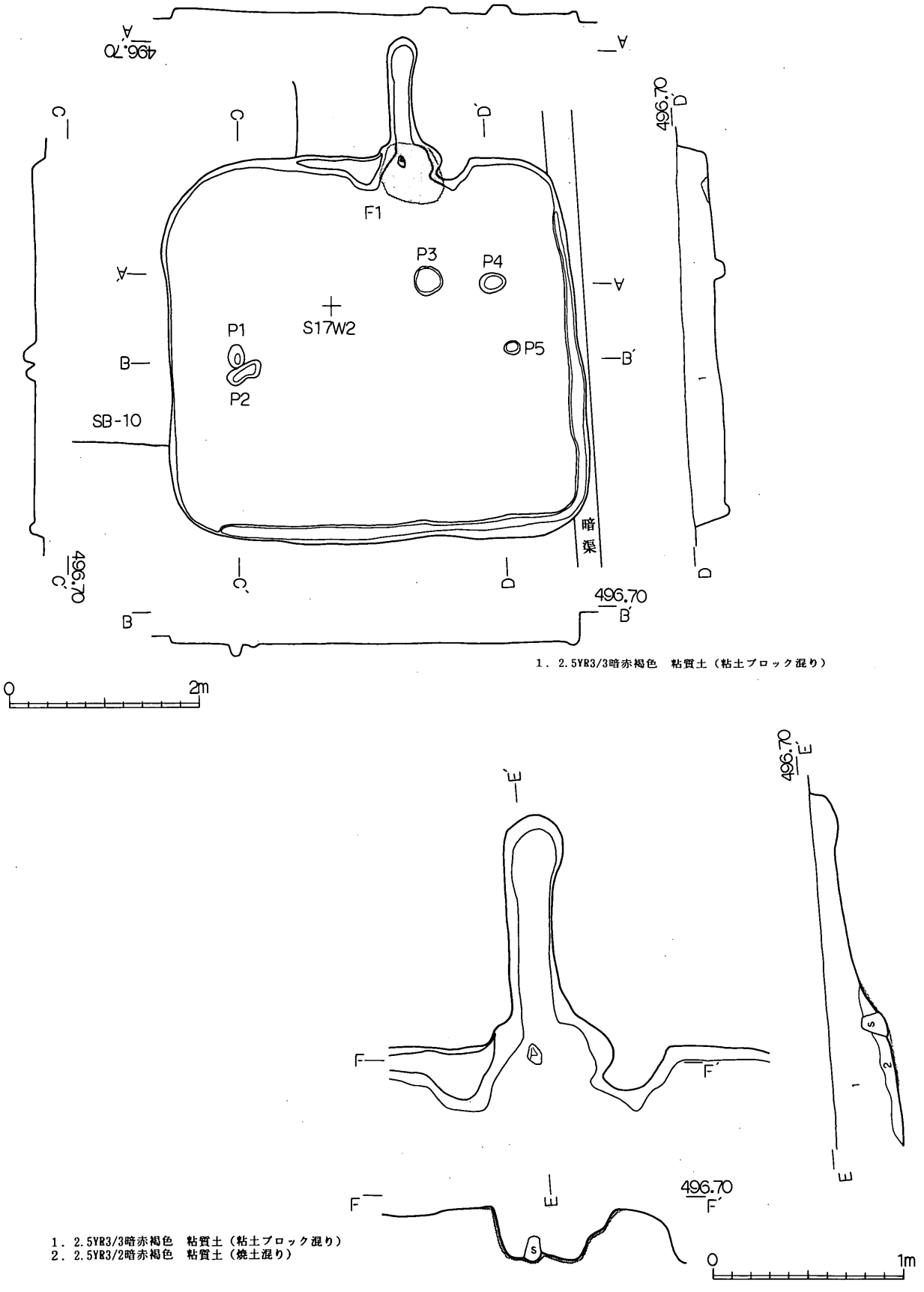
第１３図　第９号住居址実測図



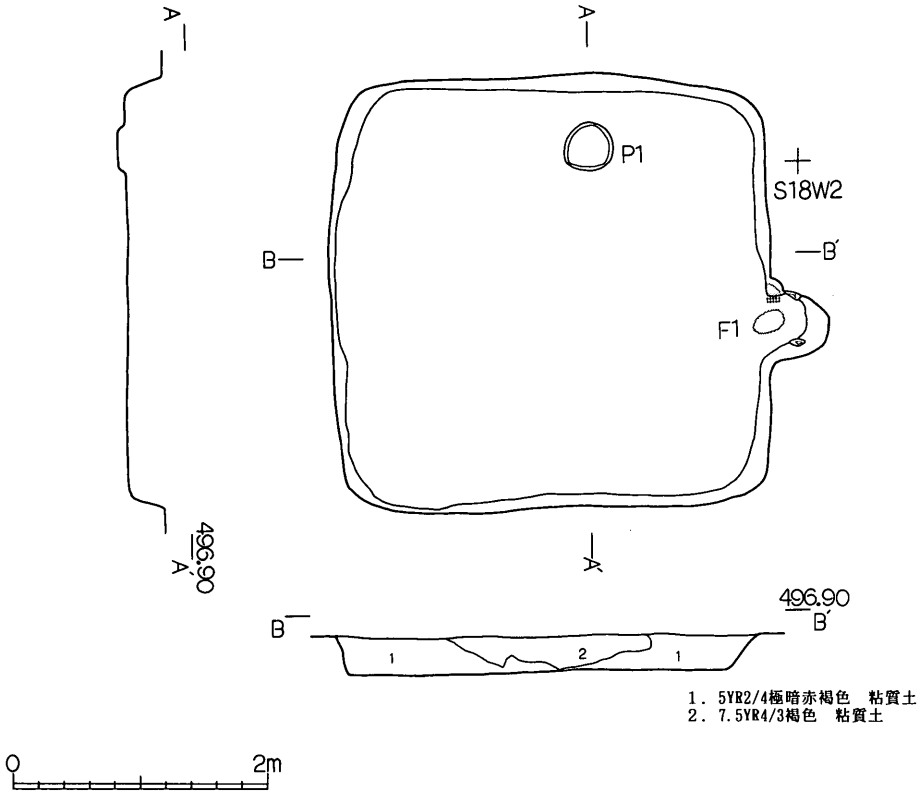


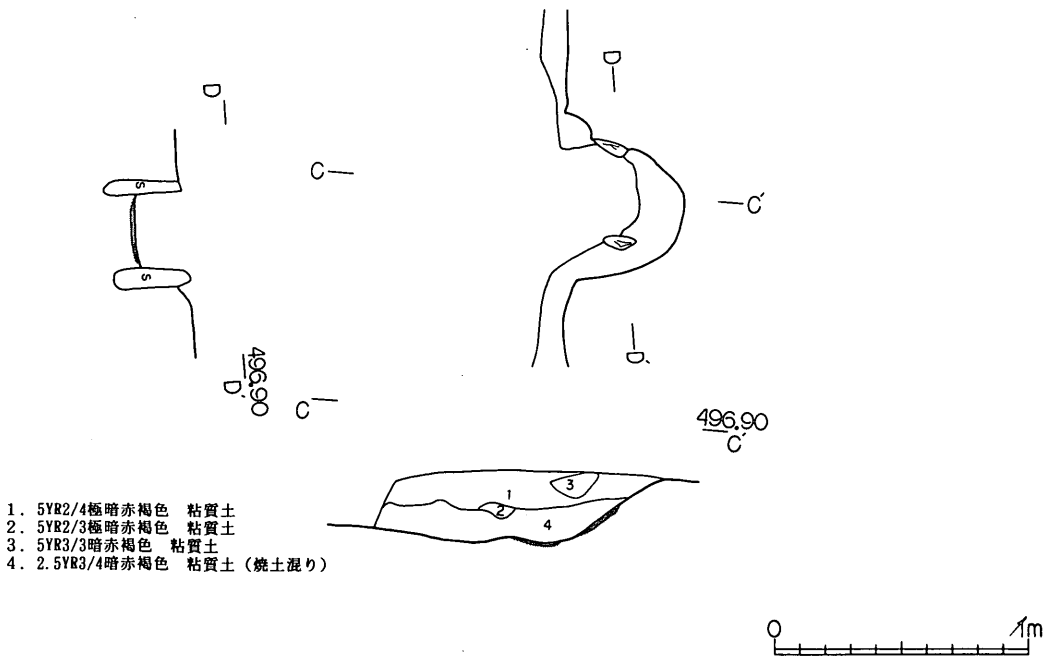
1．7.5YR3/4暗褐色　粘質土
2．7.5YR2/3極暗赤褐色と10R4/8赤色混り　粘質土

第１４図　第１０号住居址実測図

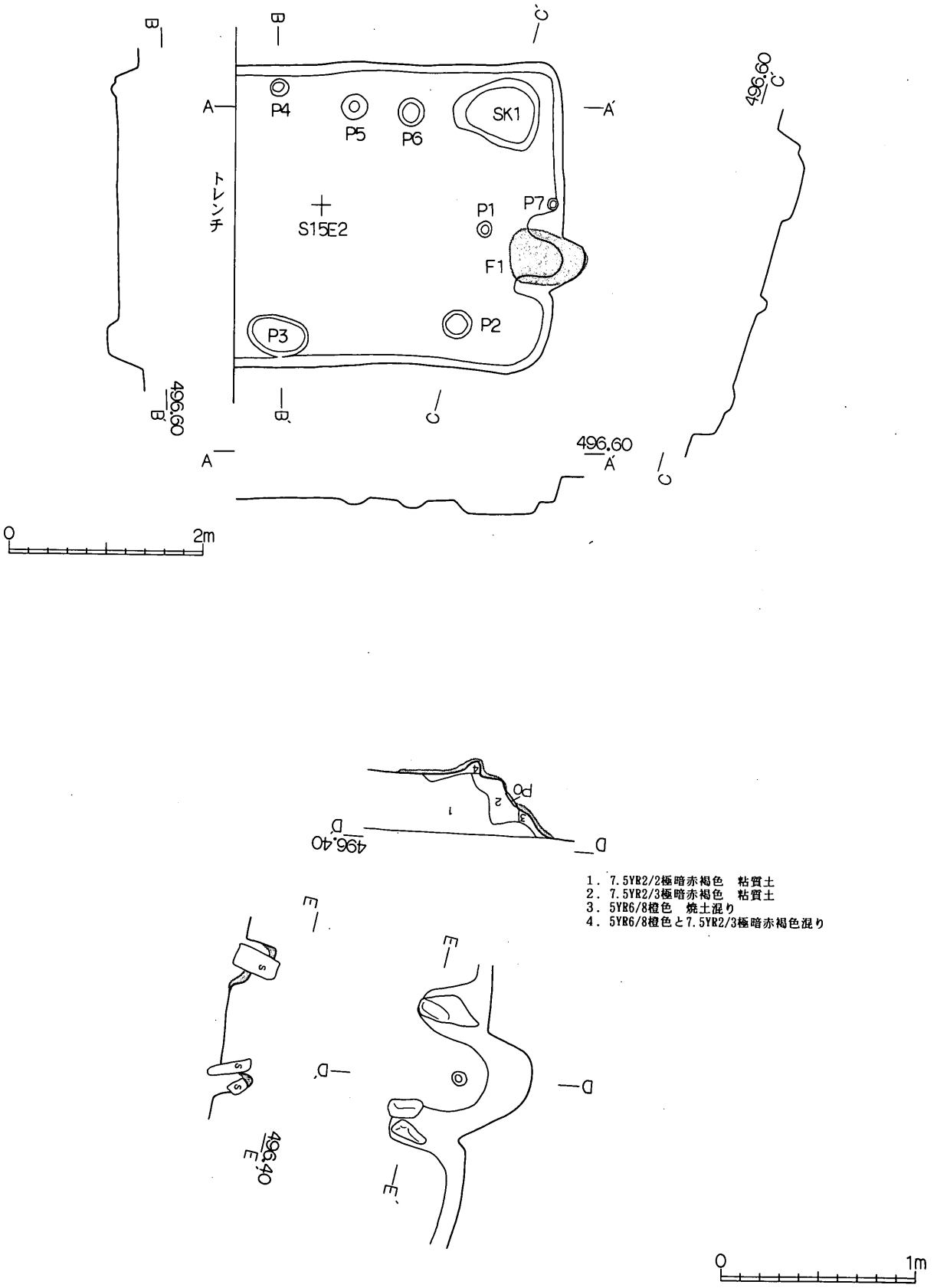


第１５図　第１１号住居址実測図

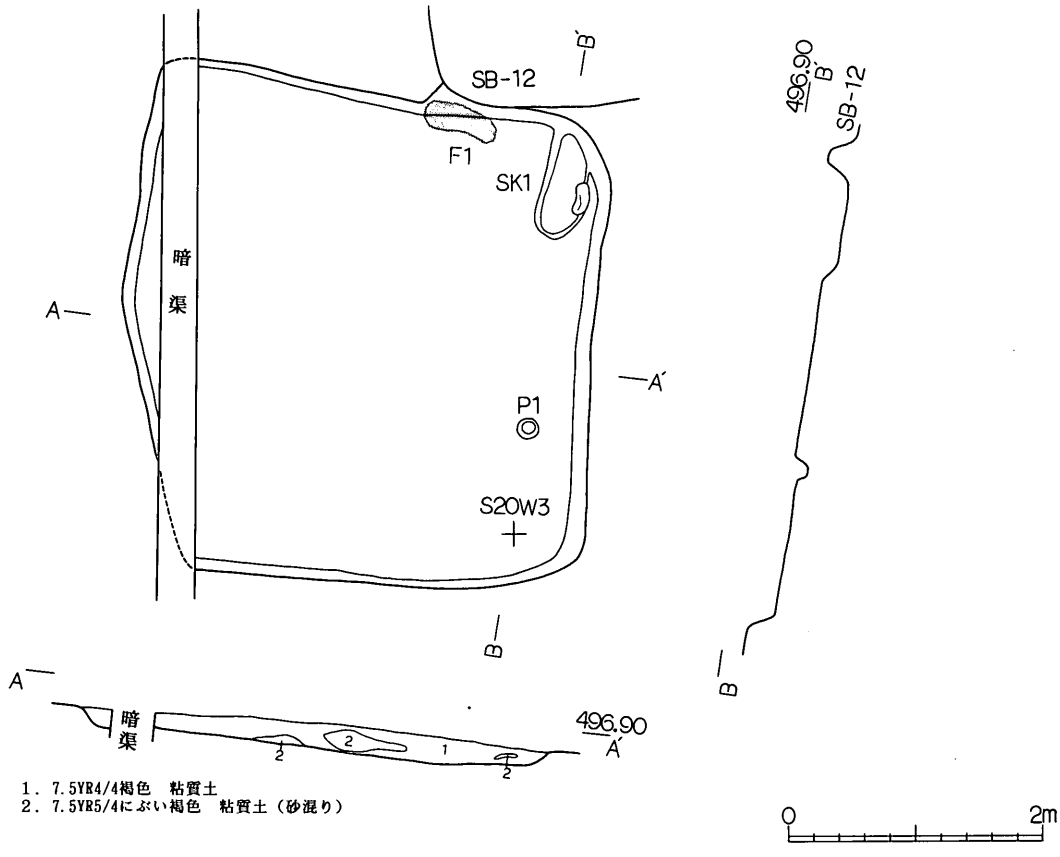


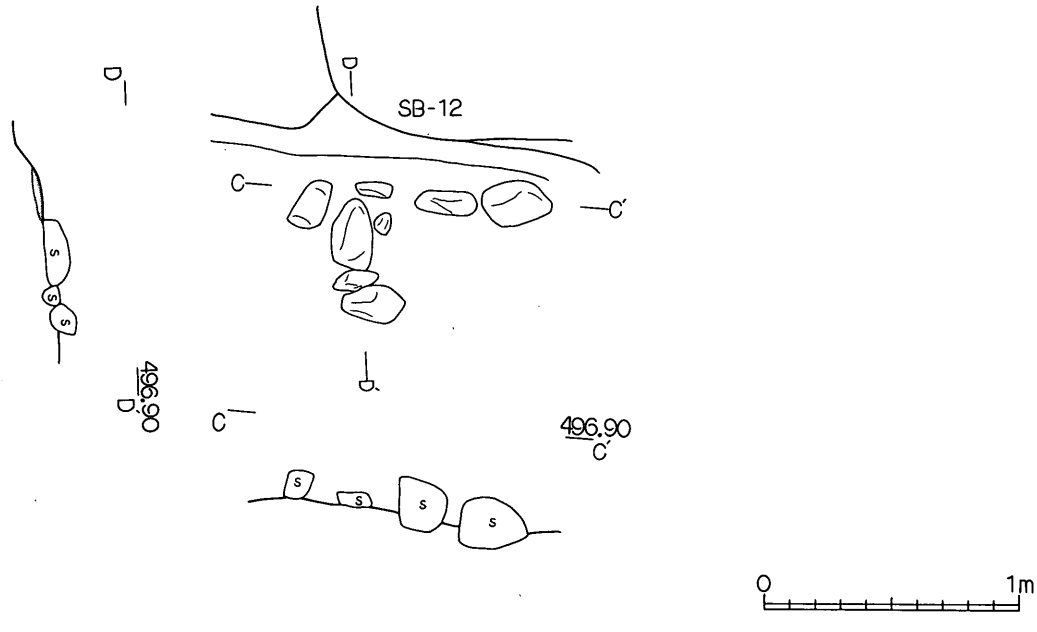


第１６図　第１２号住居址実測図

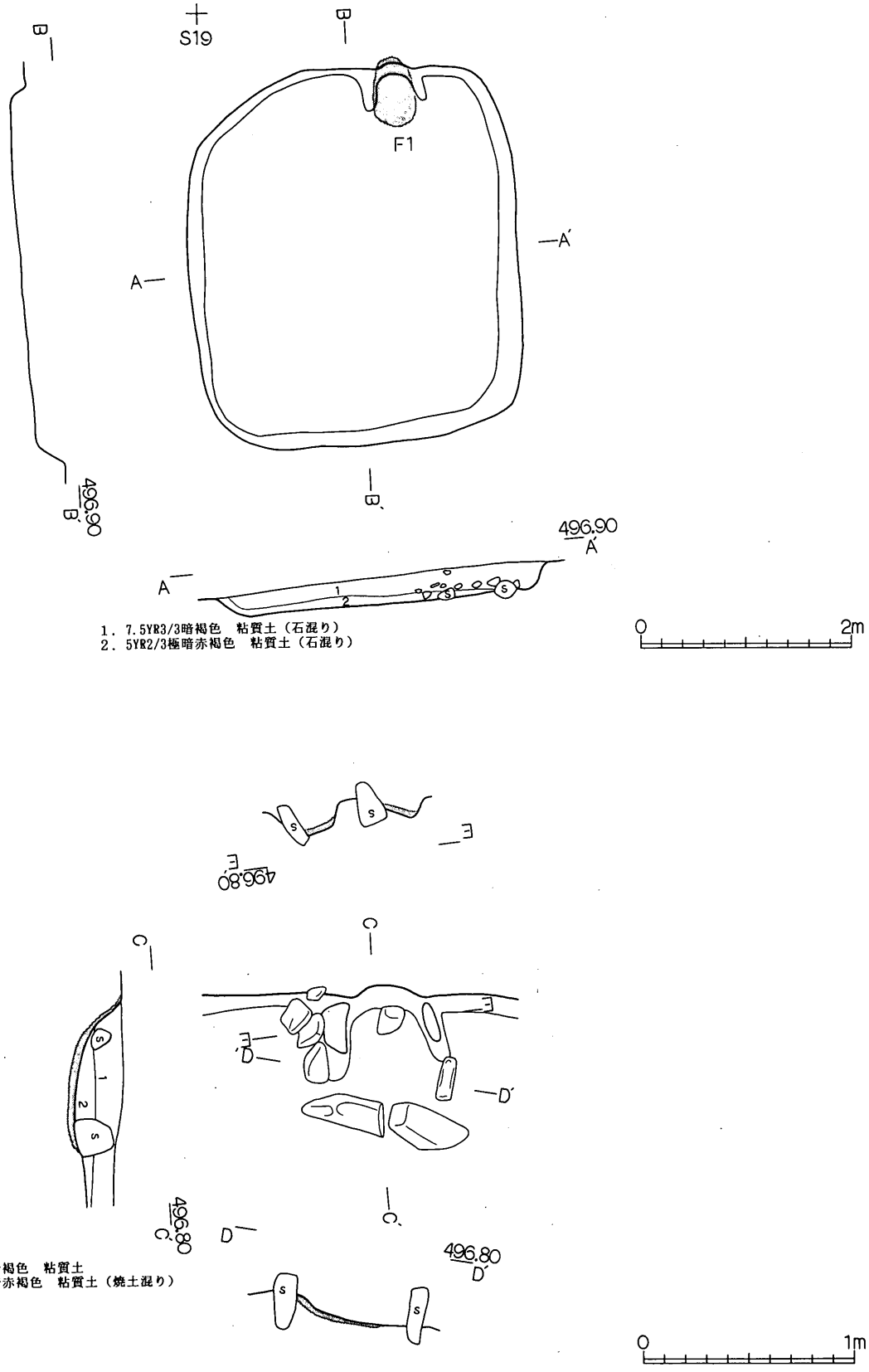


第１７図　第１３号住居址実測図

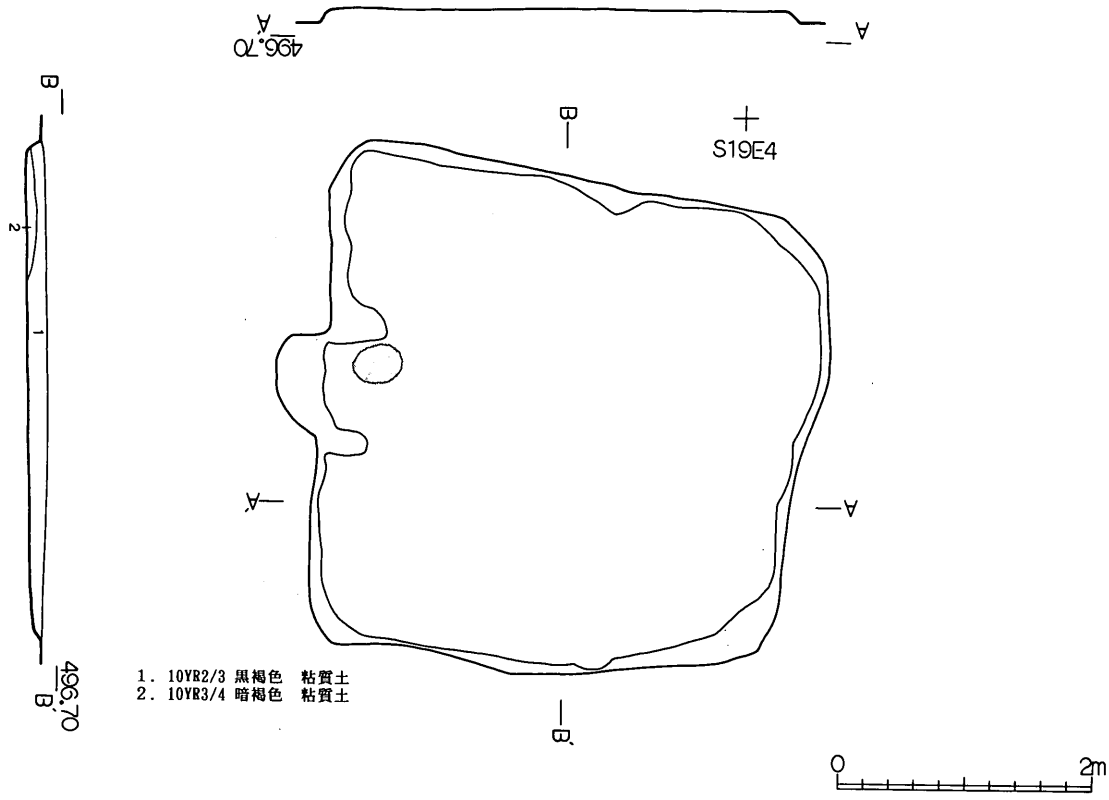


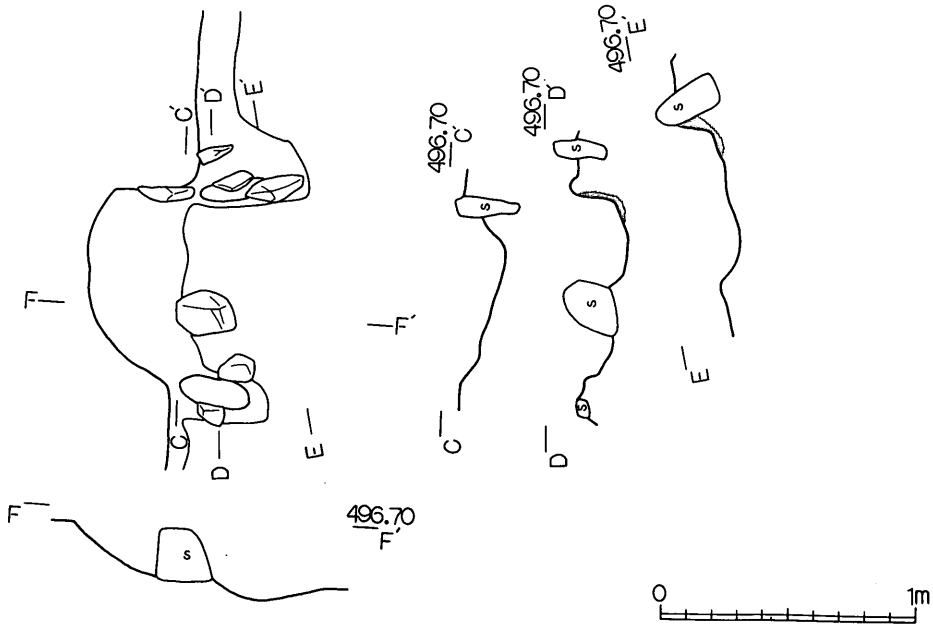


第１８図　第１４号住居址実測図

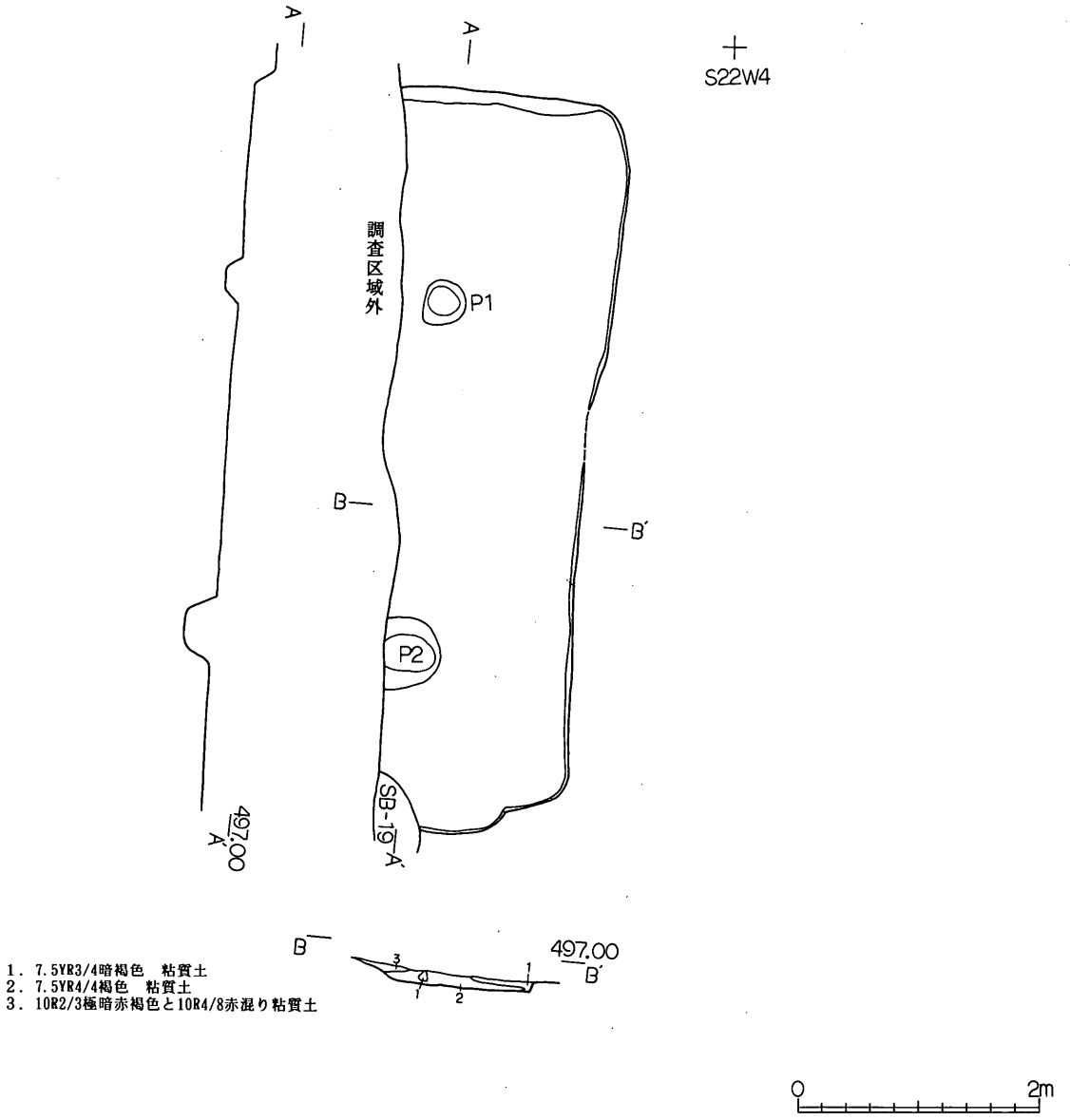


第１９図　第１５号住居址実測図

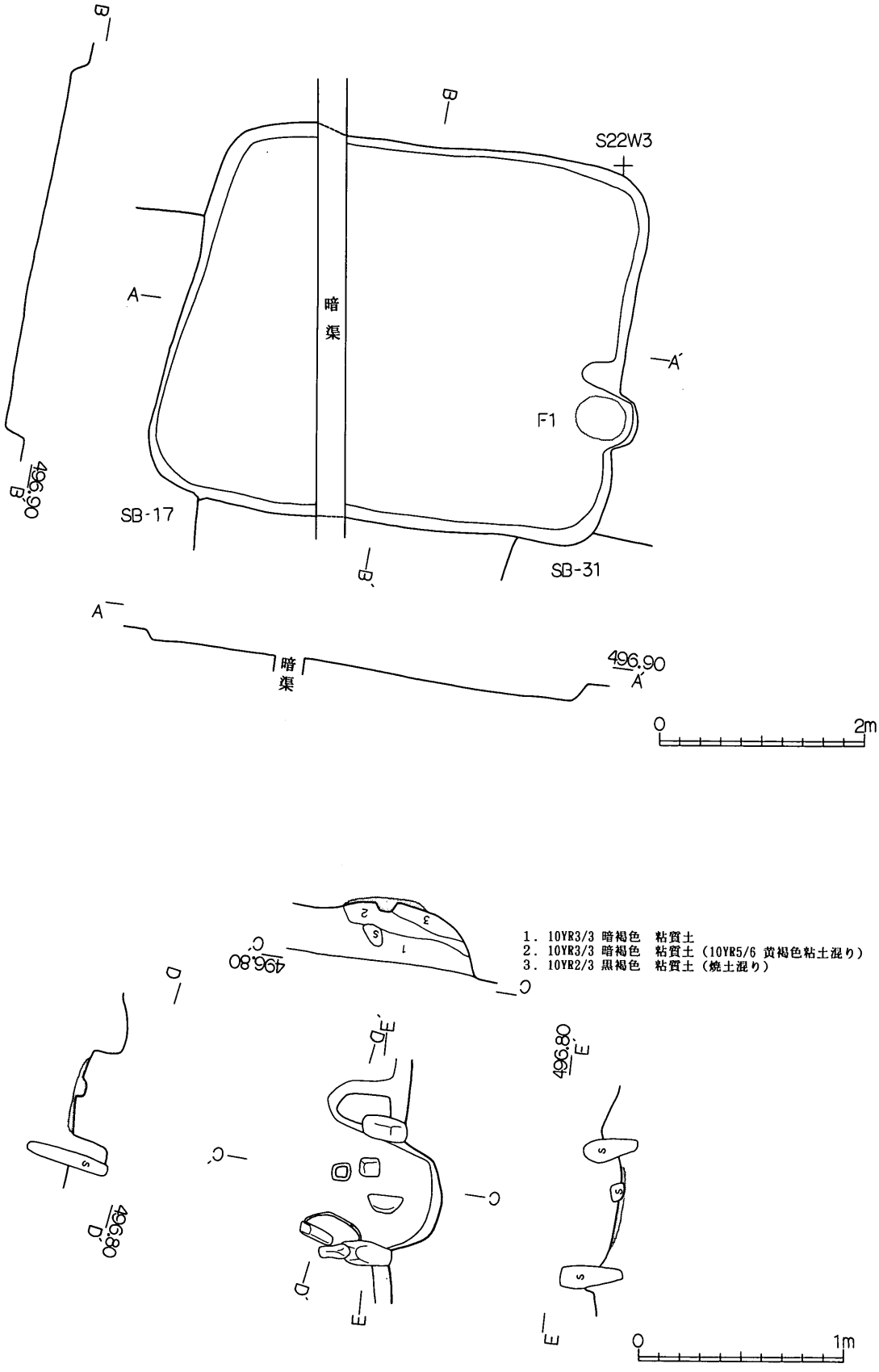




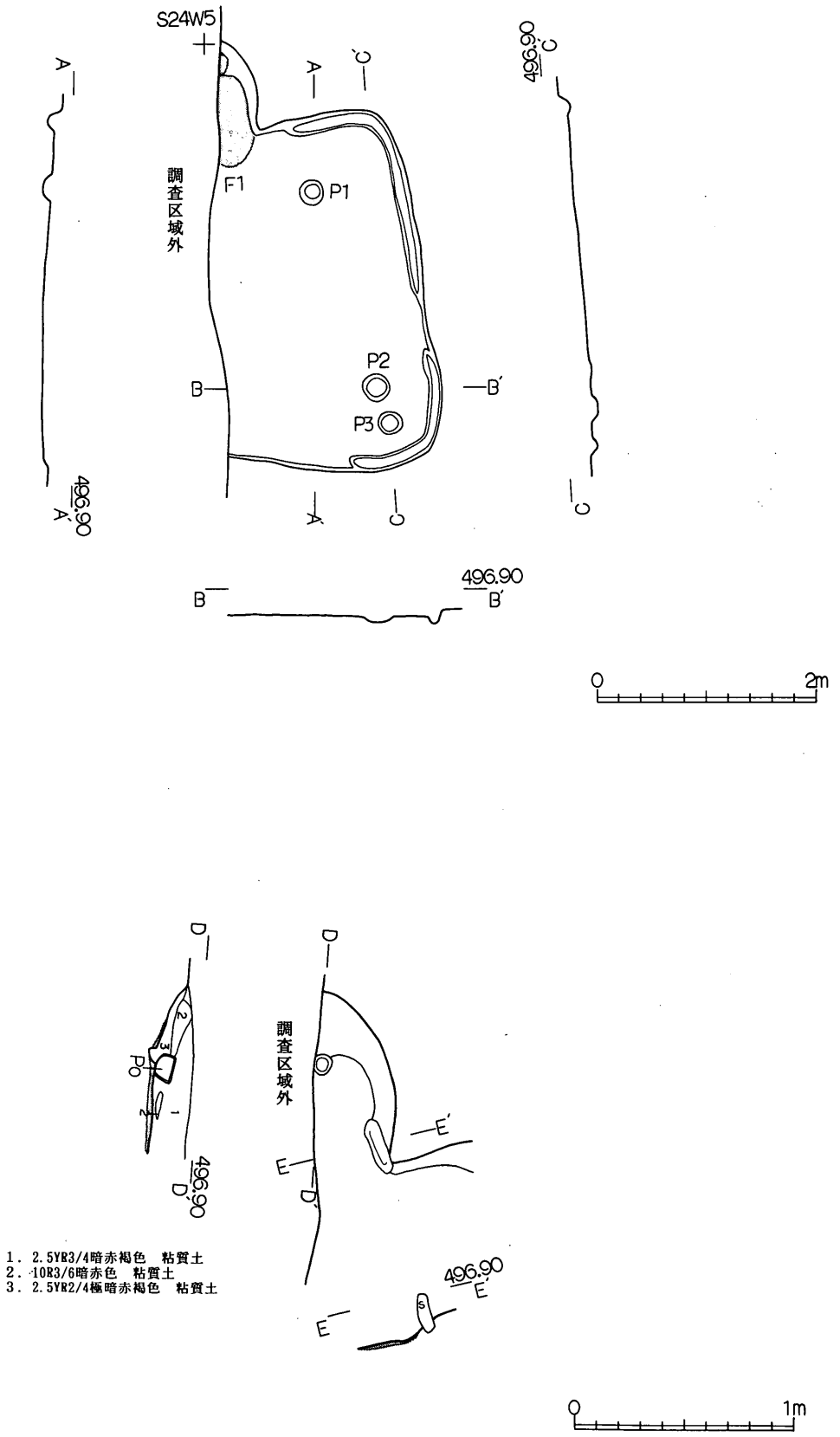
第２０図　第１６号住居址実測図



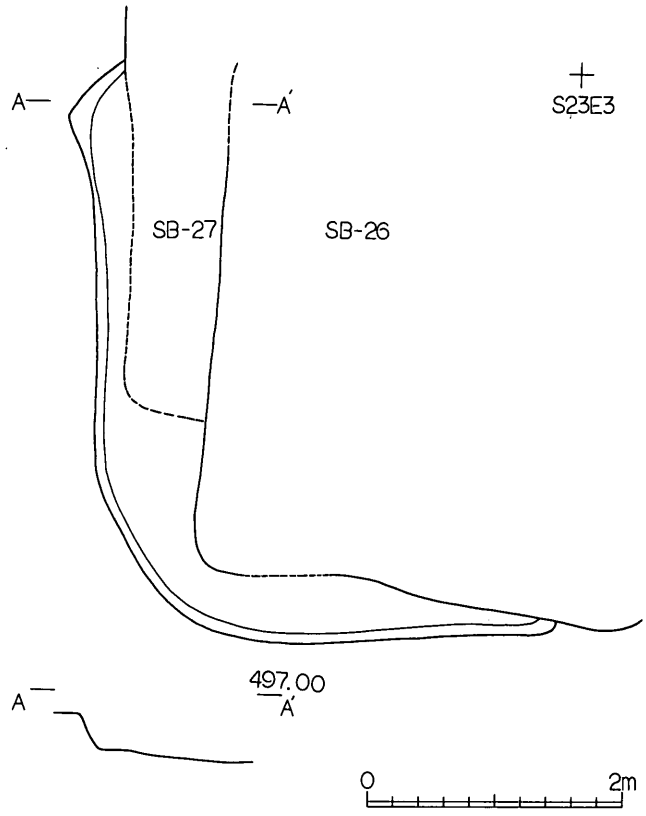
第２１図　第１７号住居址実測図



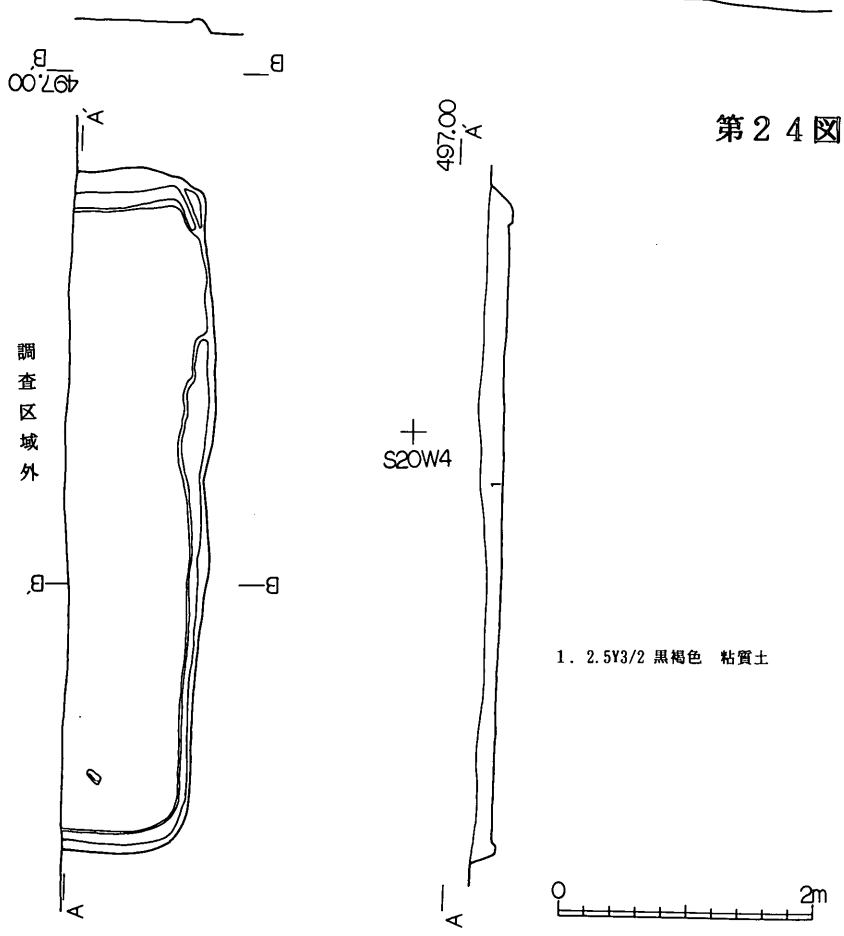
第２２図　第１８号住居址実測図



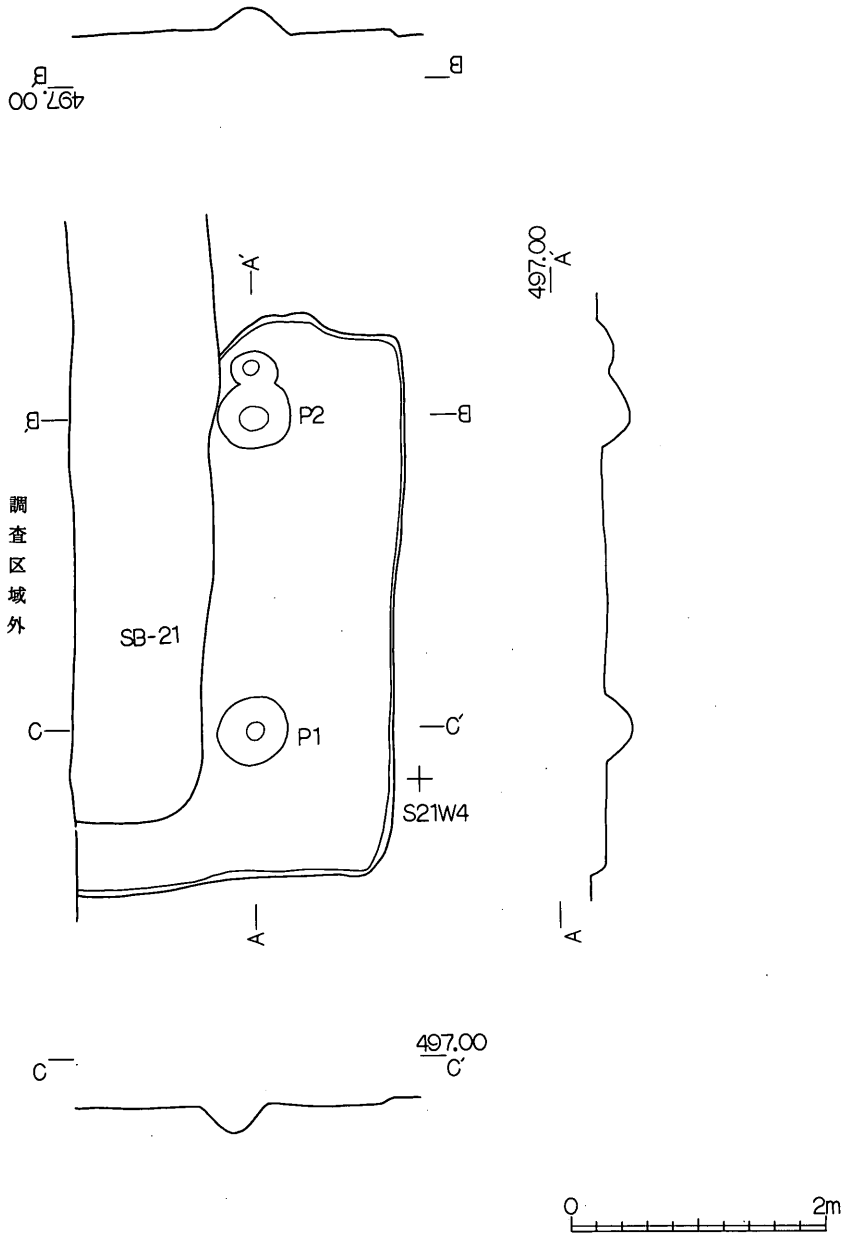
第２３図　第１９号住居址実測図



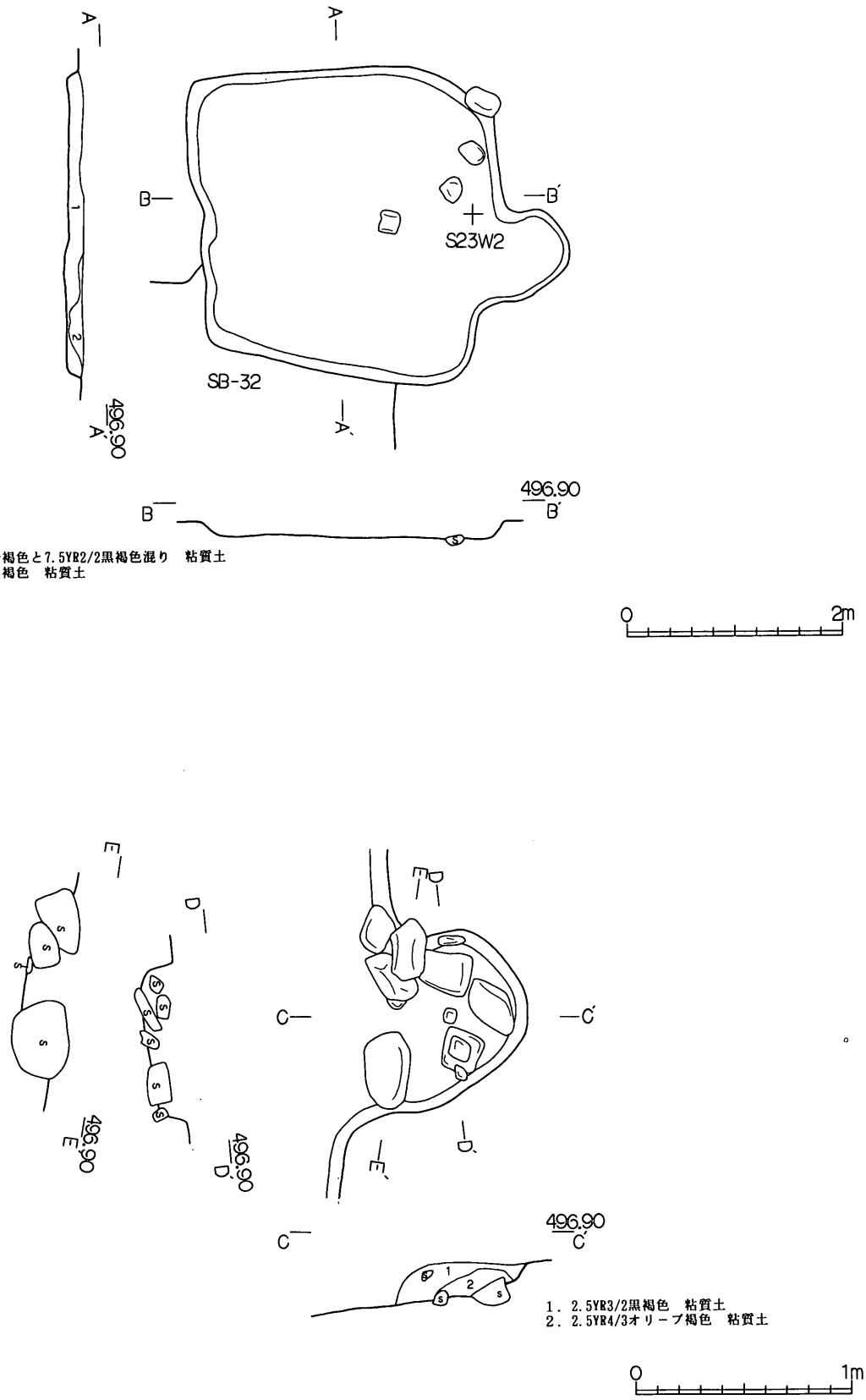
第２４図　第２０号住居址実測図



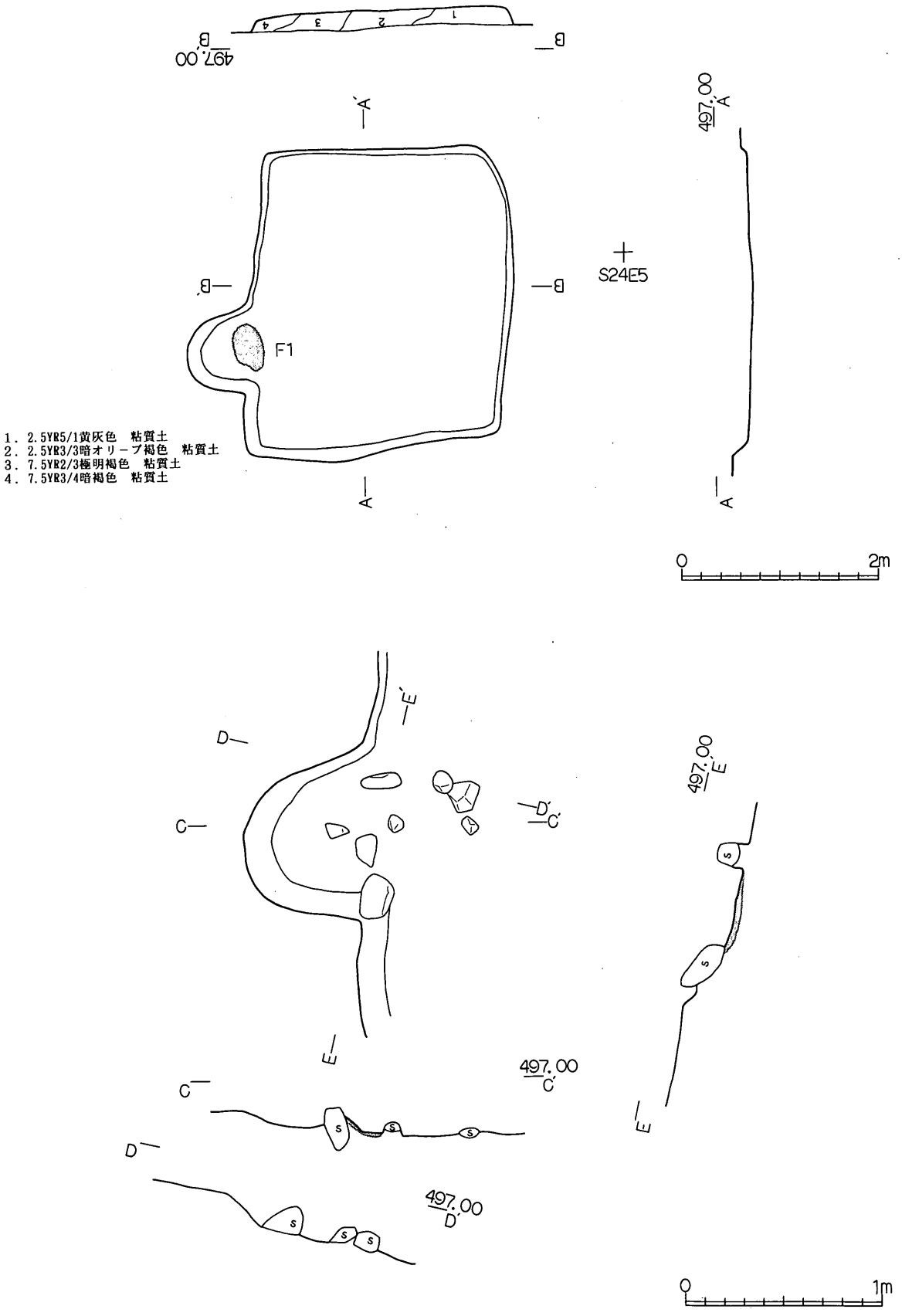
第２５図　第２１号住居址実測図



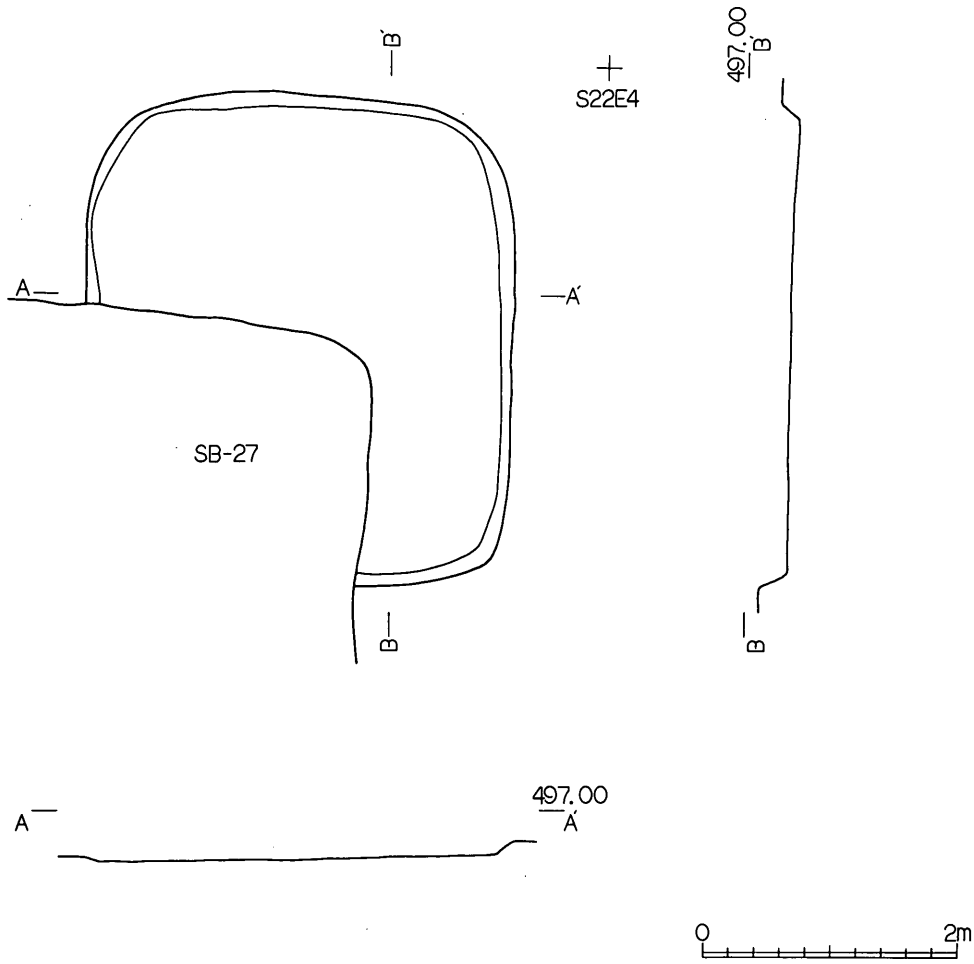
第２６図　第２２号住居址実測図



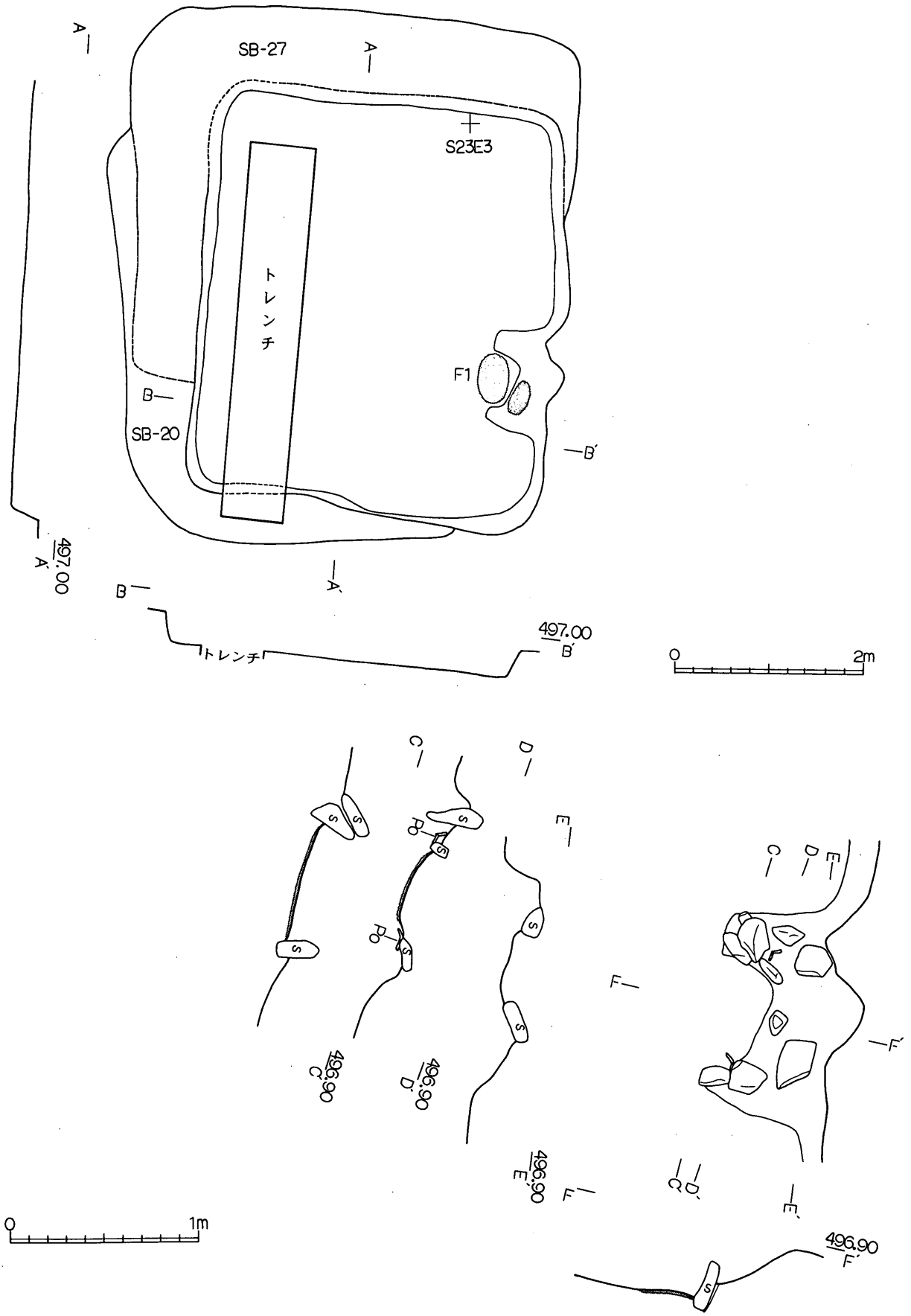
第２７図　第２３号住居址実測図



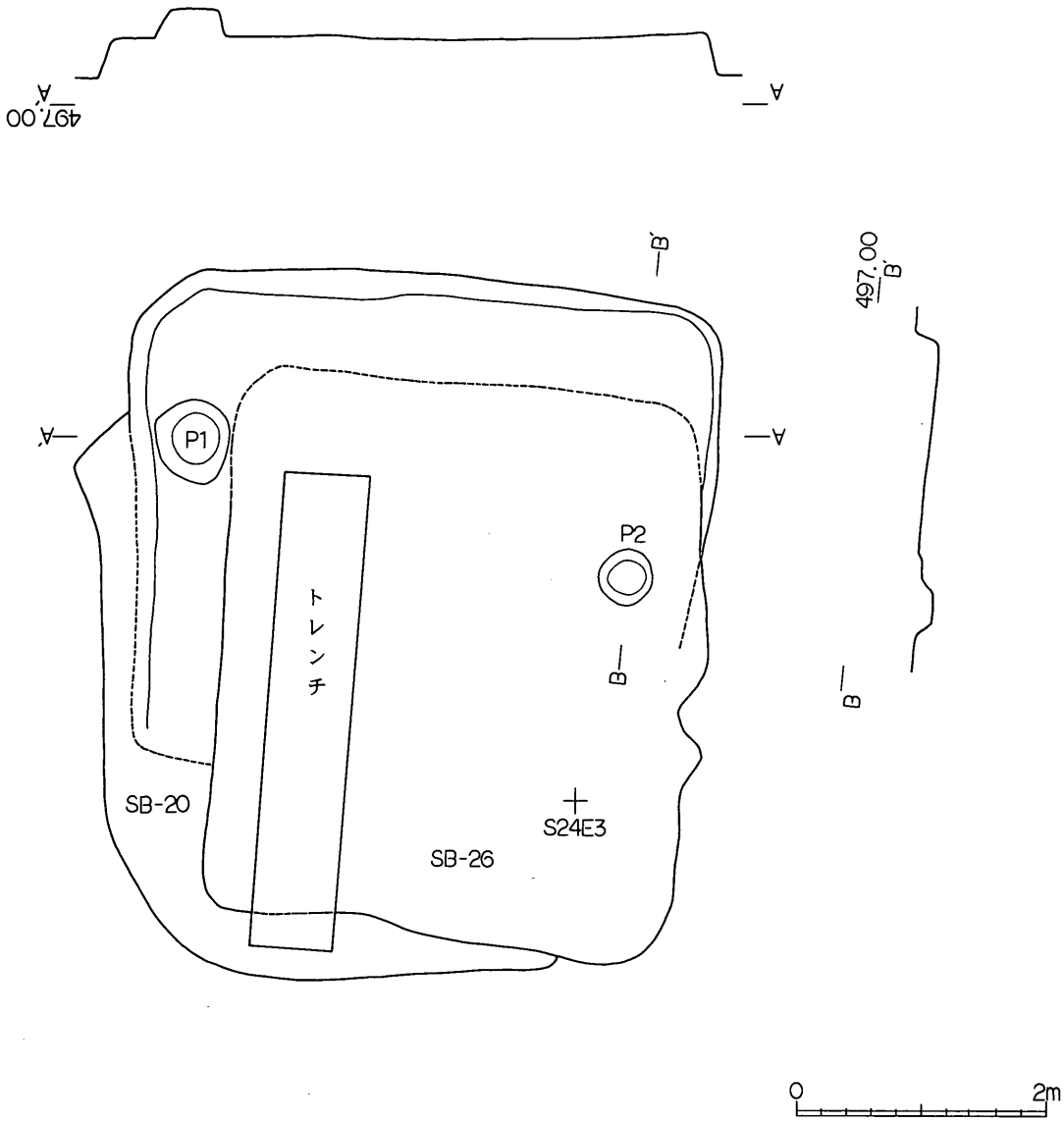
第２８図　第２４号住居址実測図



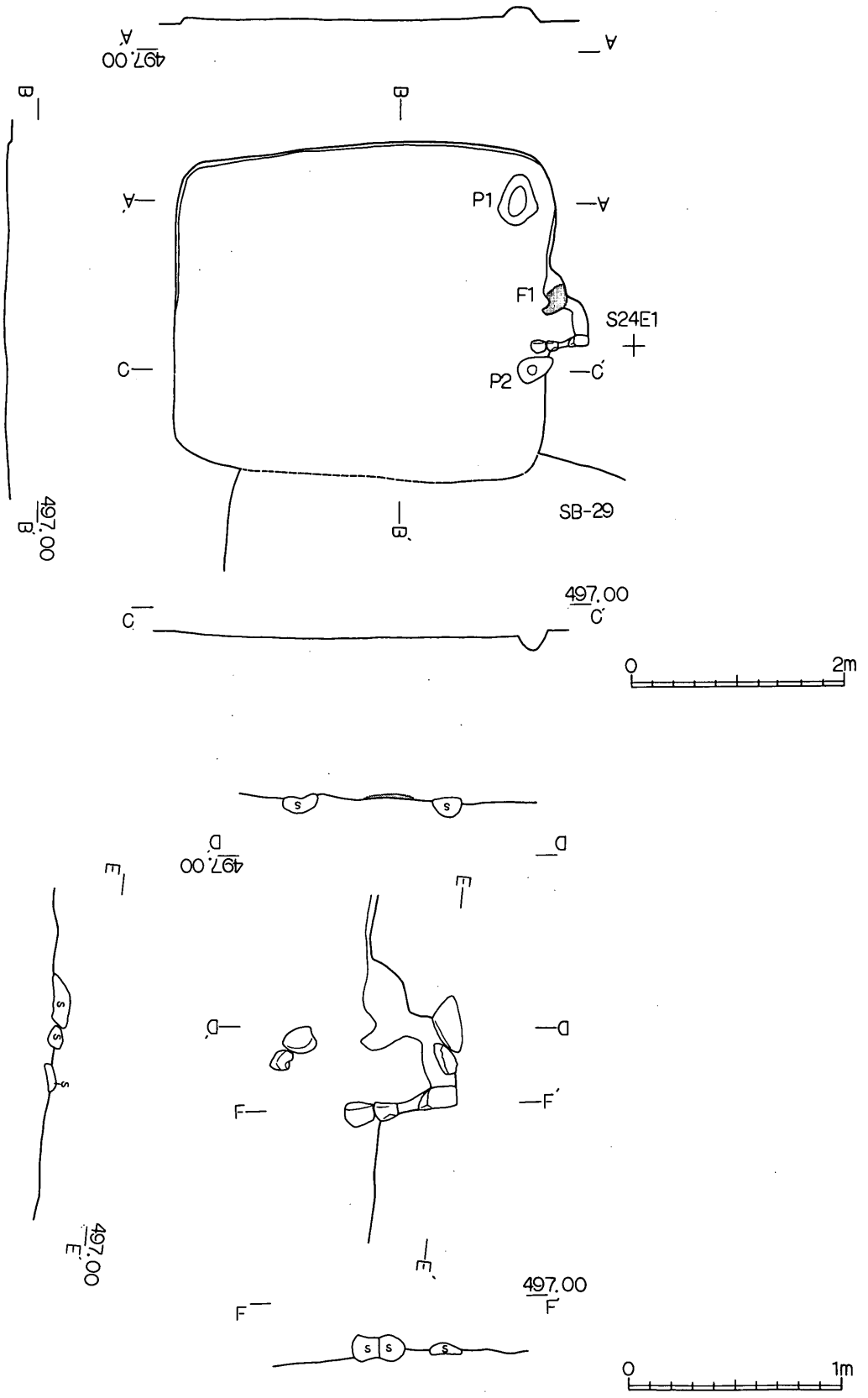
第２９図　第２５号住居址実測図



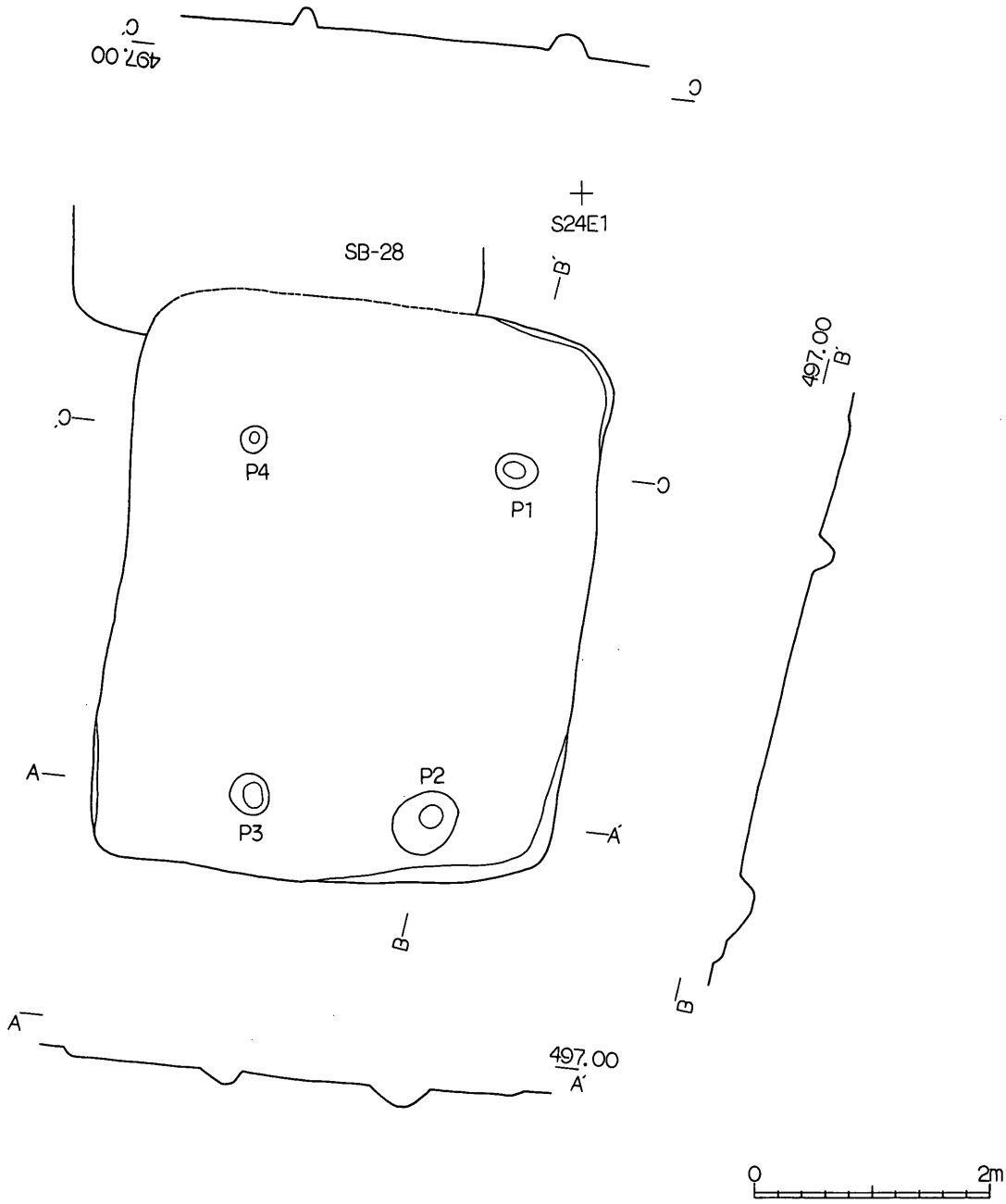
第３０図　第２６号住居址実測図



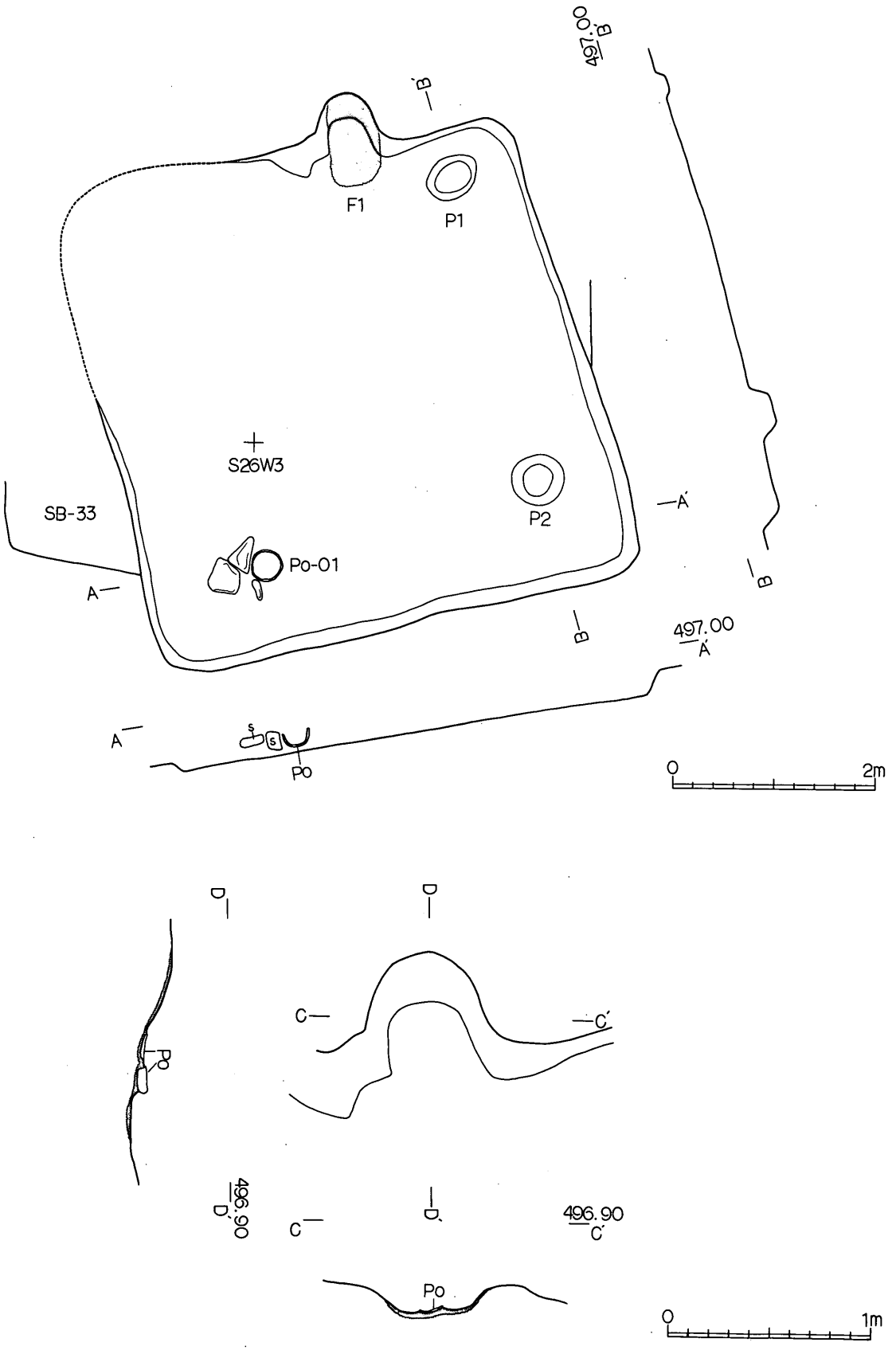
第３１図　第２７号住居址実測図



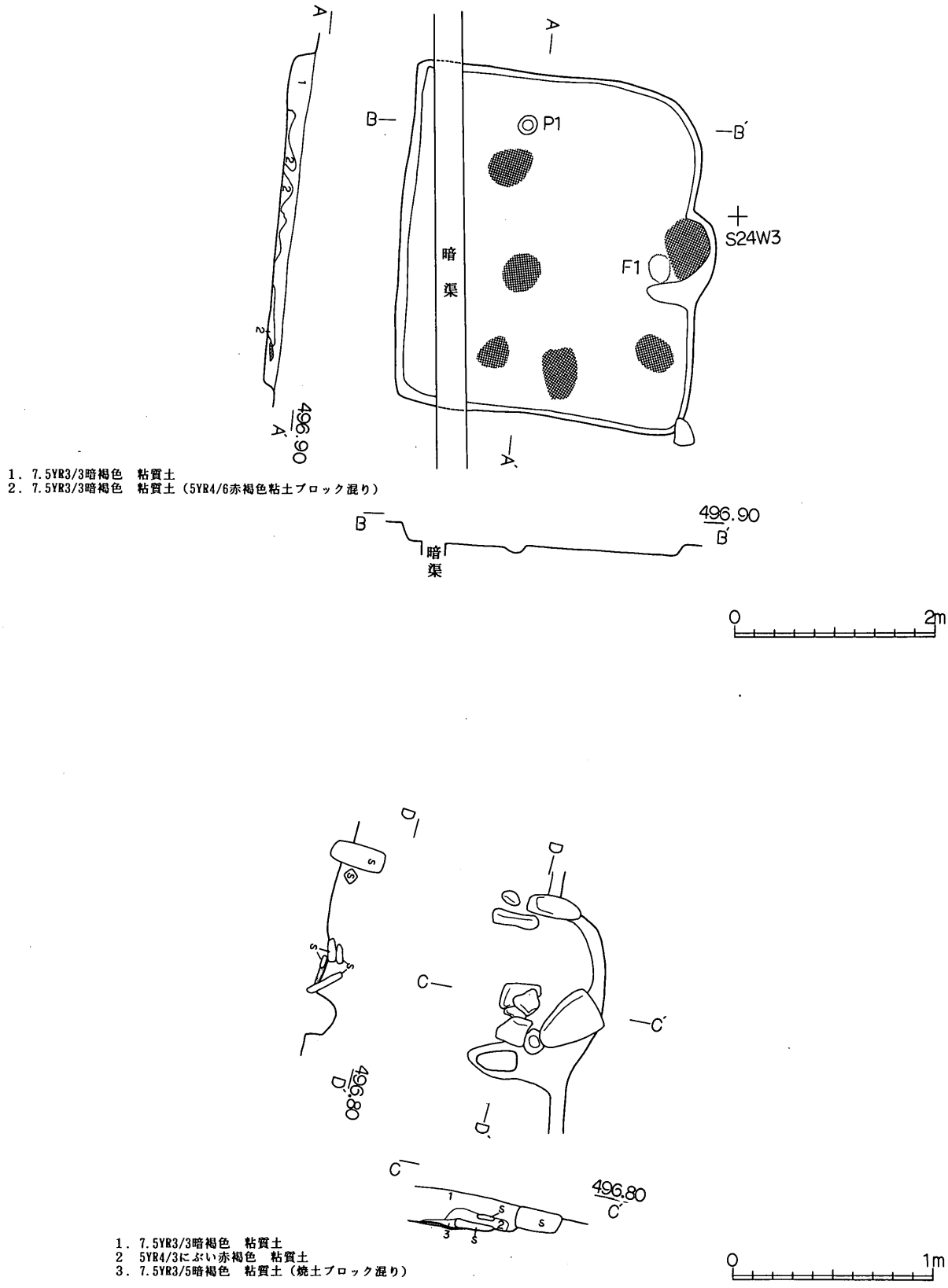
第３２図　第２８号住居址実測図



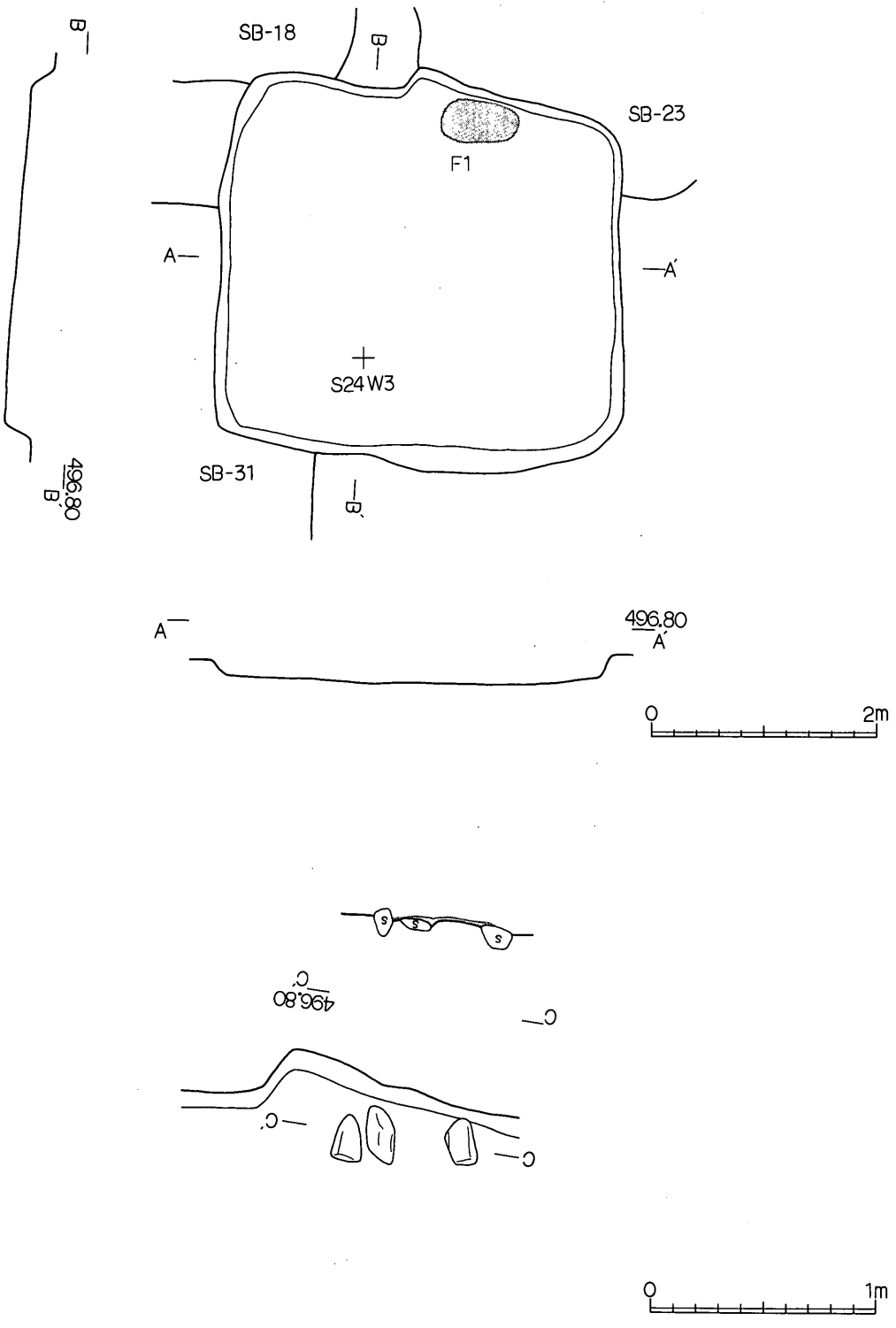
第３３図　第２９号住居址実測図



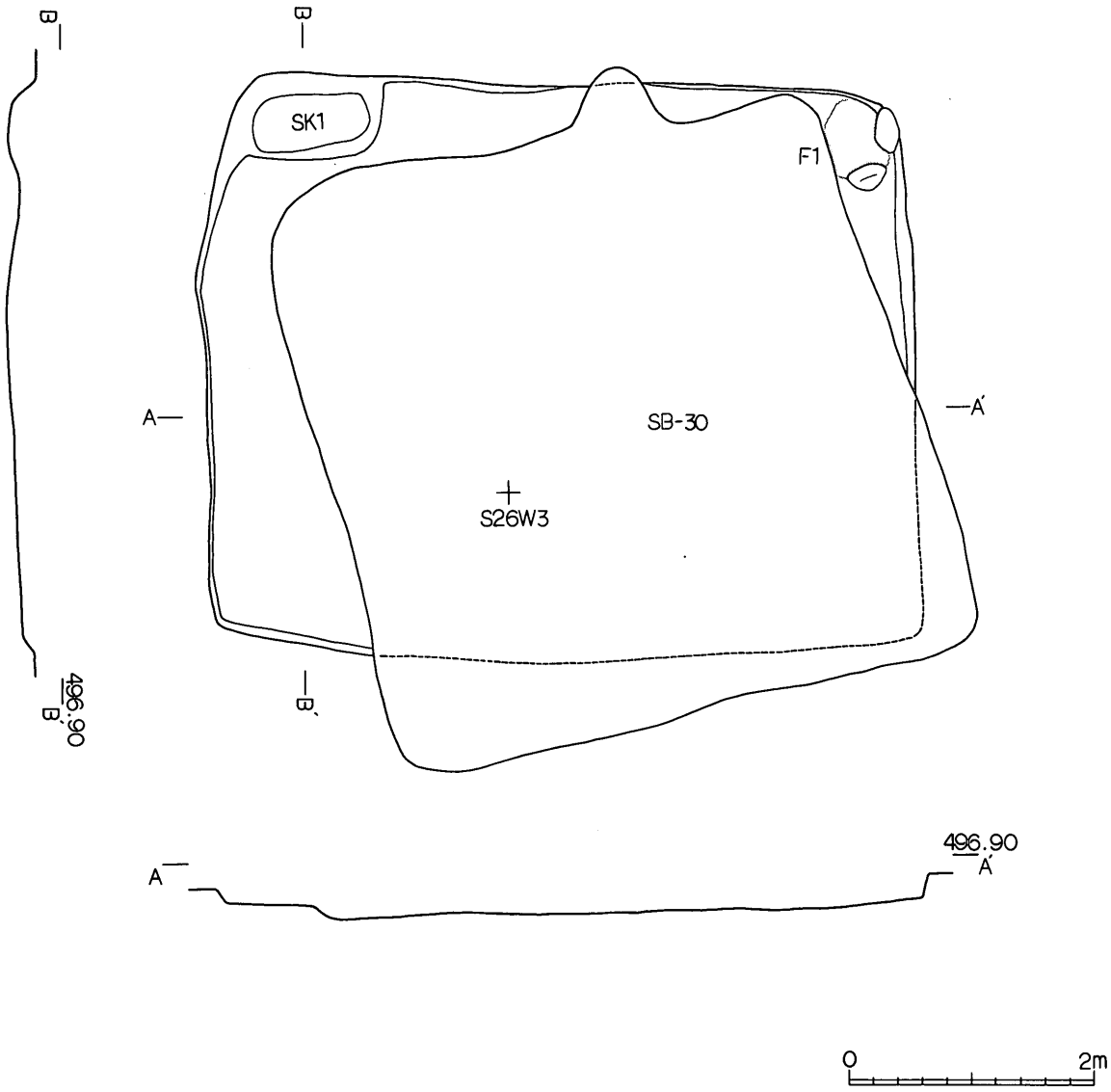
第３４図　第３０号住居址実測図



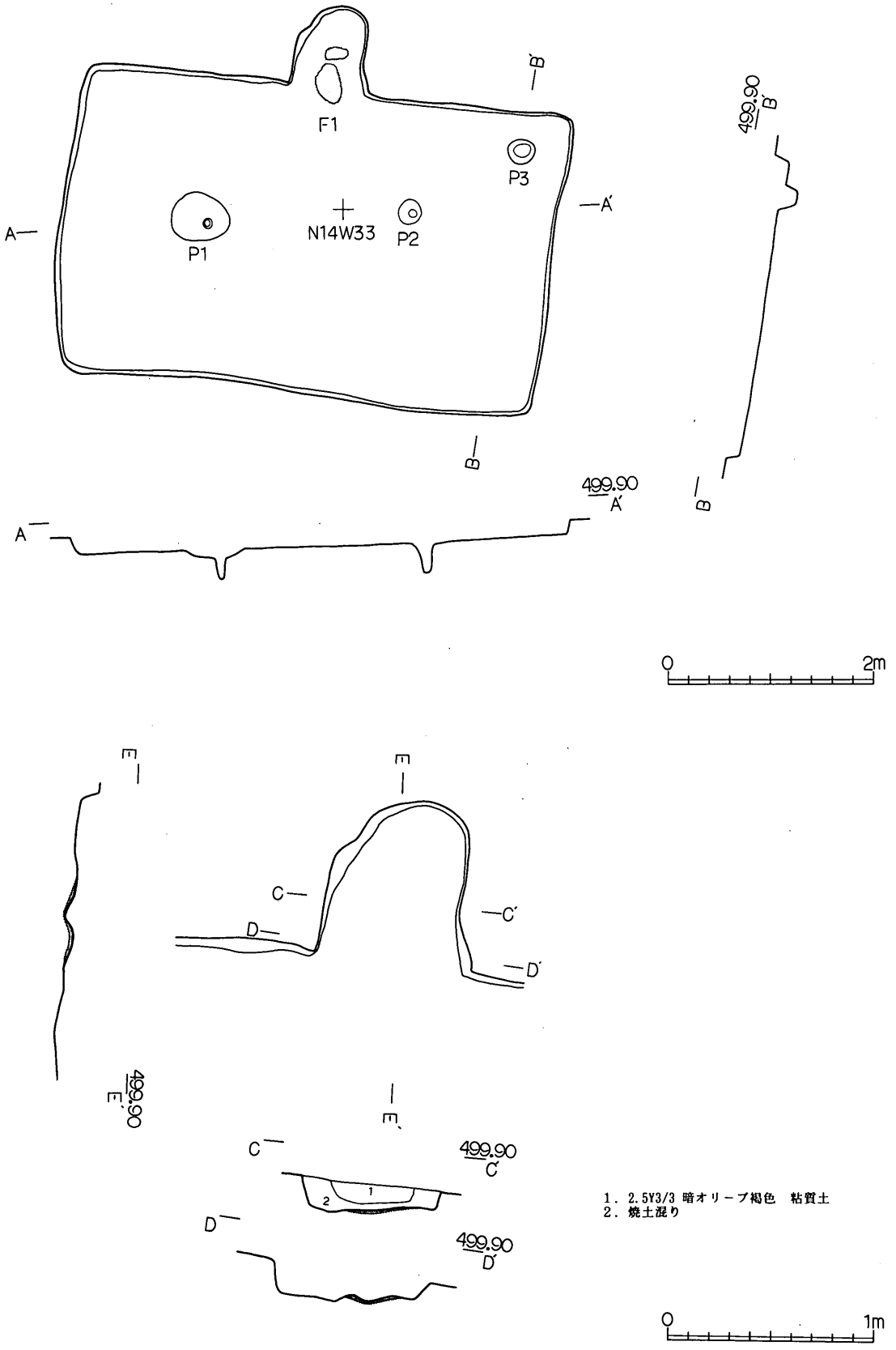
第３５図　第３１号住居址実測図



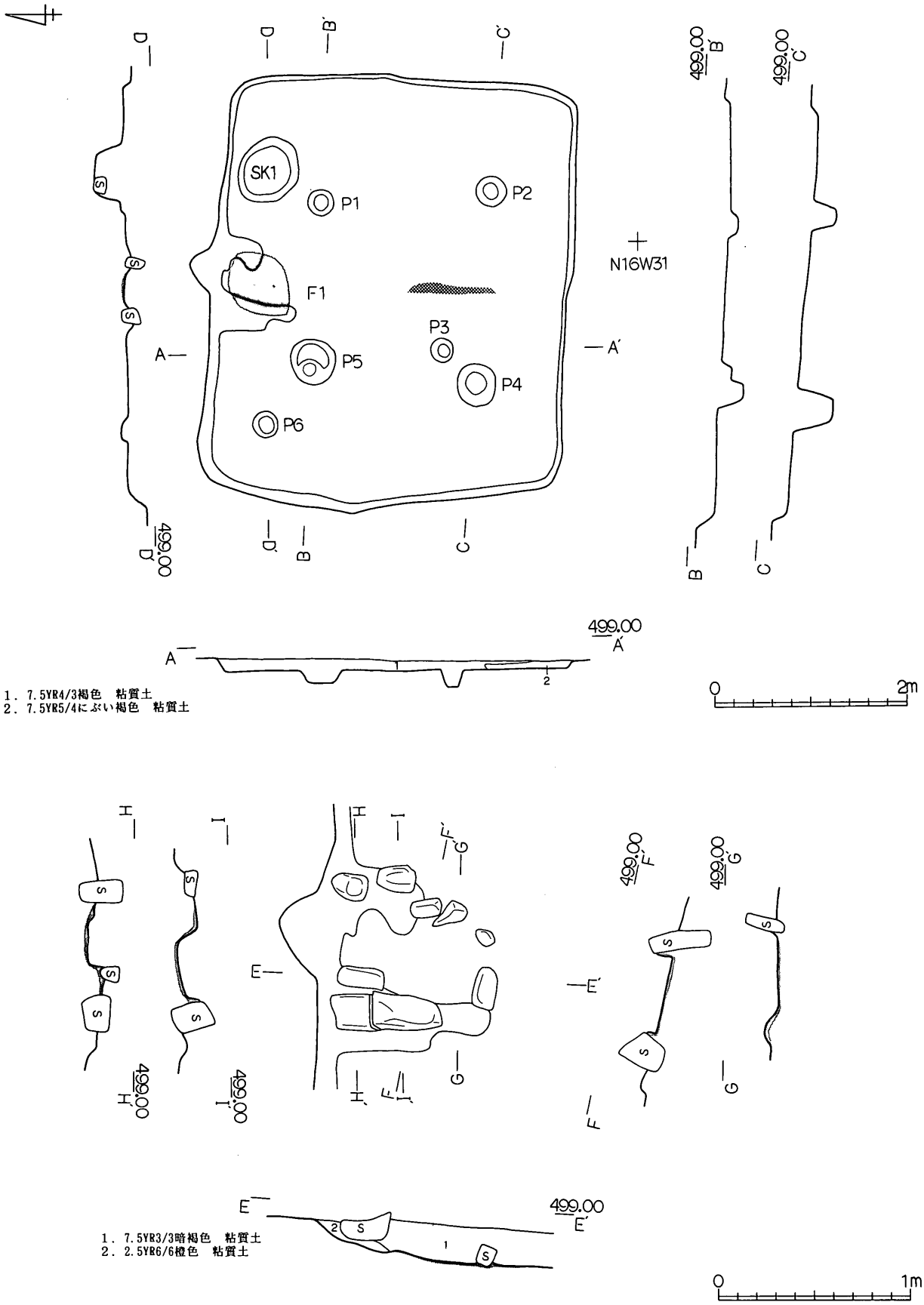
第３６図　第３２号住居址実測図



第３７図　第３３号住居址実測図

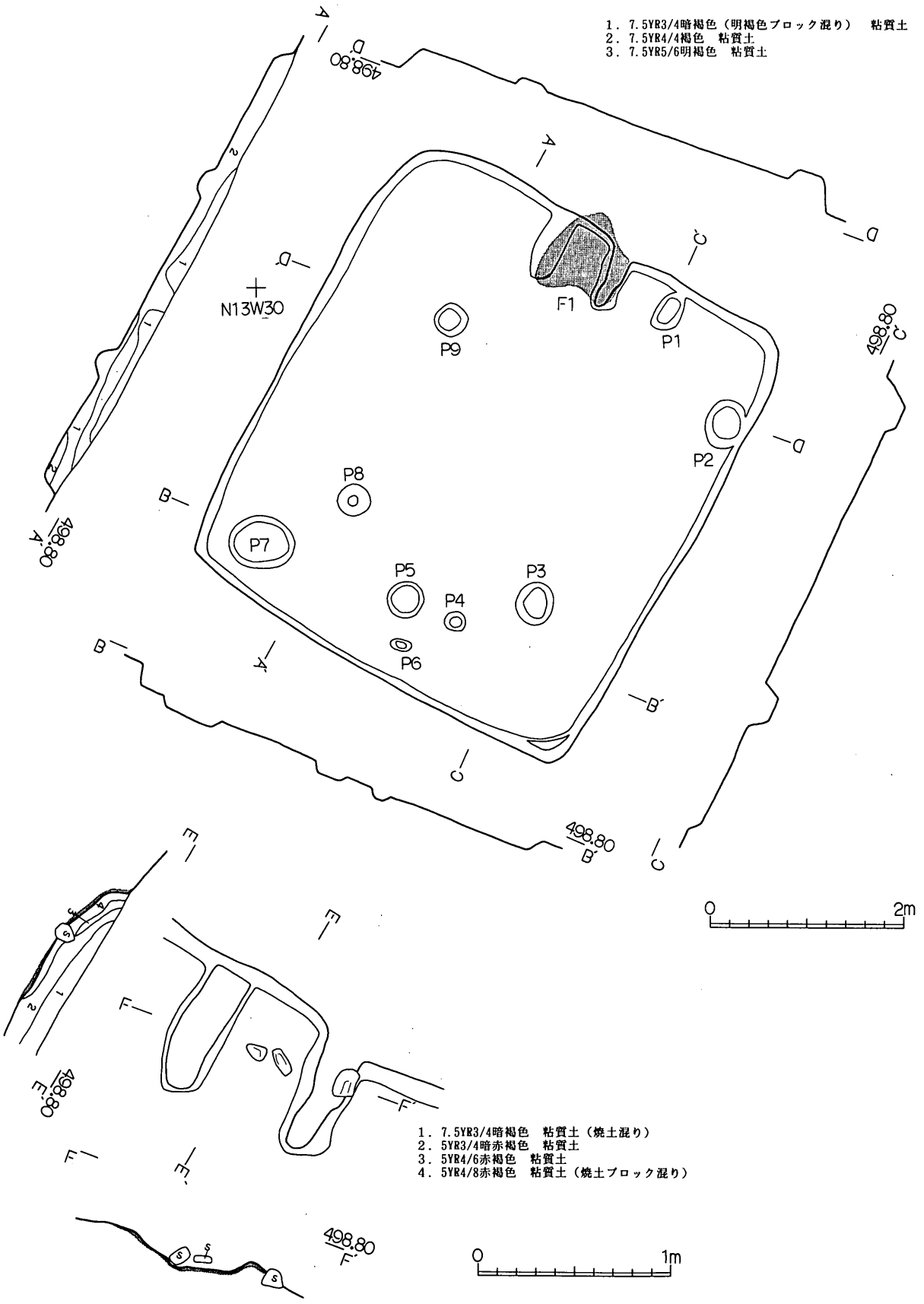


第３８図　第４１号住居址実測図

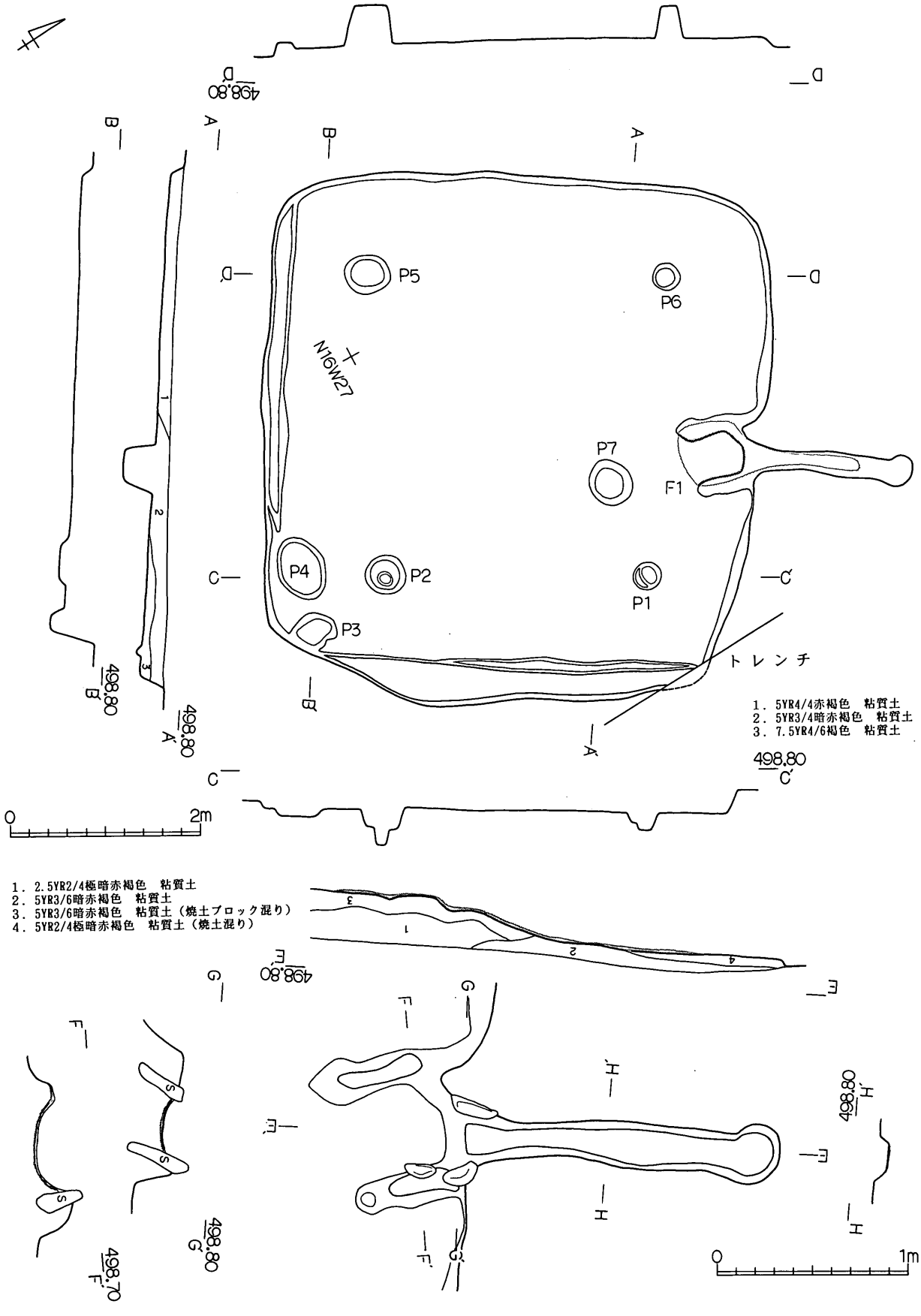


第39図　第42号住居址実測図

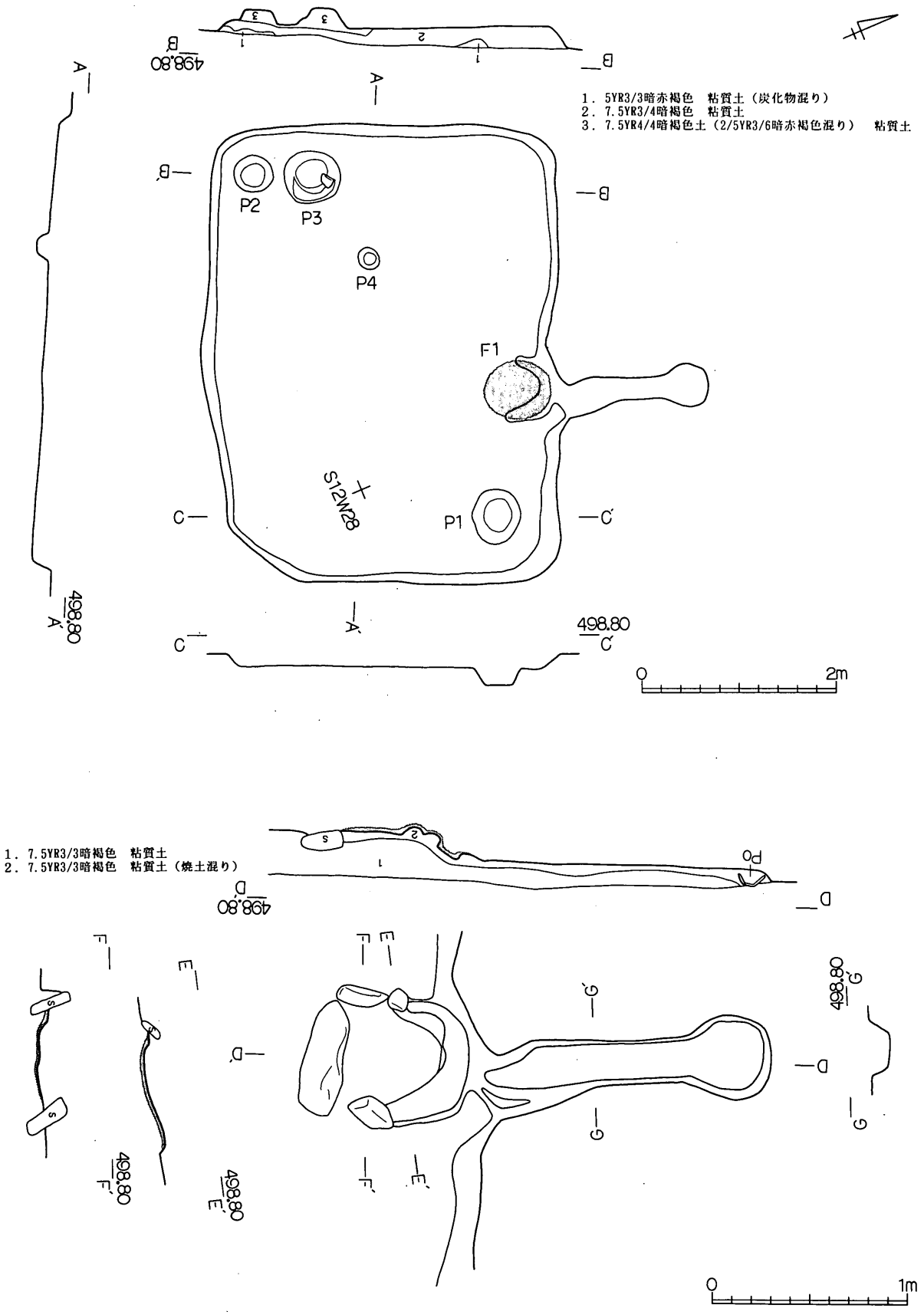
第39図　第42号住居址実測図



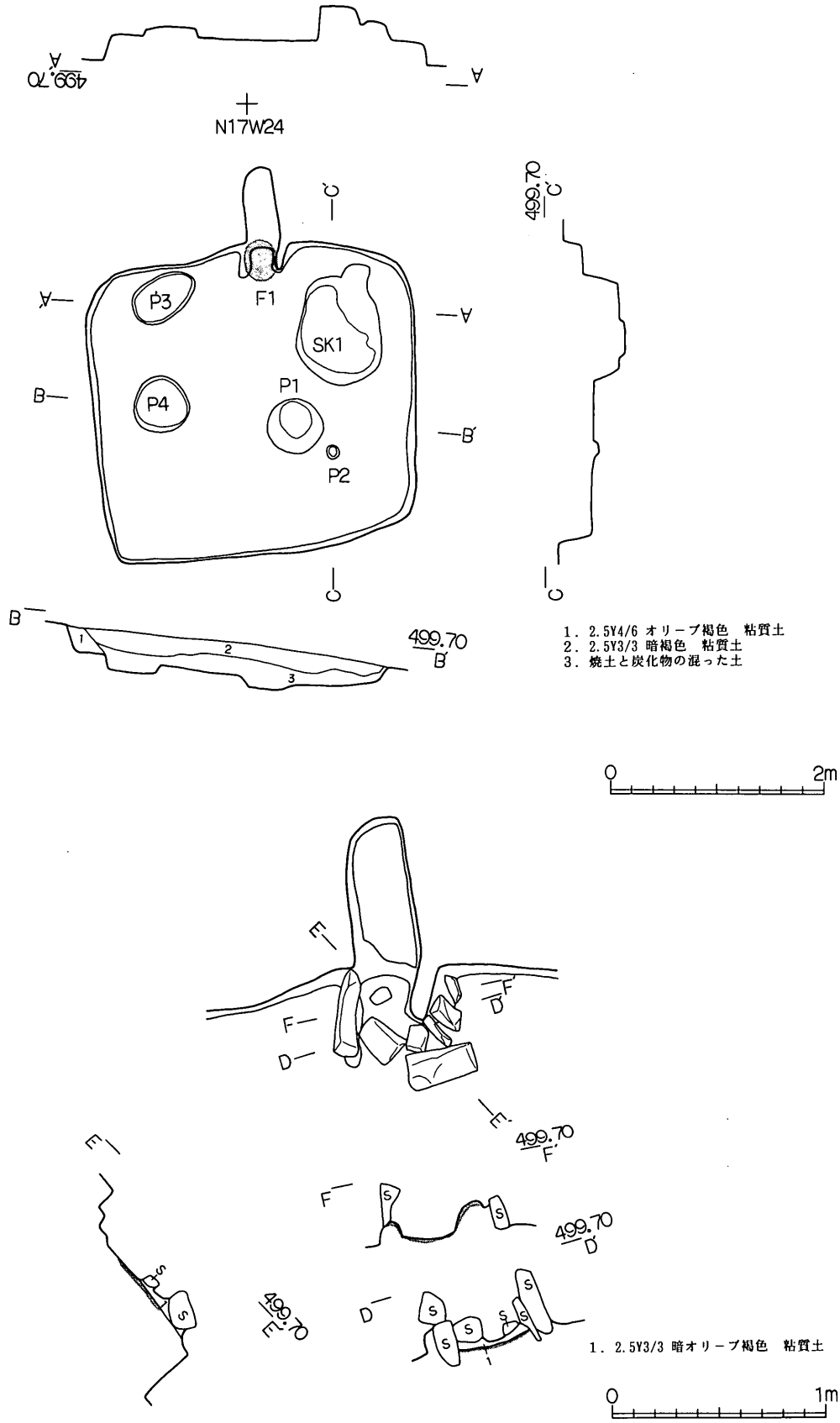
第４０図　第４３号住居址実測図



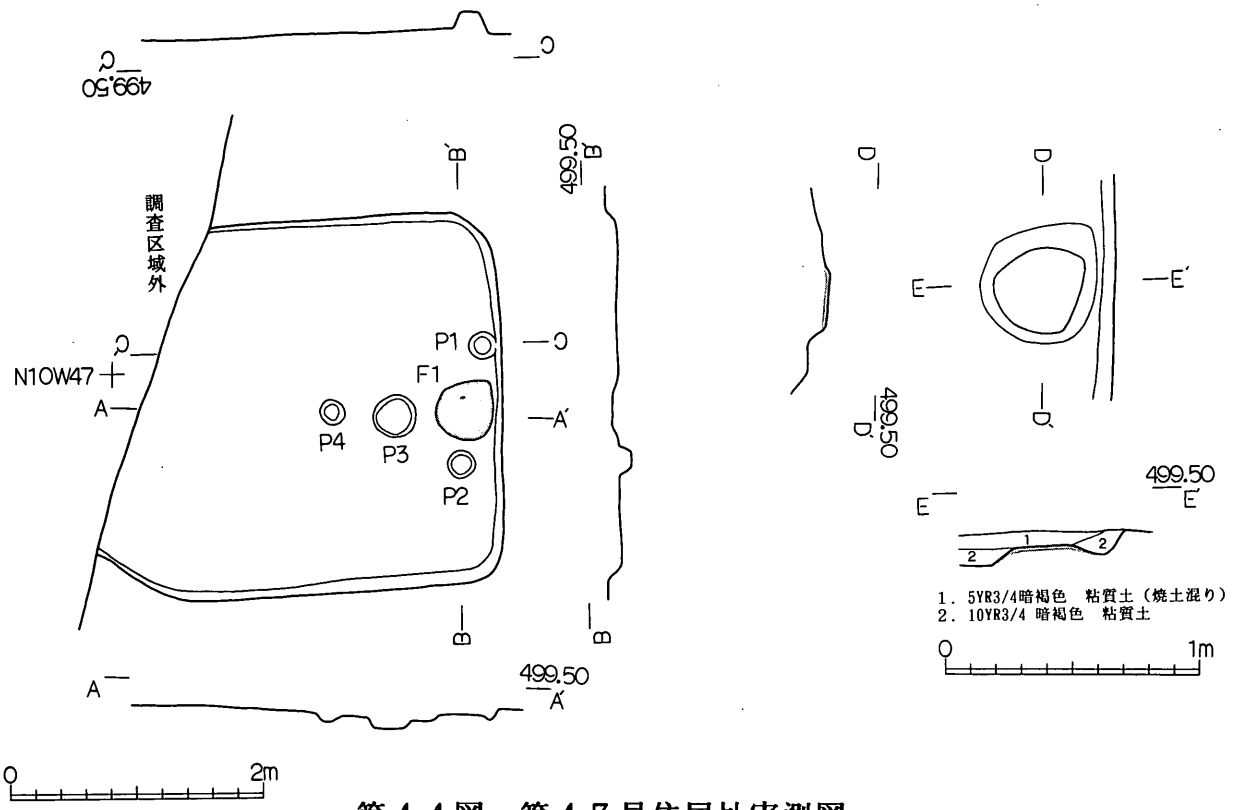
第４１図　第４４号住居址実測図



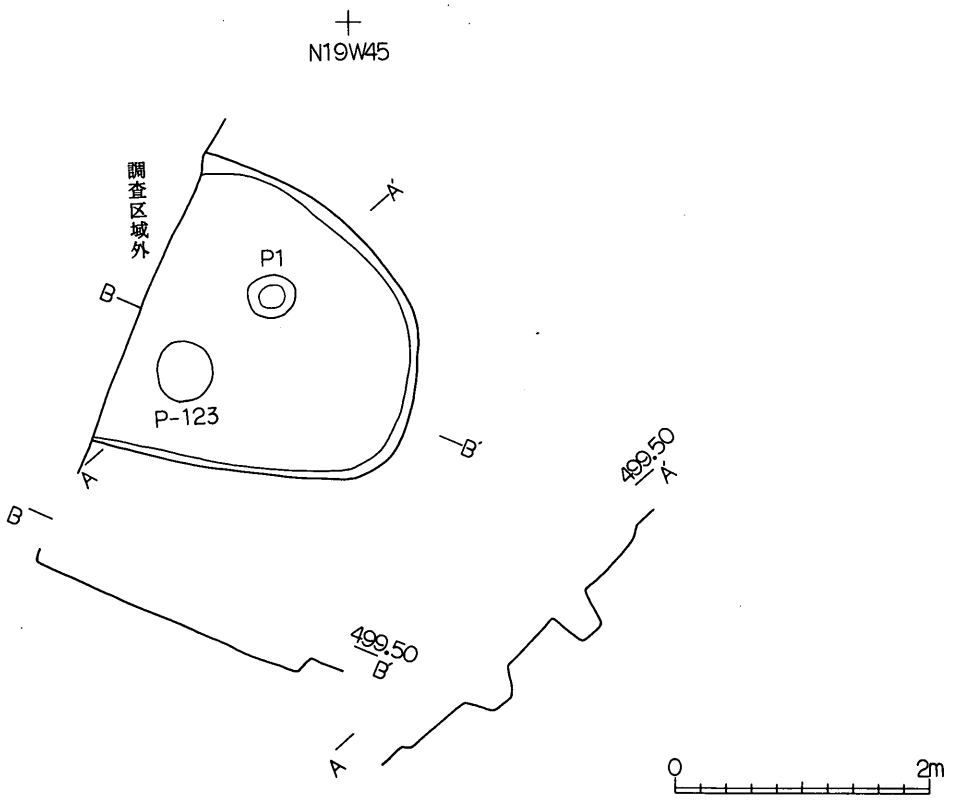
第４２図　第４５号住居址実測図



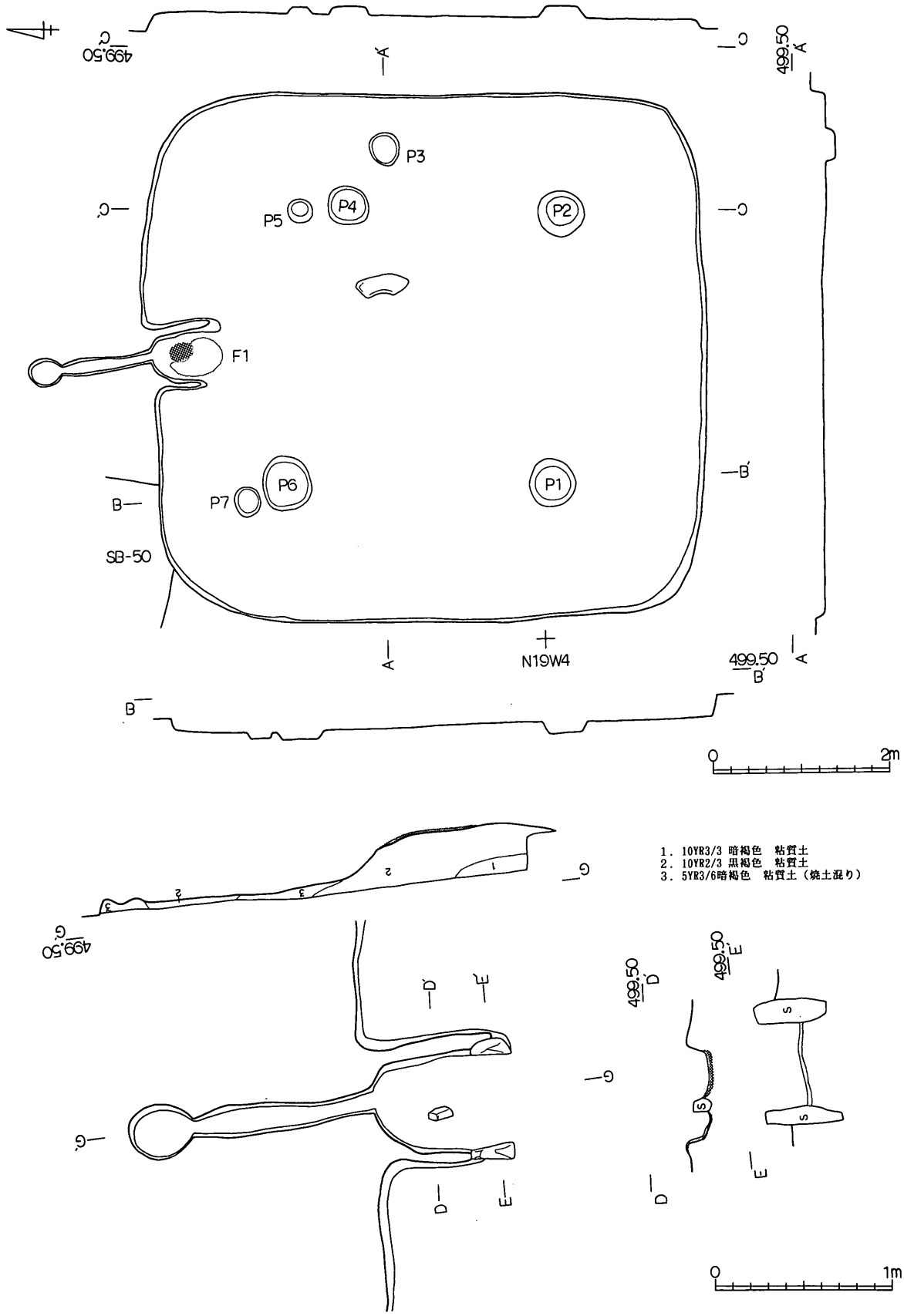
第４３図　第４６号住居址実測図



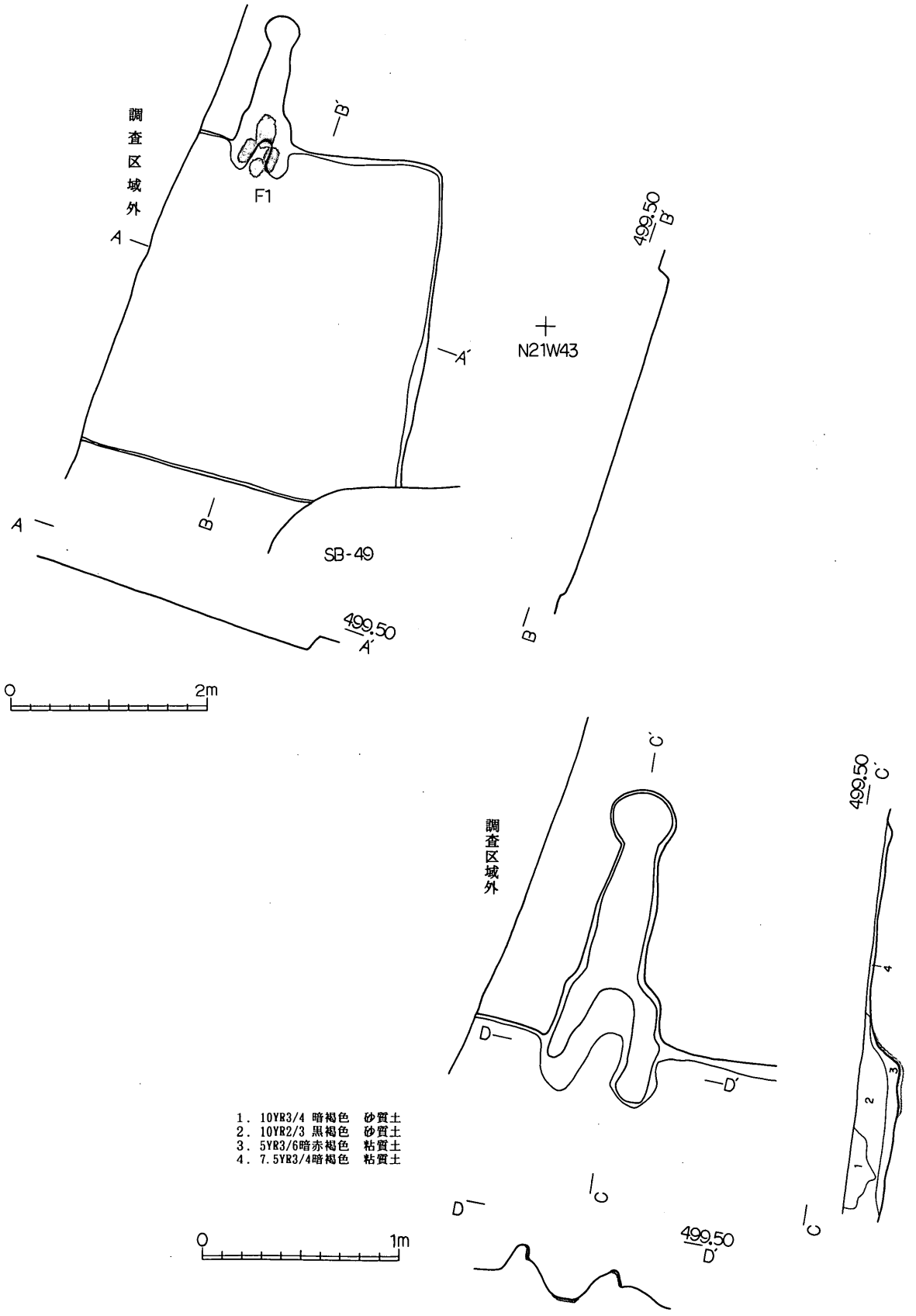
第４４図　第４７号住居址実測図



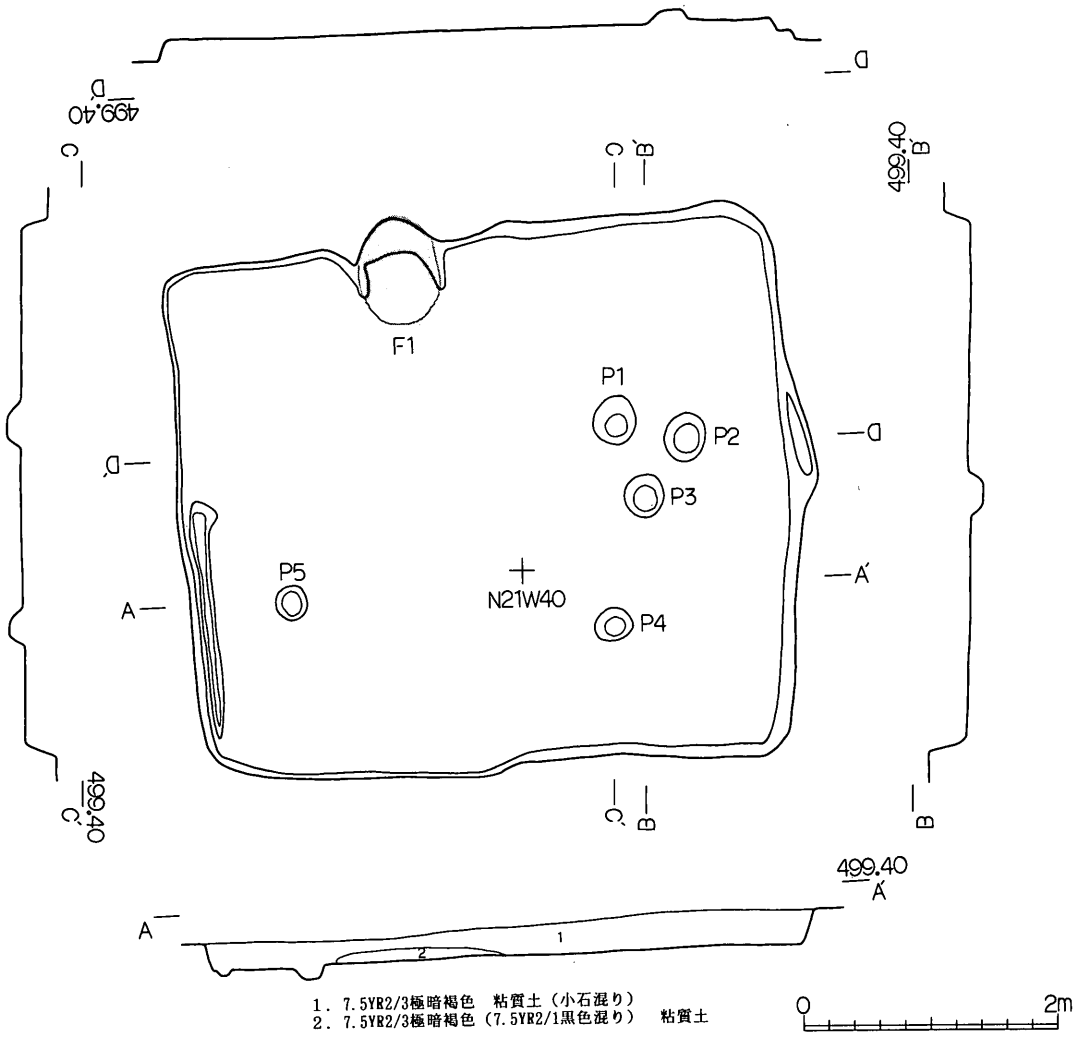
第４５図　第４８号住居址実測図

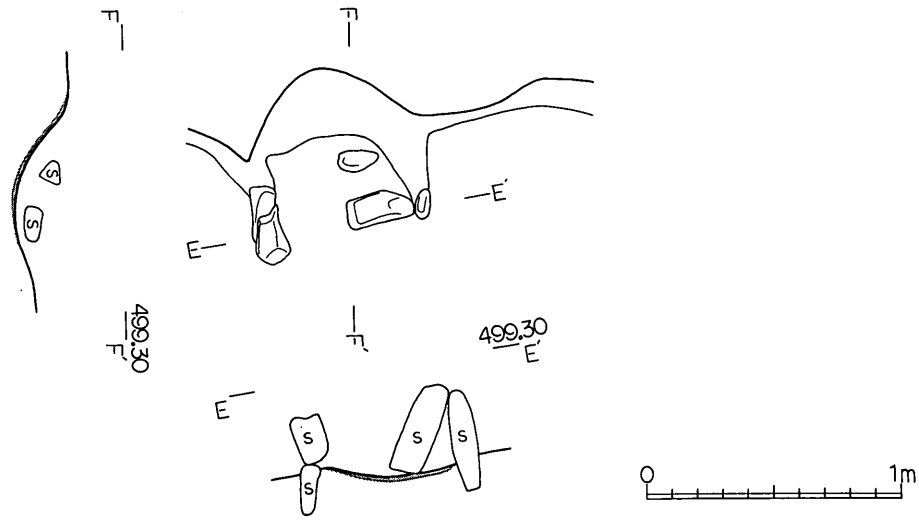


第４６図　第４９号住居址実測図

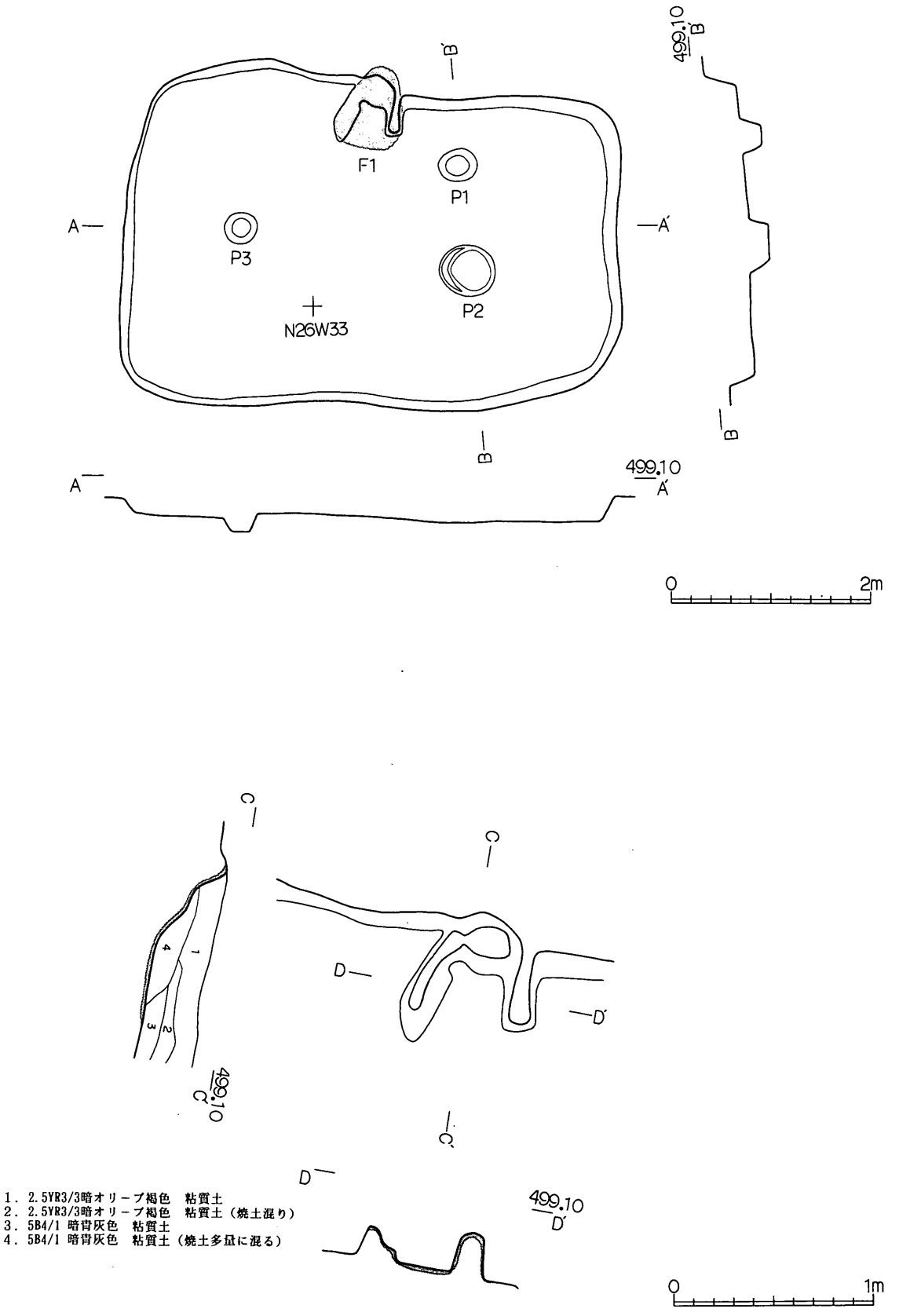


第４７図　第５０号住居址実測図

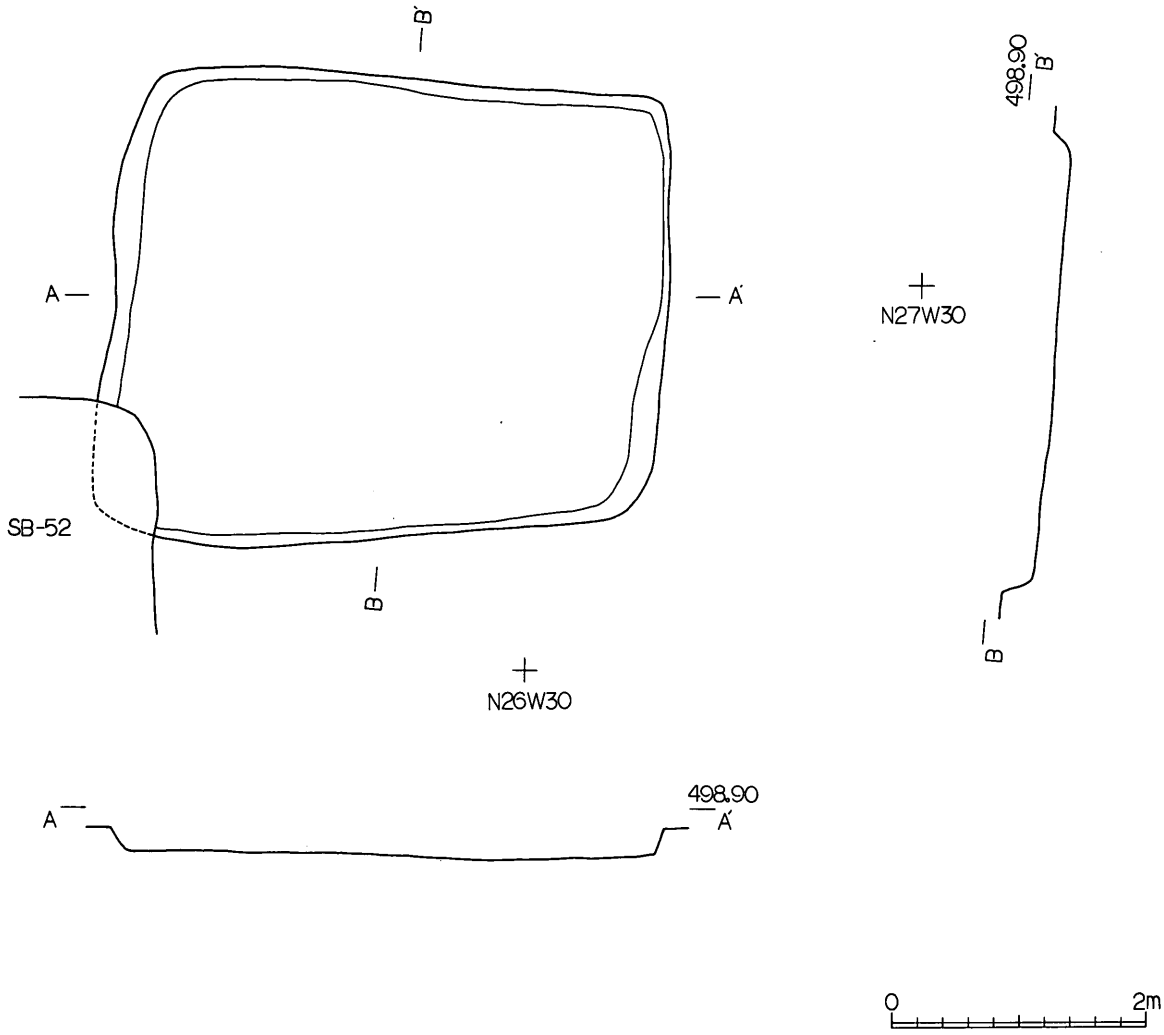




第４８図　第５１号住居址実測図

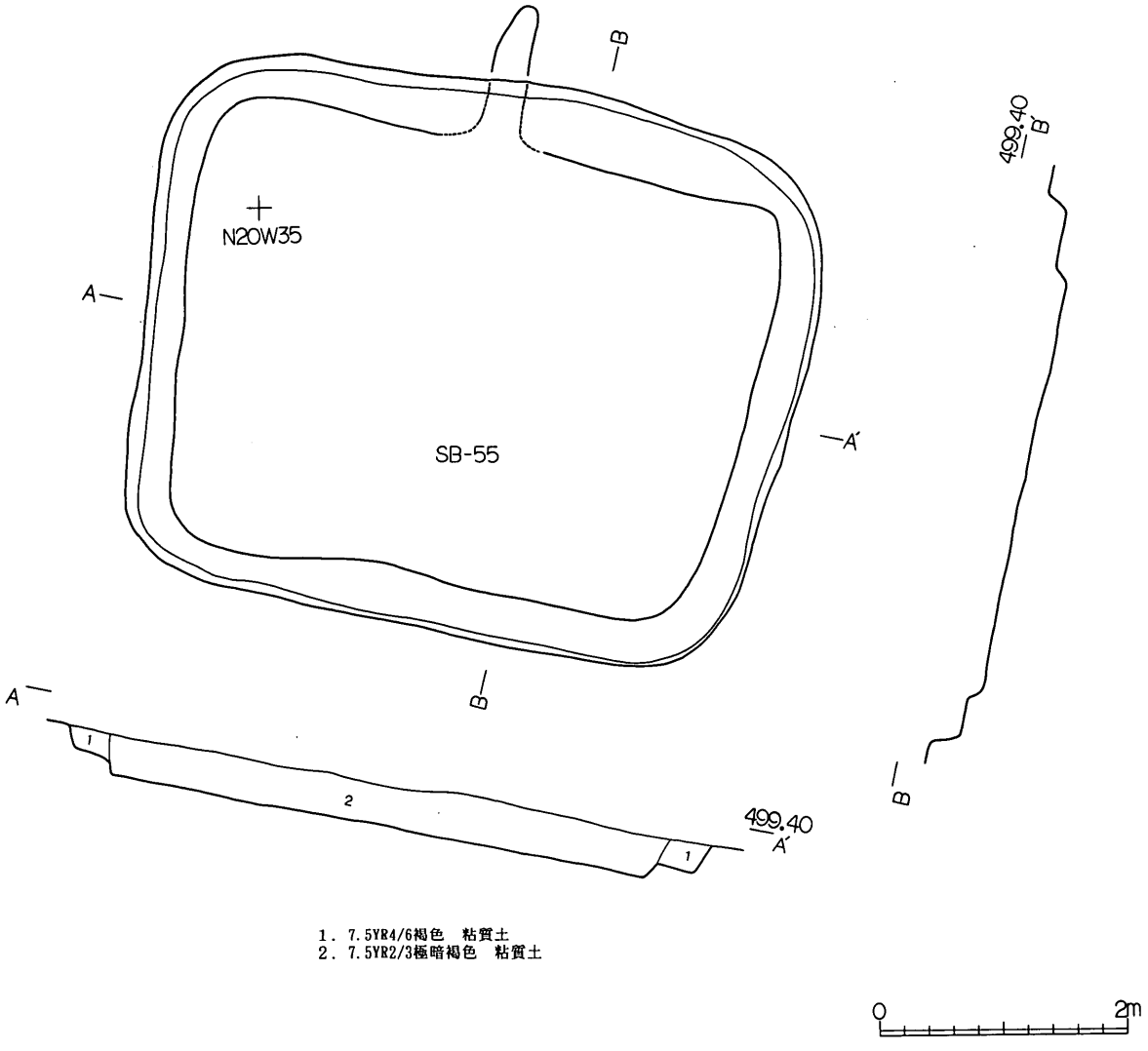


第４９図　第５２号住居址実測図



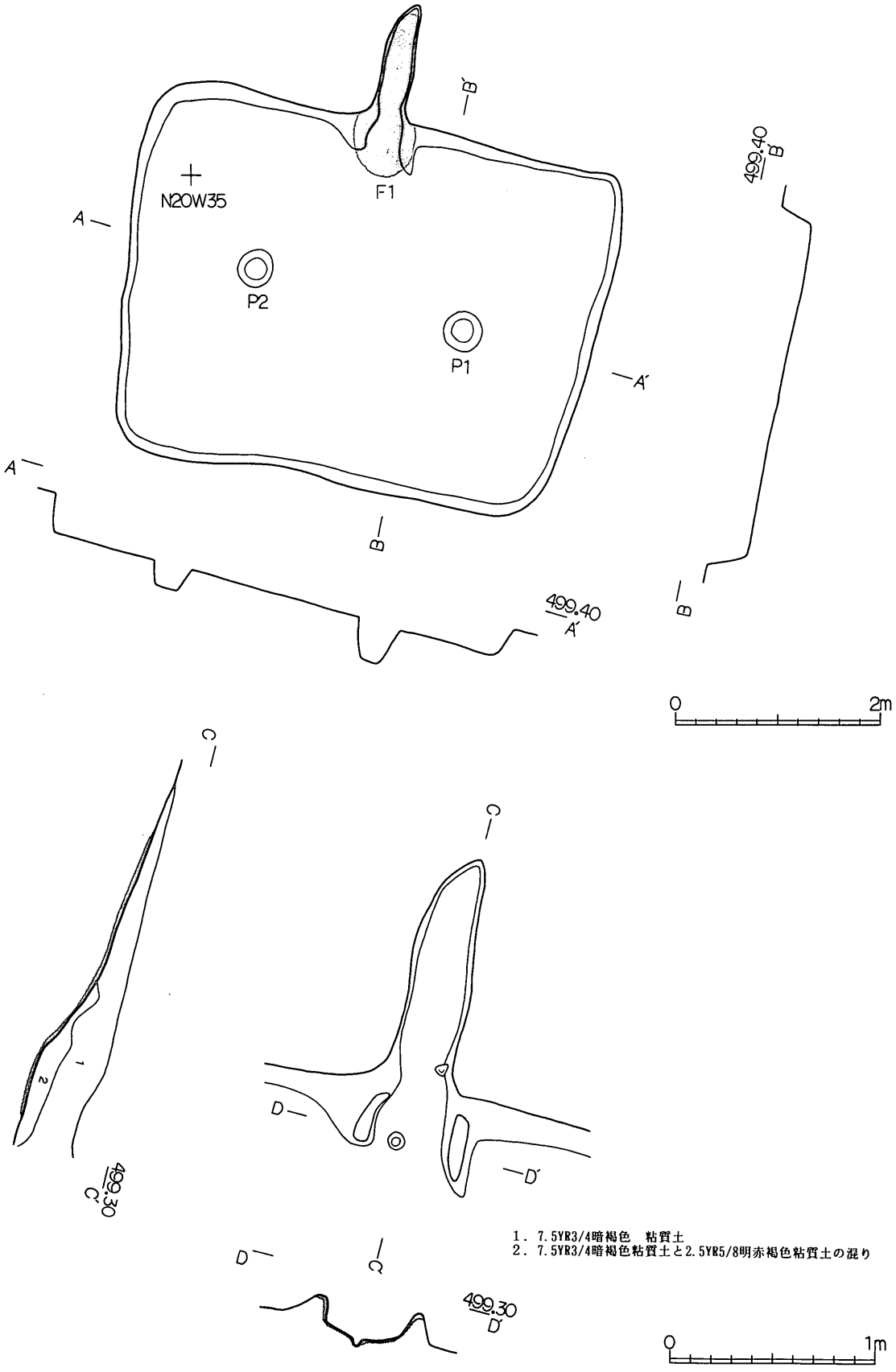
第５０図　第５３号住居址実測図

第 50 図　第５３号住居址実測図

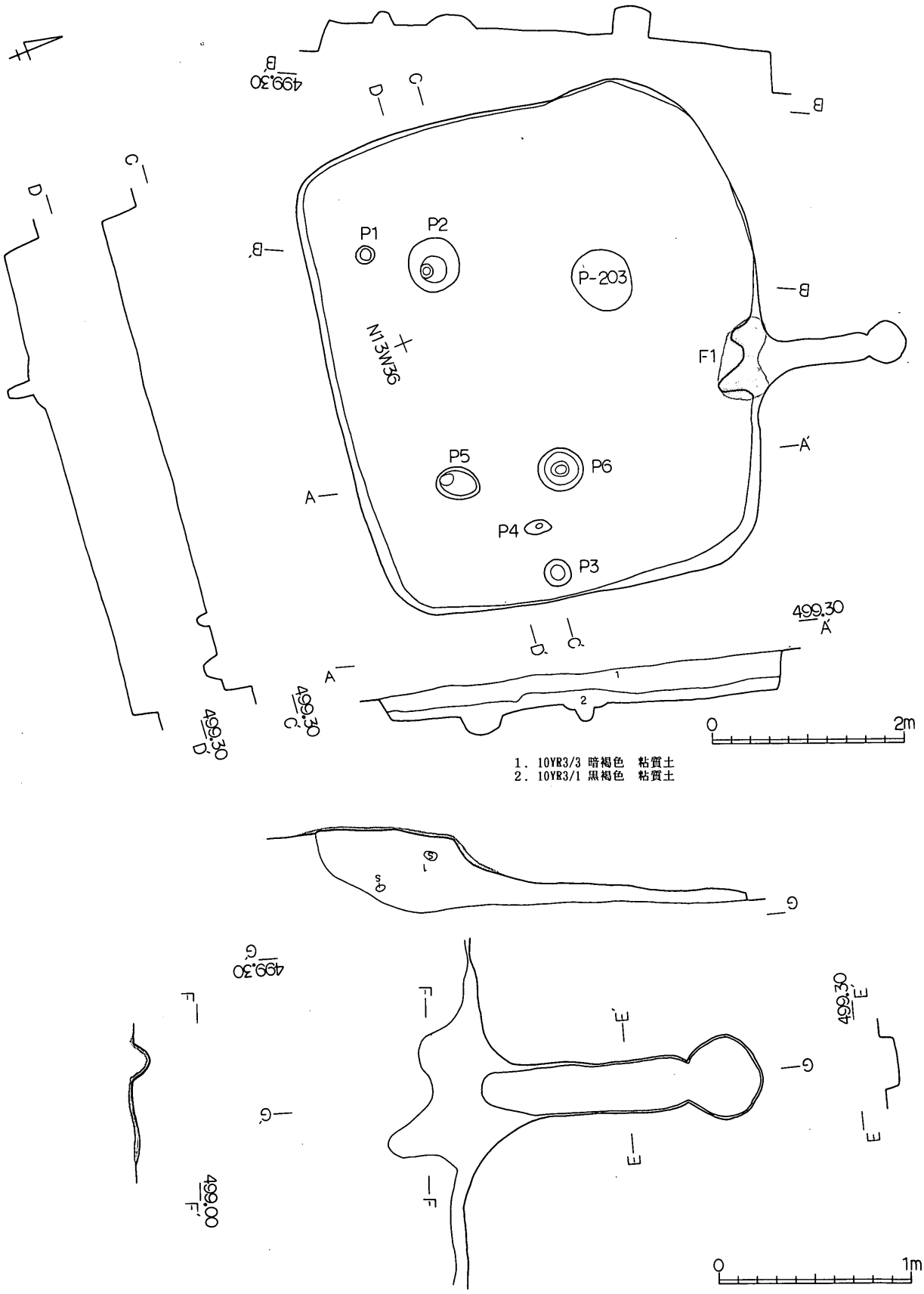


1．7.5YR4/6褐色　粘質土
2．7.5YR2/3極暗褐色　粘質土

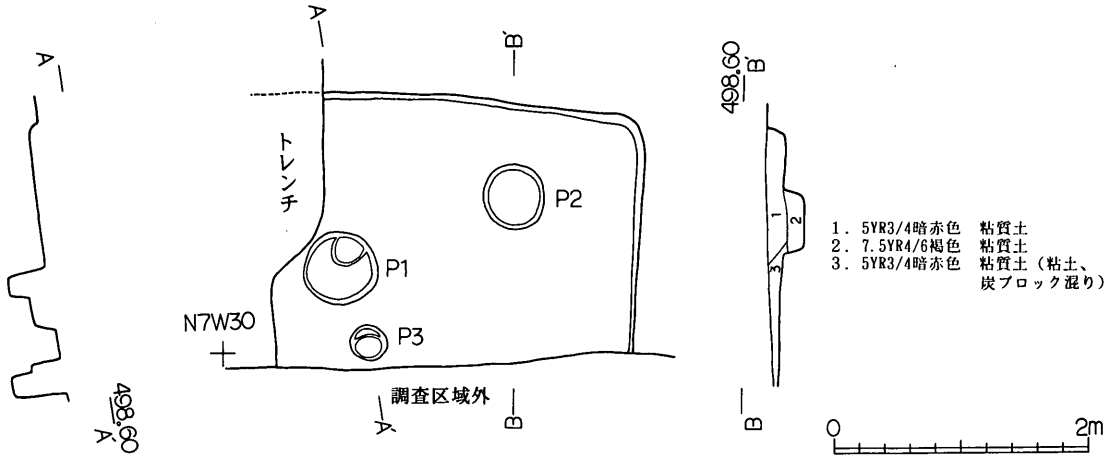
第５１図　第５４号住居址実測図



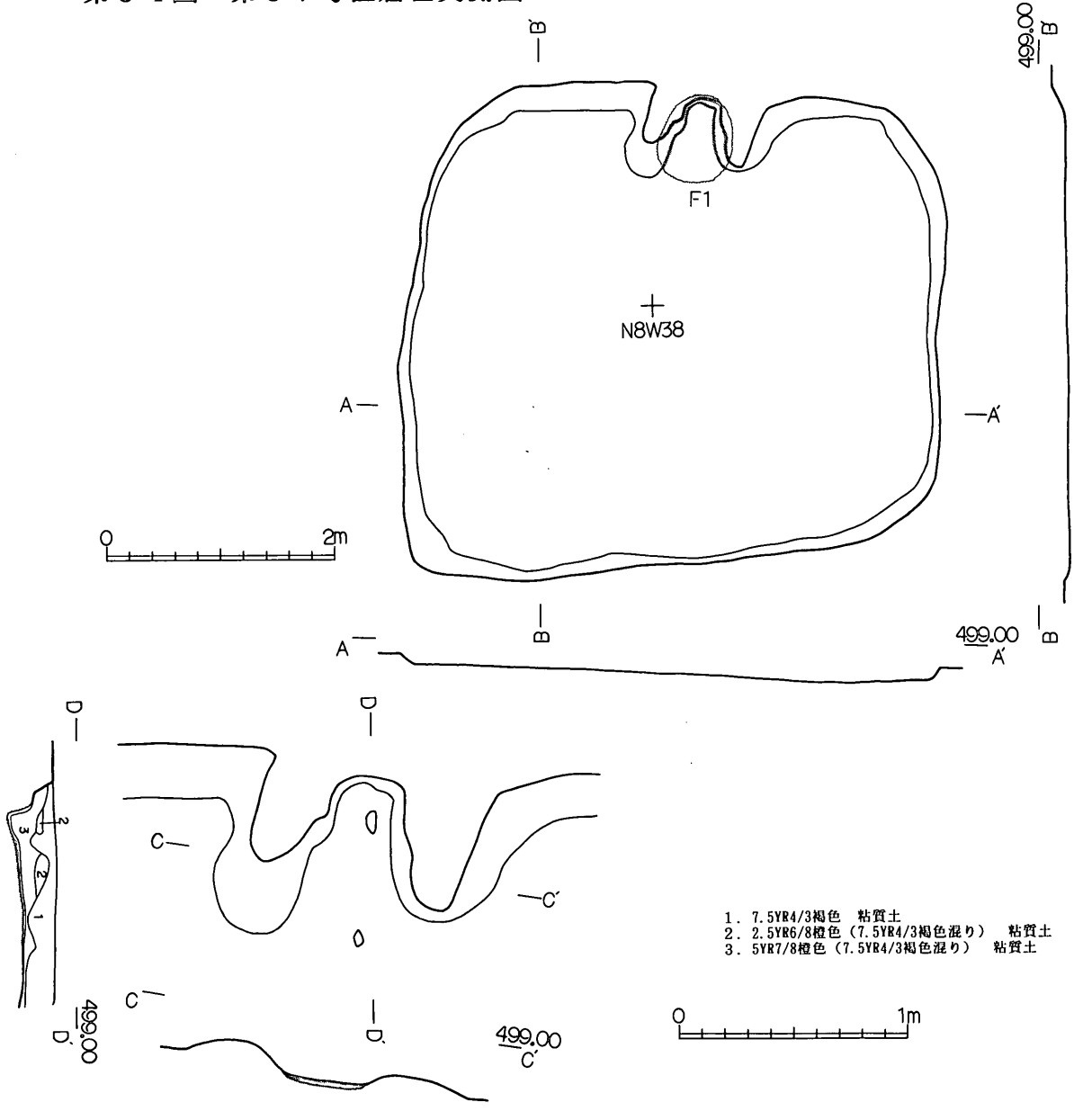
第５２図　第５５号住居址実測図



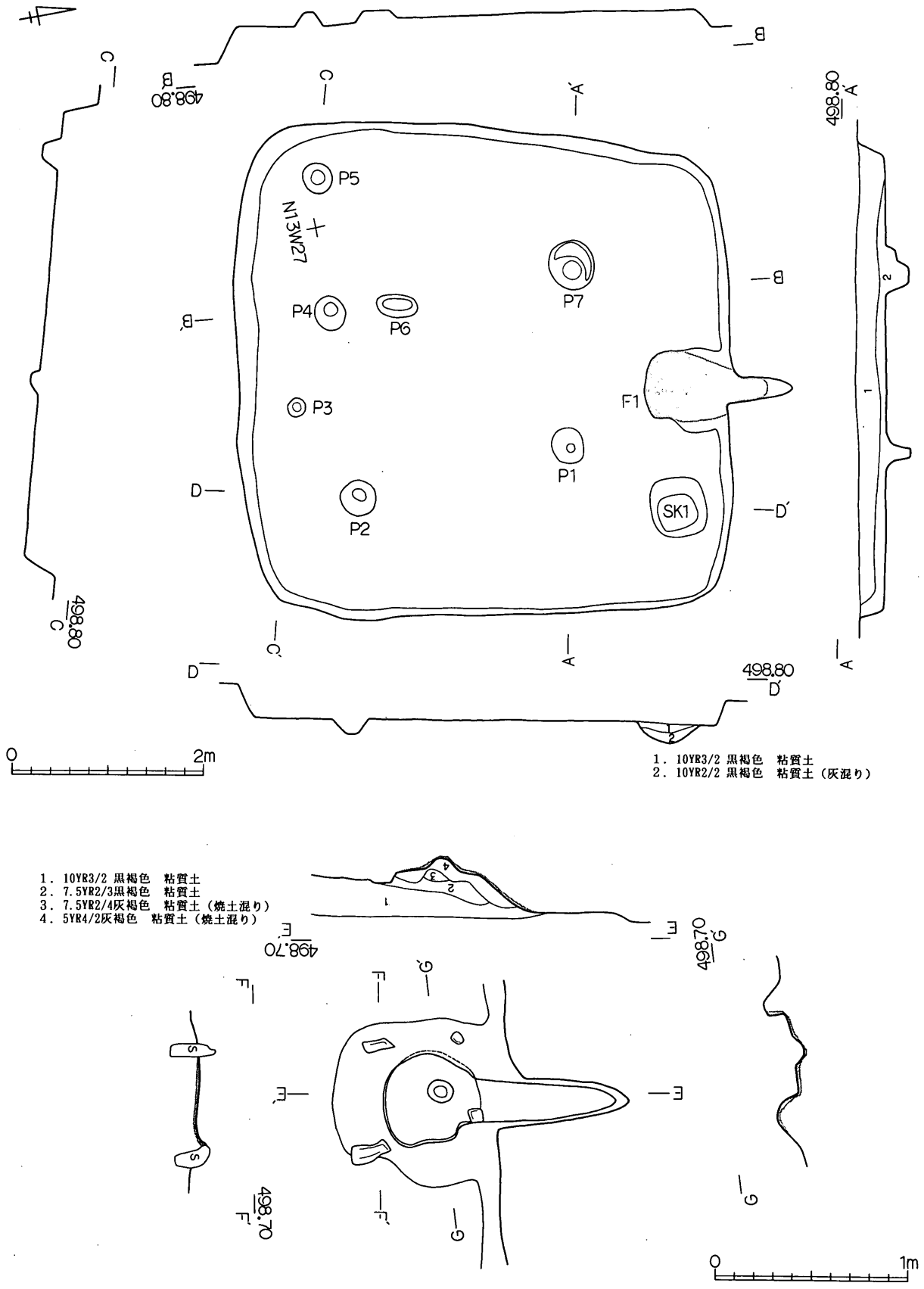
第５３図　第５６号住居址実測図



第５４図　第５７号住居址実測図

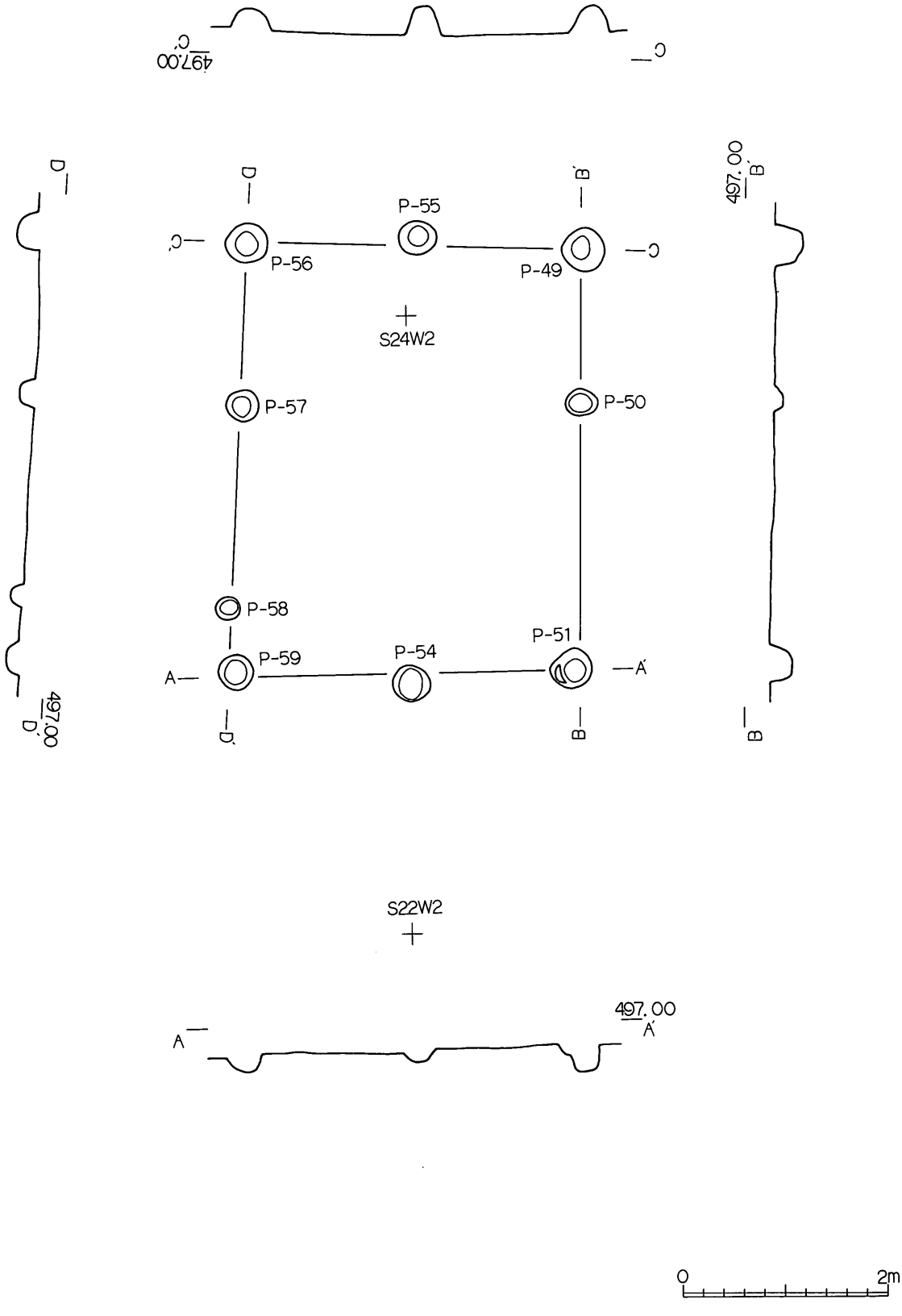


第５５図　第５８号住居址実測図

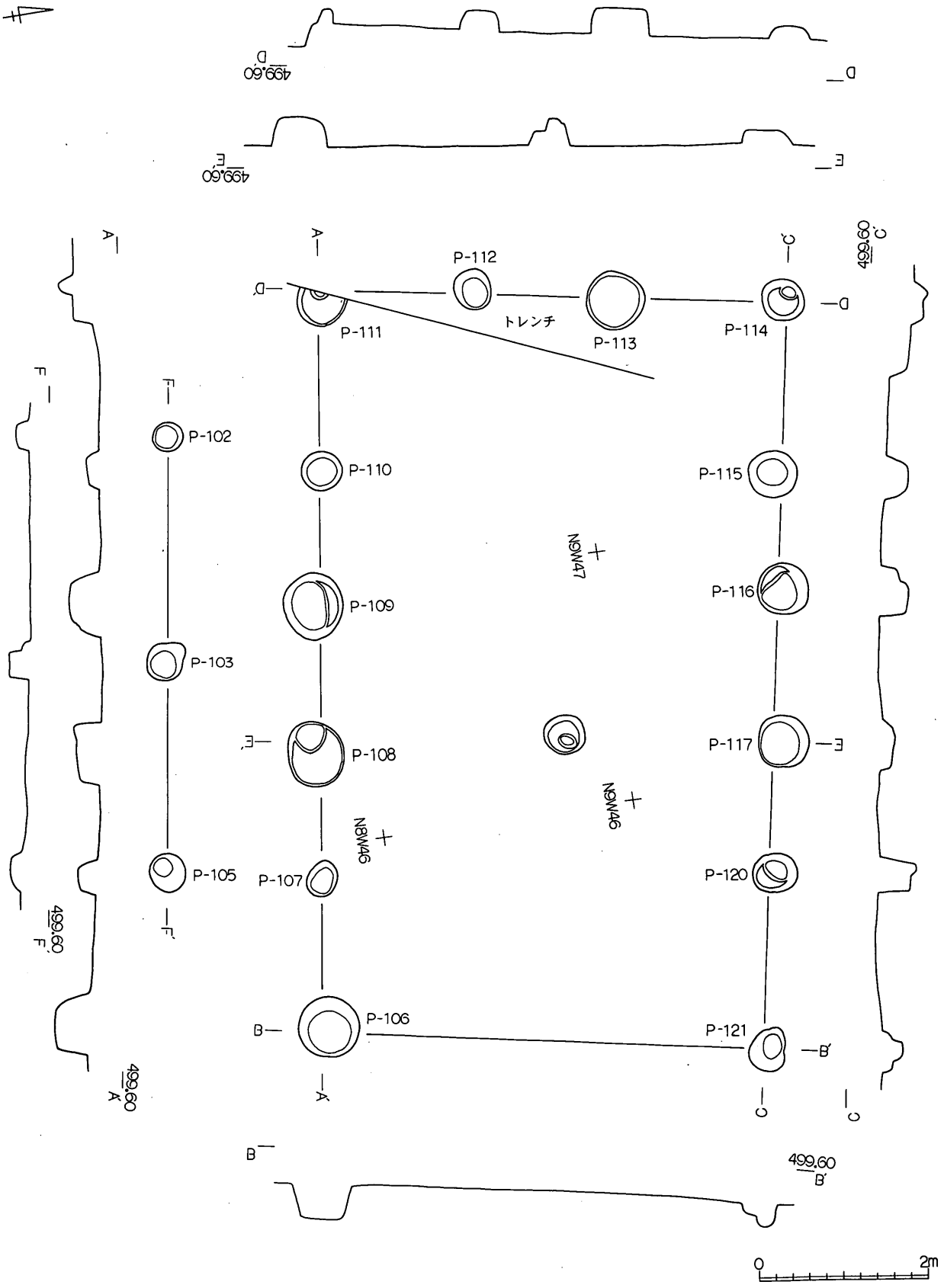


第 56 図　第５９号住居址実測図

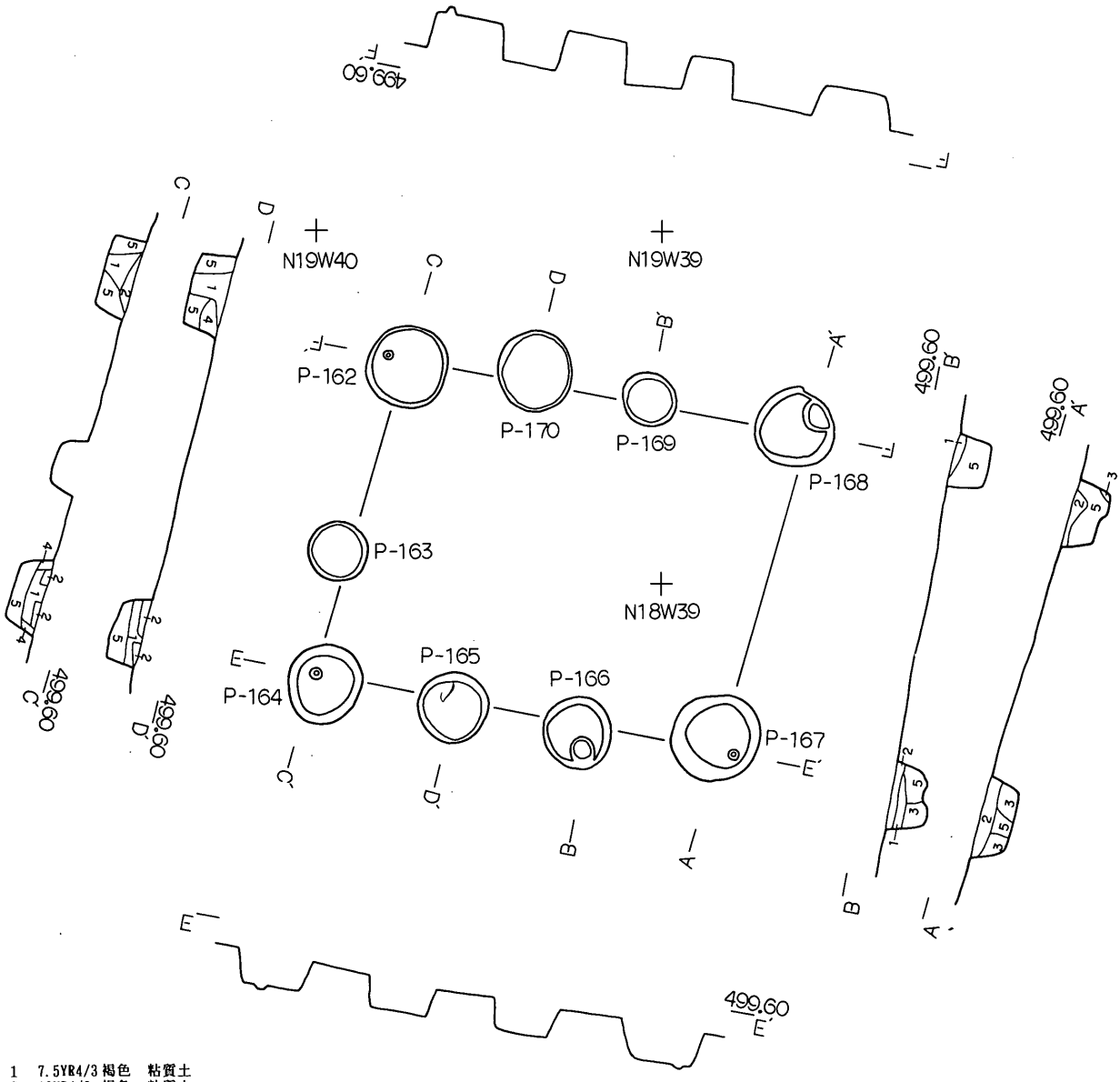
第５６図　第５９号住居址実測図



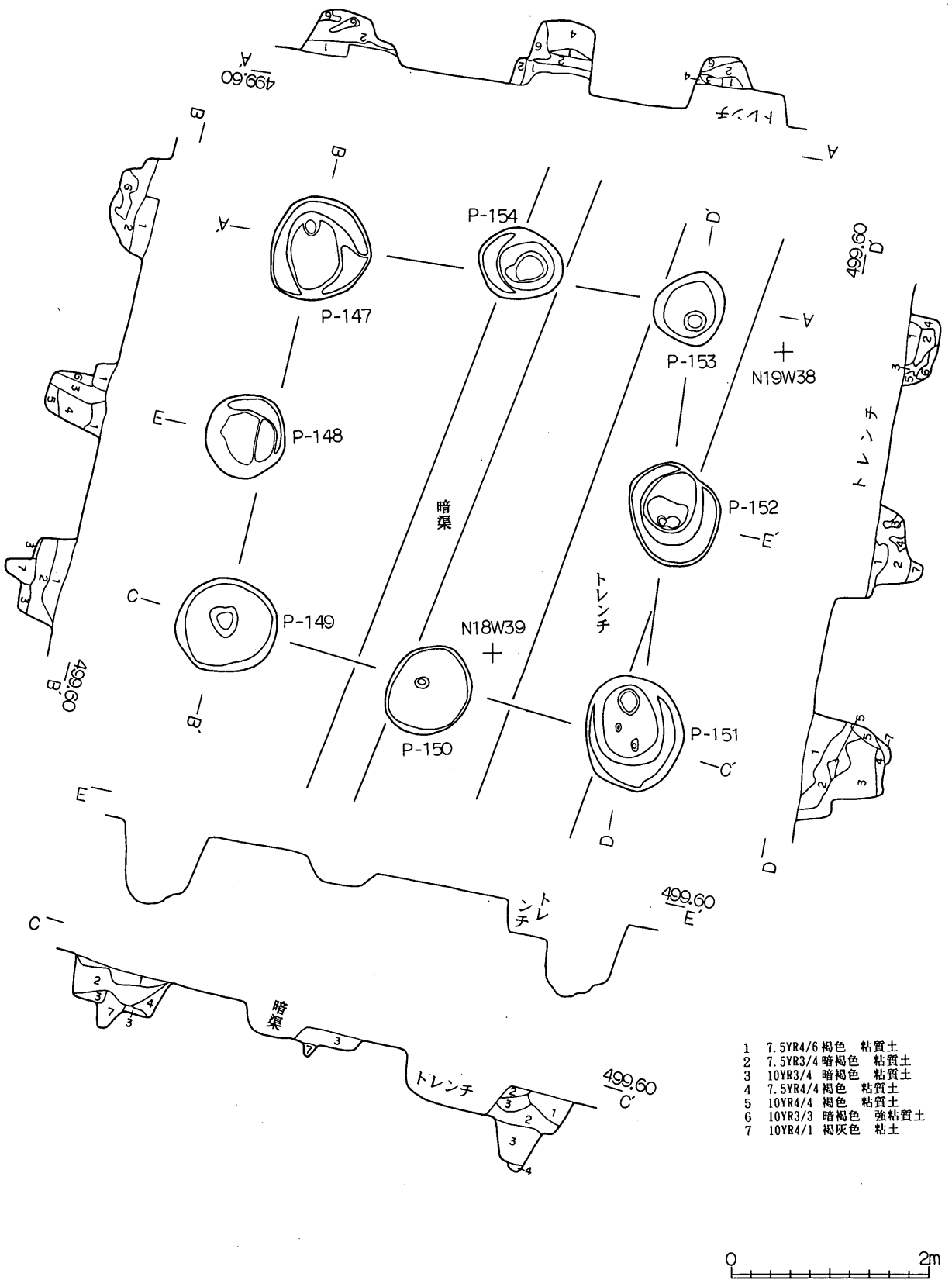
第５７図　第１号掘立柱建物址実測図



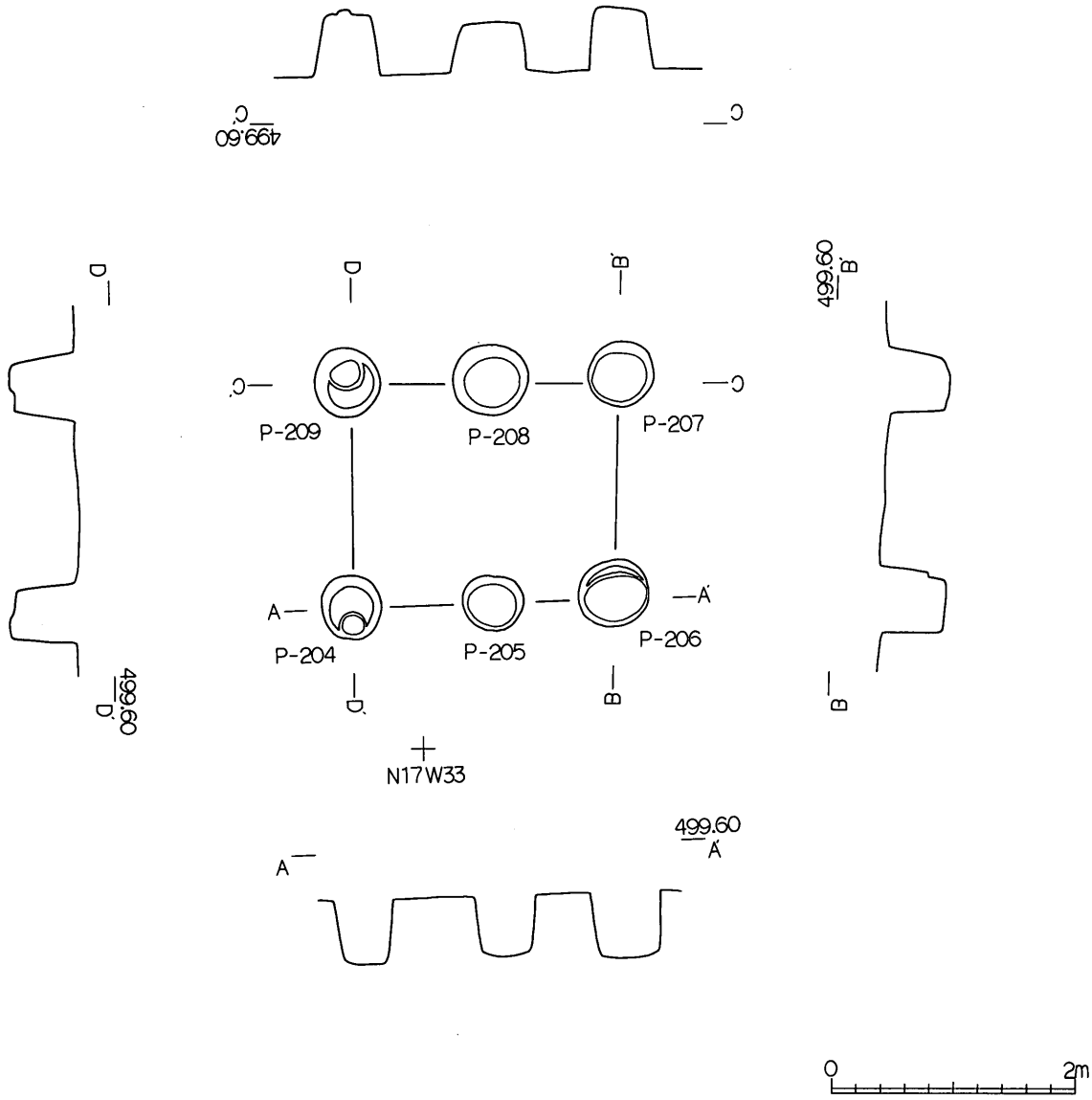
第５８図　第２号掘立柱建物址実測図



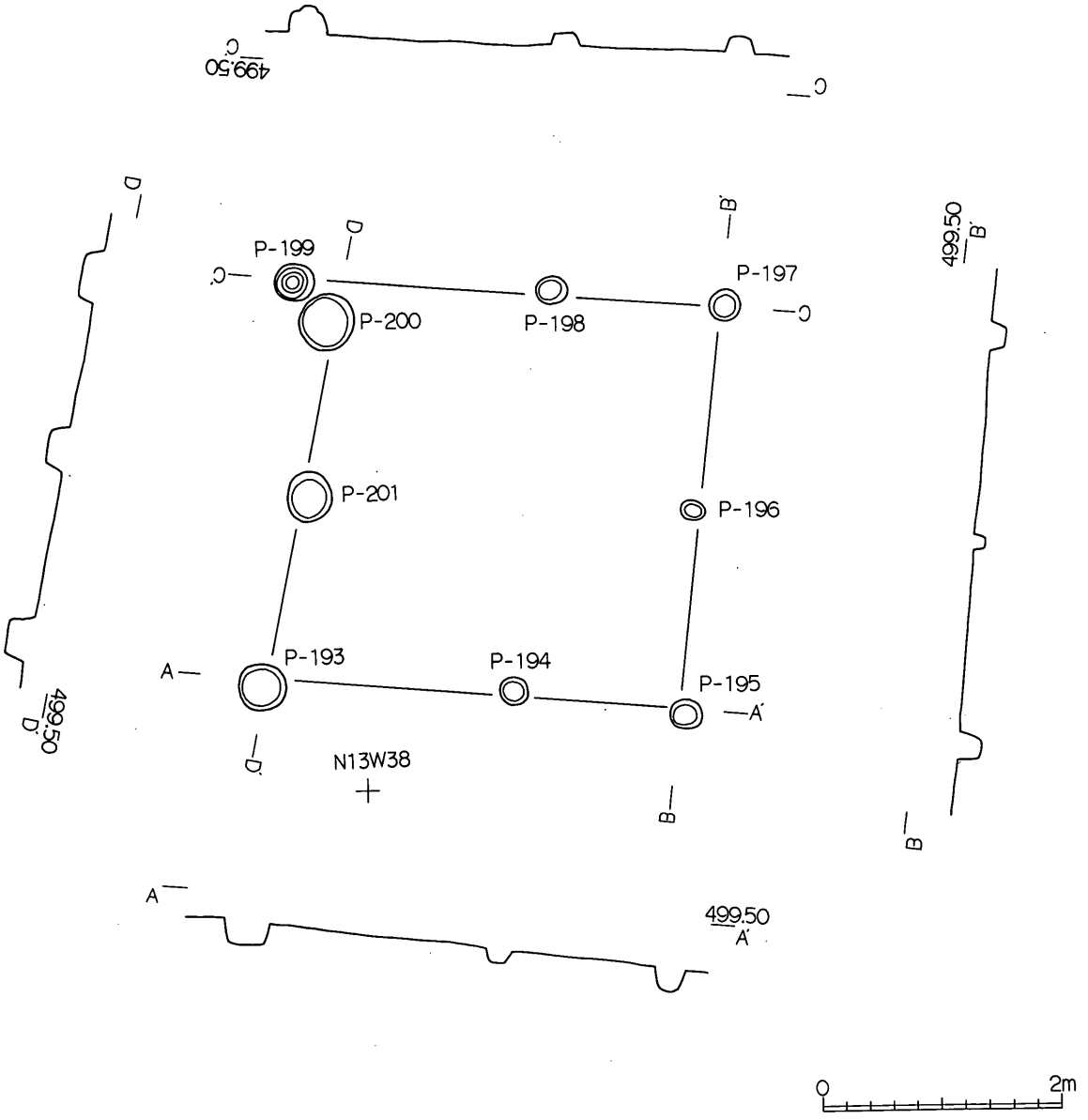
第５９図　第３号掘立柱建物址実測図



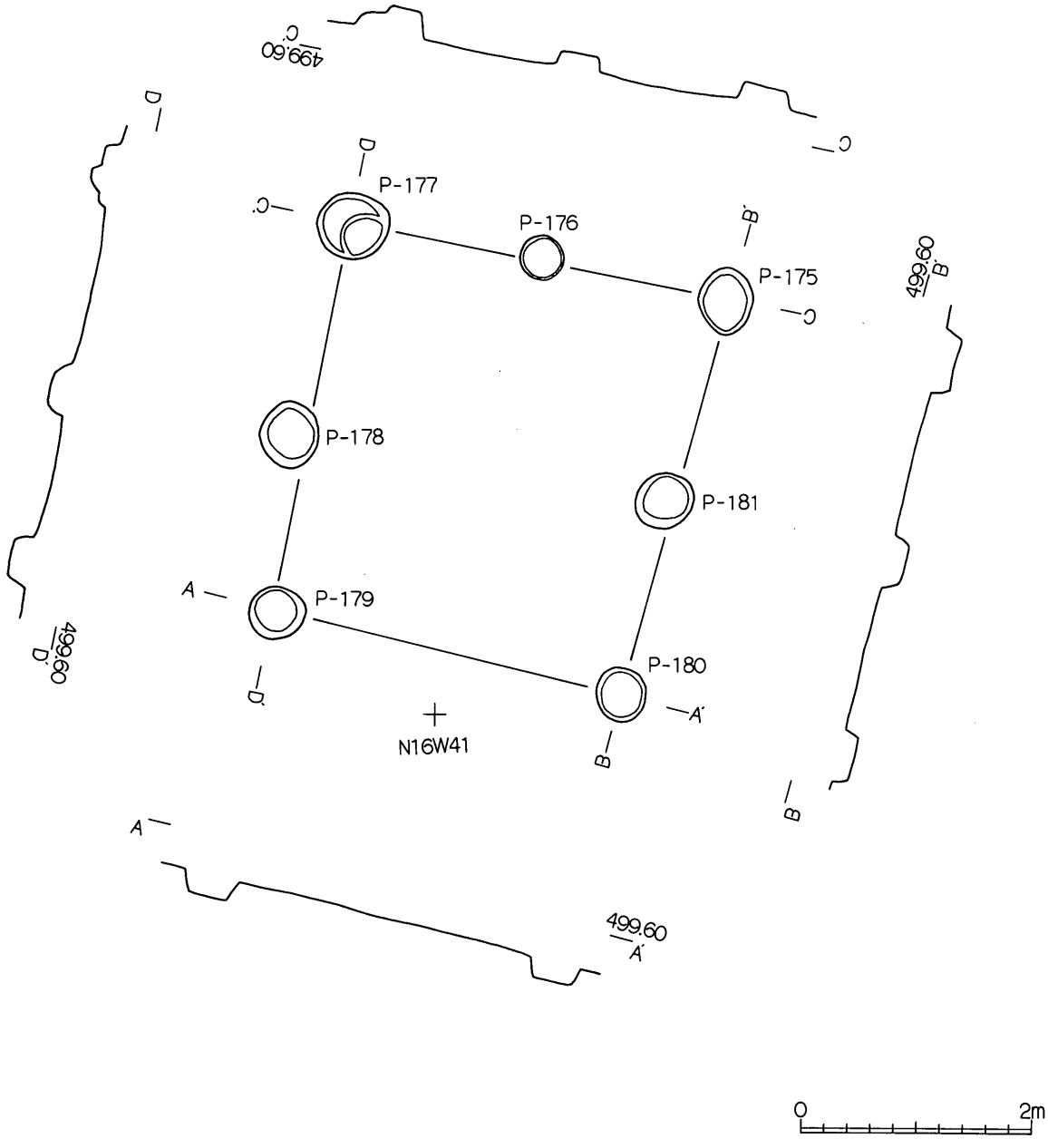
第６０図　第４号掘立柱建物址実測図



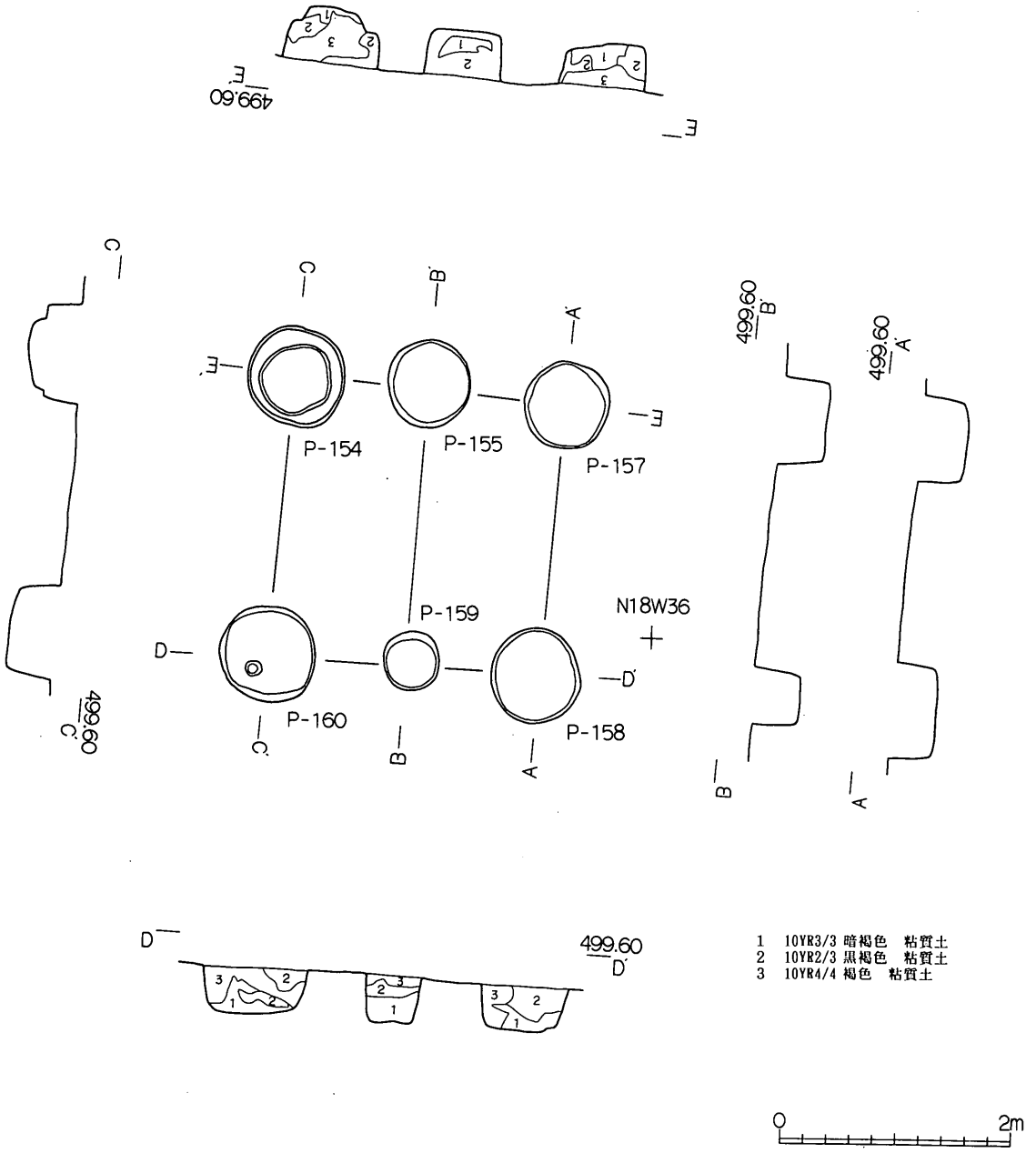
第６１図　第５号掘立柱建物址実測図



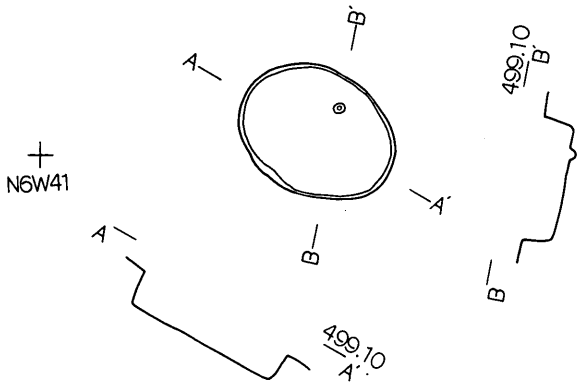
第６２図　第６号掘立柱建物址実測図



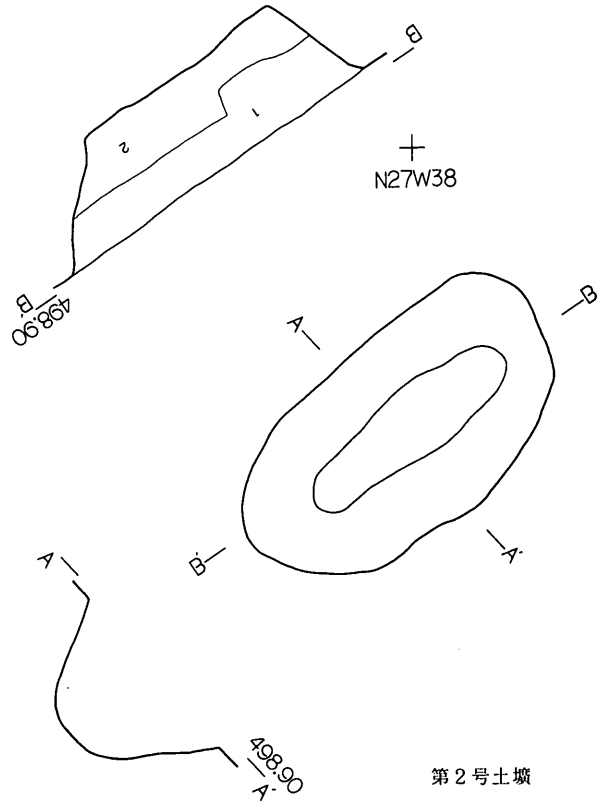
第６３図　第７号掘立柱建物址実測図



第６４図　第８号掘立柱建物址実測図

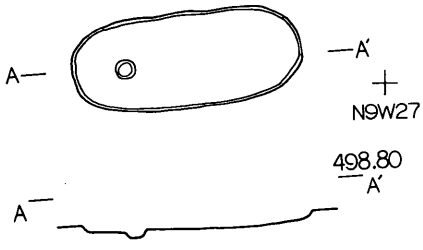


第１号土壌

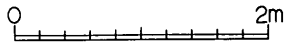


1　10YR2/1 黒色　粘質土
2　10YR3/2 黒褐色　粘質土

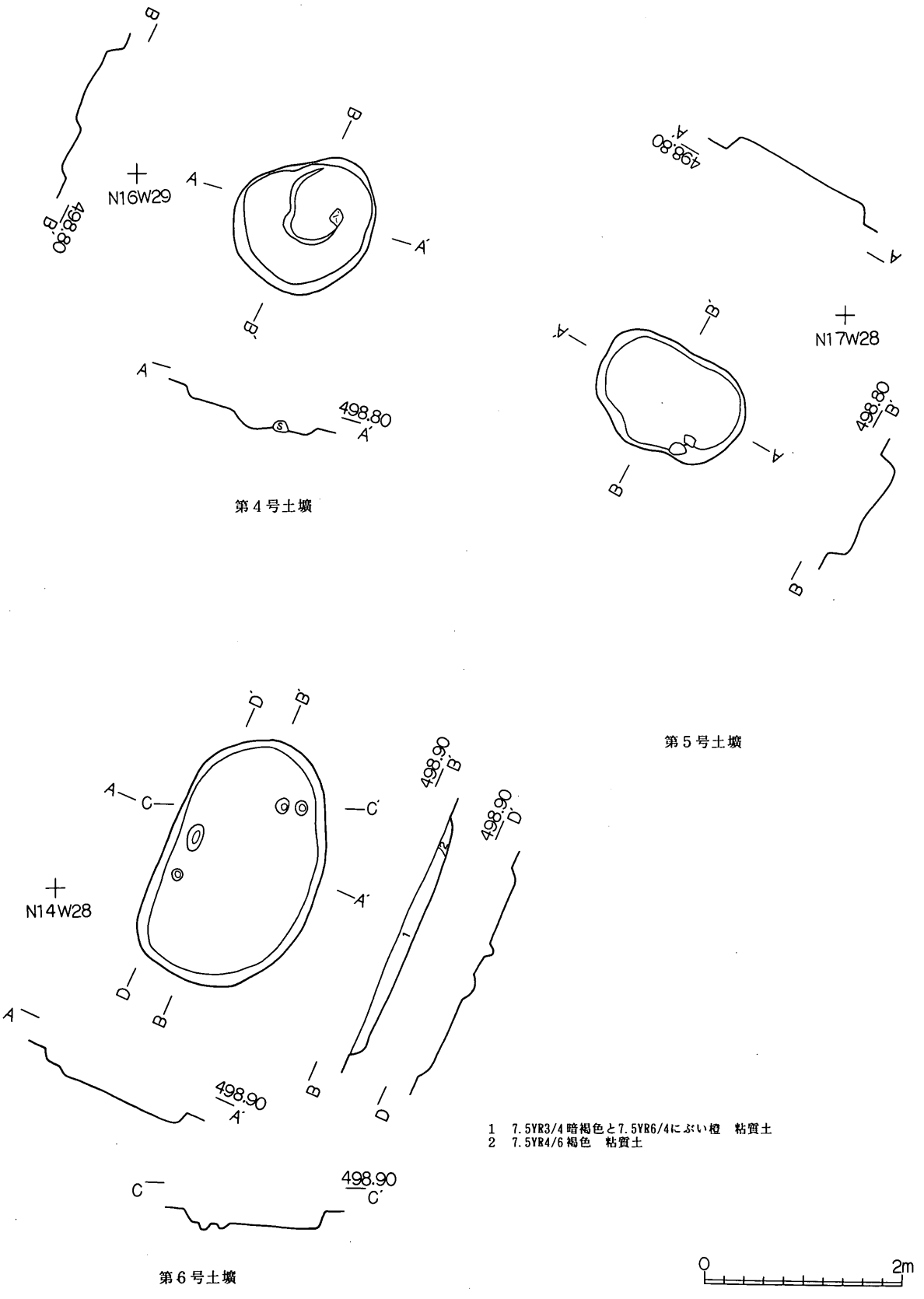
第２号土壌



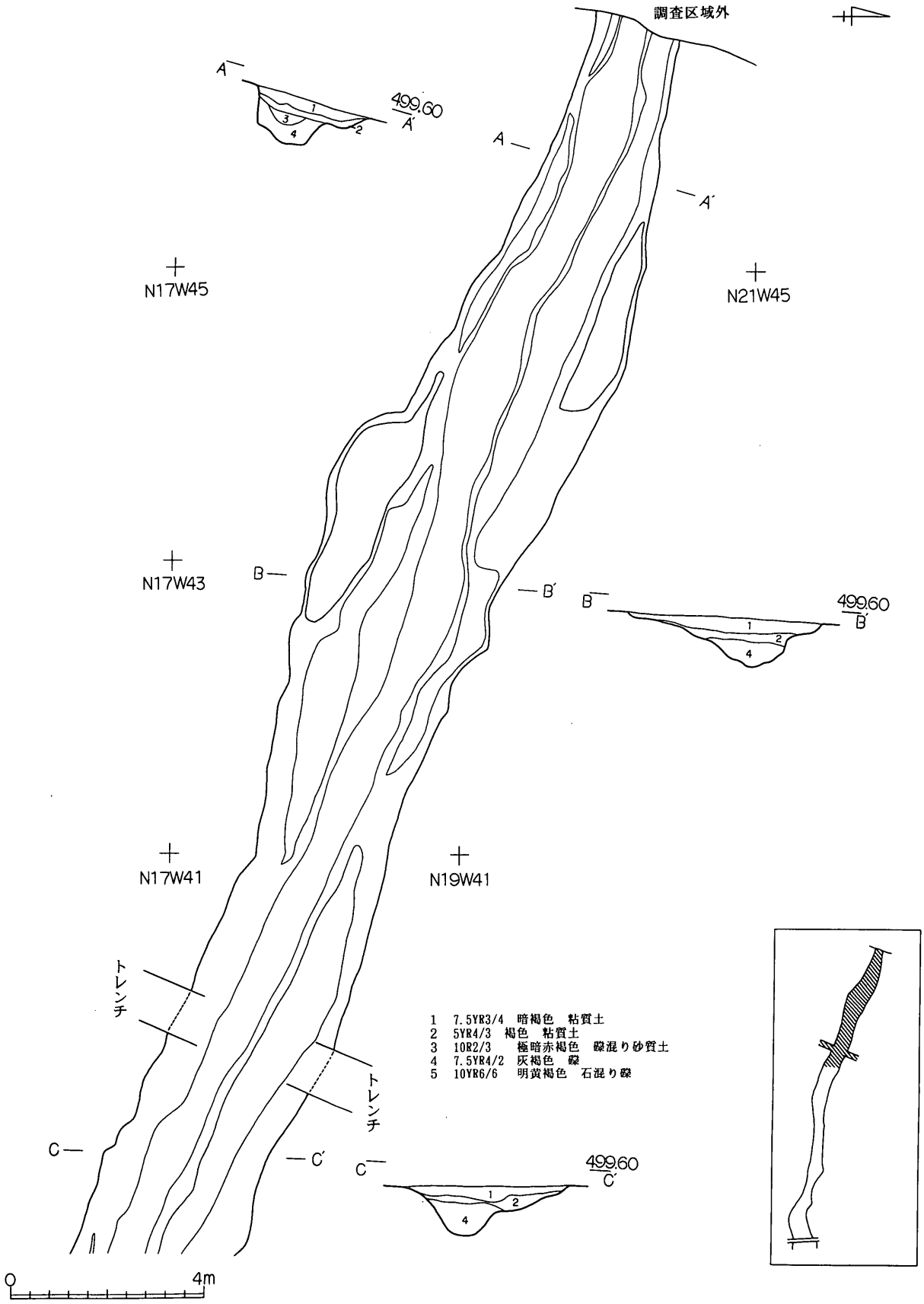
第３号土壌



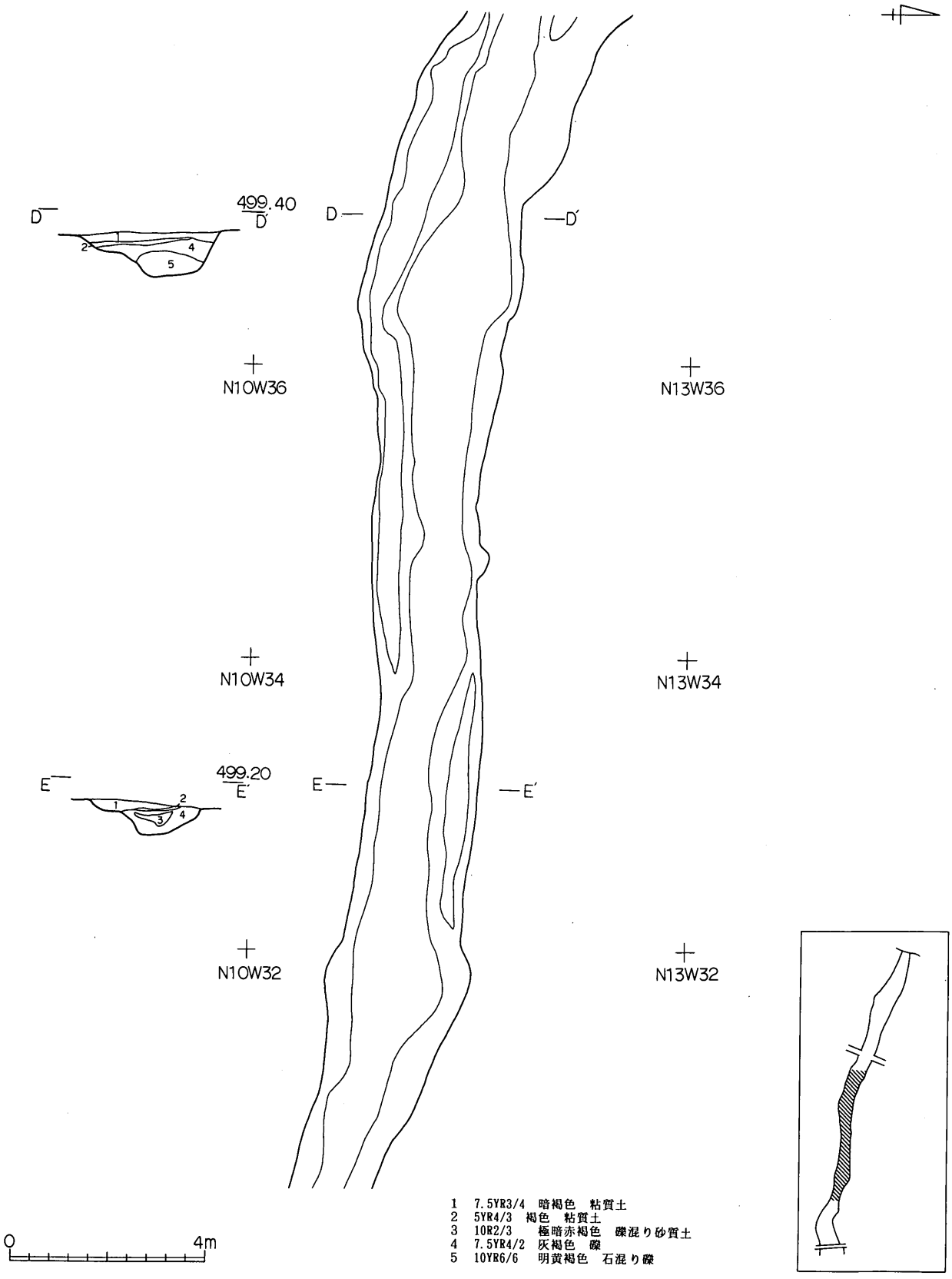
第６５図　土壌実測図（１）


N16W29
498.80
A
A'
B
B'
第４号土壌
N17W28
第５号土壌
N14W28
498.90
C
C'
D
D'
1　7.5YR3/4暗褐色と7.5YR6/4にぶい橙　粘質土
2　7.5YR4/6褐色　粘質土
第６号土壌
0
2m

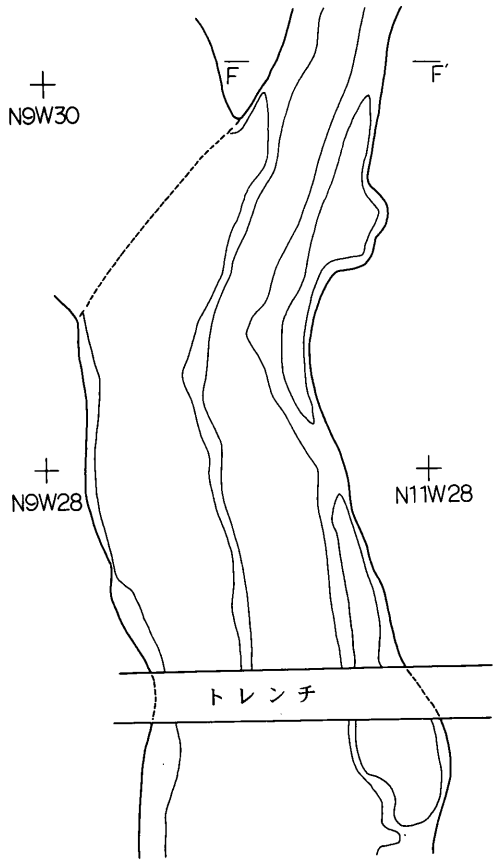
第６６図　土壌実測図（２）

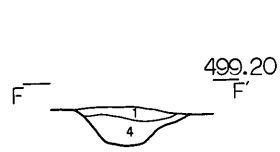

調査区域外
A
A′
499.60
A
A′
N17W45
N21W45
N17W43
B
B′
B
B′
499.60
N17W41
N19W41
トレンチ
トレンチ
1 7.5YR3/4 暗褐色 粘質土
2 5YR4/3 褐色 粘質土
3 10R2/3 極暗赤褐色 礫混り砂質土
4 7.5YR4/2 灰褐色 礫
5 10YR6/6 明黄褐色 石混り礫
C
C′
C
C′
499.60
0
4m

第６７図　第１号溝址（１）

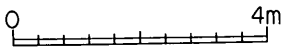

D
499.40
D′
D
D′
N10W36
N13W36
N10W34
N13W34
E
499.20
E′
E
E′
N10W32
N13W32
0
4m
1 7.5YR3/4 暗褐色 粘質土
2 5YR4/3 褐色 粘質土
3 10R2/3 極暗赤褐色 礫混り砂質土
4 7.5YR4/2 灰褐色 礫
5 10YR6/6 明黄褐色 石混り礫

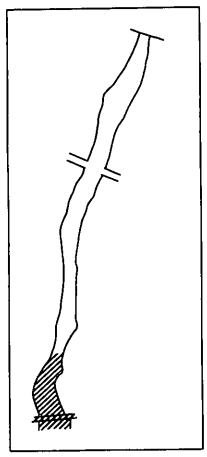
第６８図　第１号溝址（２）



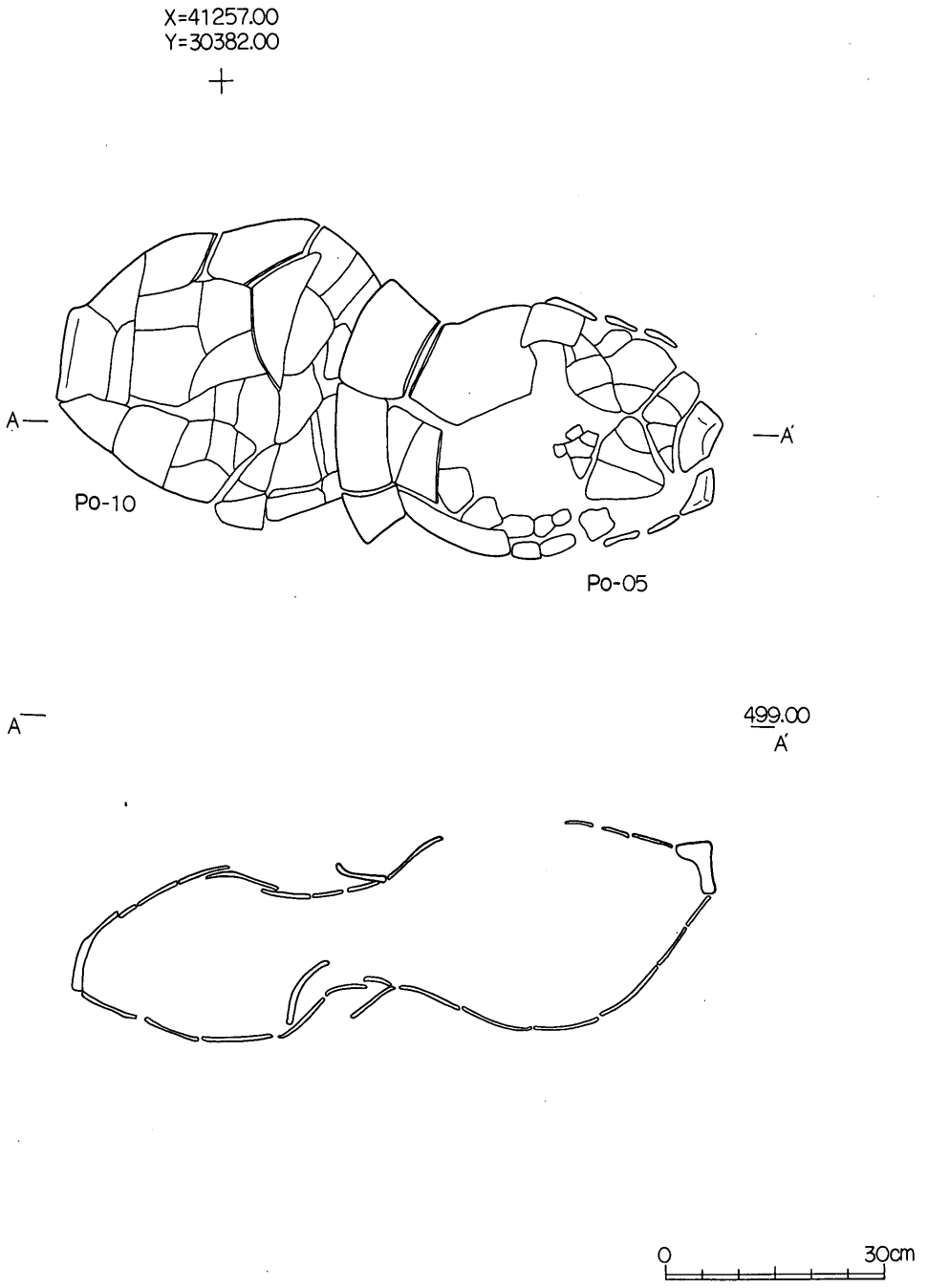


1　7.5YR3/4　暗褐色　粘質土
2　5YR4/3　褐色　粘質土
3　10R2/3　極暗赤褐色　礫混り砂質土
4　7.5YR4/2　灰褐色　礫
5　10YR6/6　明黄褐色　石混り礫





第６９図　第１号溝址（３）



第７０図　Ｐｏ－０５・１０出土状況図

第２節　遺構観察表

遺構	ＳＢ－０１	形態 方位 規模	隅丸方形 N-13°-W 3.3×3.1	壁高 床高 床面積	0.23(N)~0.17(E) 496.34~496.39 8.8	竈	位置 方位 規模	北壁やや東寄り N-11°-E 0.93×0.90
図版	第５図							
柱穴	P1(0.36×0.35×0.20)　P2(0.38×0.34×0.16)							
備考	(1) 竈の東、壁際に土師器の甕が半分床下に埋設されている。 (2) 竈の遺存状態は極めて良好で、天井石・袖石等がほぼ完存している。 (3) 所属時期：８世紀中頃							

遺構	ＳＢ－０２	形態 方位 規模	隅丸長方形 N-90°-E ?×3.14	壁高 床高 床面積	0.16(S) 496.38~496.45 ?	竈	位置 方位 規模	東壁中央 N-90°-E 0.94×0.90
図版	第６図							
柱穴	なし							
備考	(1) 所属時期：不明							

遺構	ＳＢ－０３	形態 方位 規模	隅丸長方形 N-10°-W (5.1)×(4.3)	壁高 床高 床面積	0.12(W)~0.07(N) 496.50~496.54 ?	竈	位置 方位 規模	北壁中央 N-10°-E 0.85×0.92
図版	第７図							
柱穴	P1(0.80×0.30×0.06)　P2(0.72×0.38×0.06)　P3(0.92×0.32×0.06)							
備考	(1) ＳＢ－０３、０４に東南の床と壁の一部を切られる。 (2) 竈焚口に土師器甕２個体分が出土。１個体は甑の可能性もある。 (3) 西と南に周溝が巡る。 (4) 所属時期：８世紀中頃							

遺構	ＳＢ－０４	形態 方位 規模	隅丸長方形？ N-6°-W 4.02×?	壁高 床高 床面積	0.30(E)~ 496.32~496.40 ?	竈	位置 方位 規模	北壁中央 N-8°-W 1.06×0.80
図版	第８図							
柱穴	P1(0.92×0.52×0.08)							
備考	(1) ＳＢ－０５に南半分の床と壁、東壁の一部を切られ、ＳＢ－０３を切る。 (2) 西壁に周溝が巡る。 (3) 所属時期：８世紀後半							

遺構	ＳＢ－０５	形態 方位 規模	隅丸方形 N-3°-W 4.50×4.40	壁高 床高 床面積	0.35(E)~0.08(N) 496.30~496.39 17.5	竈	位置 方位 規模	北壁中央東寄り N-7°-W 0.80×0.85
図版	第９図							
柱穴	P1(0.36×0.35×0.24)　P2(0.18×0.18×0.06)　P3(0.20×0.18×0.11)　P4(0.22×0.20×0.12) P5(0.35×0.30×0.08)　P6(0.40×0.38×0.10)　P7(0.22×0.20×0.08)　P8(0.53×0.42×0.12) P9(0.24×0.22×0.13)							
備考	(1) 竈は北壁に造り出し袖はない。天井石が残る。 (2) 東壁と西壁の中央に、対峙する形で柱穴がある。 (3) 所属時期：８世紀末～９世紀初頭							

第２表　遺構観察表（１）

遺構	ＳＢ－０６	形態 方位 規模	隅丸方形 S-89°-E 3.9×3.8	壁　高 床　高 床面積	0.20(E)~0.06(W) 496.50~496.55 14.2	竈	位置 方位 規模	東壁中央 N-95°-E 1.0×0.7
図版	第１０図							
柱穴	P1(0.26×0.26×0.10)　P2(0.30×0.24×0.08)　P3(0.18×0.18×0.08)　P4(0.44×0.40×0.18) P5(0.25×0.25×0.08)　P6(0.30×0.26×0.13)　P7(0.30×0.28×0.06)　P8(0.38×0.37×0.15)							
備考	(1) P-26、P-28に南壁の一部を切られる。 (2) 所属時期：不明							

遺構	ＳＢ－０７	形態 方位 規模	隅丸長方形？ N-5°-W ?×3.91	壁　高 床　高 床面積	0.18(N)~0.14(E) 496.44~496.54 ?	竈	位置 方位 規模	北壁（東寄り?） N-15°-W 0.80×0.90
図版	第１１図							
柱穴	P1(0.30×0.26×0.13)　P2(0.36×0.30×0.07)　P3(0.17×0.17×0.15)							
備考	(1) 暗渠排水管に東壁及び床を切られ、西側は調査区域外となる。 (2) 住居址北側、竈の南に頭大の礫が集中して出土する。 (3) 竈の東、住居址北東隅に貯蔵穴(0.80×0.40×0.14)あり。 (4) 所属時期：８世紀末～９世紀前半							

遺構	ＳＢ－０８	形態 方位 規模	隅丸方形 N 3.72×3.70	壁　高 床　高 床面積	0.10(S)~0.05(W) 496.27~496.35 10.8	竈	位置 方位 規模	北壁中央 N-2°-W 1.05×0.75
図版	第１２図							
柱穴	P1(0.40×0.33×0.13)　P2(0.48×0.45×0.26)							
備考	(1) 東壁沿いに周溝あり。 (2) 所属時期：７世紀後半							

遺構	ＳＢ－０９	形態 方位 規模	隅丸方形 N-93°-E 3.40×3.10	壁　高 床　高 床面積	0.14(W)~0.06(S) 496.48~496.55 9.2	竈	位置 方位 規模	東壁中央南寄り N-92°-E 0.75×0.80
図版	第１３図							
柱穴	P1(0.32×0.31×0.18)							
備考	(1) 所属時期：不明							

遺構	ＳＢ－１０	形態 方位 規模	隅丸長方形 N-93°-E 3.90×3.30	壁　高 床　高 床面積	0.26(W)~0.16(N) 496.45~496.50 10.7	竈	位置 方位 規模	東壁中央 N-92°-E 1.10×0.65
図版	第１４図							
柱穴	P1(0.48×0.42×0.30)							
備考	(1) 住居址南西角に土坑(1.00×0.85×0.28)あり。 (2) SB-11を切る (3) 所属時期：不明							

第３表　遺構観察表（２）

遺構	ＳＢ－１１	形態	隅丸長方形	壁高	0.16(N)~0.07(W)	竈	位置	北壁中央
図版	第１５図	方位	N-4°-W	床高	496.31~496.40		方位	N-1°-U
		規模	4.20×4.00	床面積	16.8		規模	1.60×1.08
柱穴	P1(0.24×0.16×0.12)　P2(0.40×0.14×0.12)　P3(0.32×0.29×0.05)　P4(0.28×0.20×0.10) P5(0.16×0.16×0.05)							
備考	(1) SB-10,12に切られ、南壁の大部を暗渠排水管に切られる。 (2) 住居址東壁から南壁に沿って周溝あり。 (3) 竈の袖は造りだしとなっている。 (4) 所属時期：８世紀前半							

遺構	ＳＢ－１２	形態	隅丸長方形	壁高	0.30(N)~0.26(E)	竈	位置	東壁中央
図版	第１６図	方位	N-90°-E	床高	496.49~496.42		方位	N-100°-E
		規模	3.50×3.32	床面積	10.6		規模	0.60×0.55
柱穴	P1(0.40×0.38×0.06)							
備考	(1) SB-11,14を切る。 (2) 所属時期：８世紀末～９世紀初頭							

遺構	ＳＢ－１３	形態	隅丸長方形	壁高	0.26(N)~0.23(S)	竈	位置	東壁中央南寄り
図版	第１７図	方位	N-91°-E	床高	496.15~496.10		方位	N-104°-E
		規模	3.02×?	床面積	?		規模	0.80×0.80
柱穴	P1(0.16×0.15×0.08)　P2(0.30×0.28×0.06)　P3(0.62 0.40×0.10)　P4(0.18 0.16×0.06) P5(0.28 0.25×0.06)　P6(0.28 0.26×0.07)　P7(0.10×0.10×0.05)							
備考	(1) 住居址西壁を試掘トレンチで失う。 (2) 所属時期：８世紀後半							

遺構	ＳＢ－１４	形態	隅丸方形	壁高	0.20(W)~0.10(E)	竈	位置	北壁東寄り
図版	第１８図	方位	N-3°-E	床高	496.60~496.54		方位	?
		規模	3.8×3.7	床面積	12.2		規模	?×1.05
柱穴	P1(0.16×0.15×0.12)							
備考	(1) SB-12に竈の煙道部を切られ、西壁を暗渠排水管に切られる。 (2) 竈の東、住居址北東角に貯蔵穴(0.90×0.38×0.10)あり。 (3) 所属時期：７世紀後半？							

遺構	ＳＢ－１５	形態	隅丸長方形	壁高	0.28(S)~0.16(N)	竈	位置	北壁東寄り
図版	第１９図	方位	N-3°-W	床高	496.50~496.44		方位	N-5°-U
		規模	3.50×3.13	床面積	8.5		規模	0.80×0.80
柱穴	なし							
備考	(1) 住居址覆土は砂礫で、浦野川の氾濫によるものと思われる。 (2) 所属時期：８世紀前半							

第 4 表　　遺構観察表（3）

遺構	ＳＢ－１６	形態 方位 規模	隅丸方形 N-84°-W 3.80×3.80	壁　高 床　高 床面積	0.11(N)~0.06(S) 496.52~496.40 14.4	竈	位置 方位 規模	西壁中央 N-89°-W 0.46×1.16
図版	第２０図							
柱穴	なし							
備考	所属時期：８世紀前半							

遺構	ＳＢ－１７	形態 方位 規模	隅丸方形？ N-7°-E? 6.4×?	壁　高 床　高 床面積	0.16(N)~0(S) 496.76~496.64 ?	竈	位置 方位 規模	? ? ?
図版	第２１図							
柱穴	P1(0.40×0.34×0.14)　Ｐ２(?半分調査区域外)							
備考	(1) SB-18を切る。 (2) 西半部分調査区域外 (3) 所属時期：？							

遺構	ＳＢ－１８	形態 方位 規模	隅丸長方形 N-98°-E 4.3×3.6	壁　高 床　高 床面積	0.20(E)~0.10(W) 496.61~496.54 15.4	竈	位置 方位 規模	東壁南寄り N-108°-E 0.7×0.9
図版	第２２図							
柱穴	なし							
備考	(1) SB-17、暗渠排水管に切られる。 (2) 竈の燃焼室のレベルは、床面より一段低くなっている。 (3) 所属時期：８世紀末～９世紀初頭？							

遺構	ＳＢ－１９	形態 方位 規模	隅丸方形 N-5°-W? ?×3.2	壁　高 床　高 床面積	0.08(N)~0.04(S) 496.72~496.65 ?	竈	位置 方位 規模	北壁 ? 1.1×?
図版	第２３図							
柱穴	P1(0.22×0.21×0.08)　P2(0.26×0.25×0.05)　P3(0.23×0.20×0.06)							
備考	(1) 竈がSB-17を切る。 (2) 住居址西側は調査区域外となる。 (3) 床面に浅い周溝がめぐる。 (4) 所属時期：？							

遺構	ＳＢ－２０	形態 方位 規模	隅丸長方形？ ? ?	壁　高 床　高 床面積	0.30(N) 496.72 ?	竈	位置 方位 規模	? ? ?
図版	第２４図							
柱穴	?							
備考	(1) 住居址の大部分がSB-26･27に切られる。 (2) 所属時期：８世紀末～９世紀初頭							

第 5 表　　遺構観察表（4）

遺構	ＳＢ－２１	形態	隅丸長方形？	壁高	0.20(S)~0.17(N)	竈	位置	?
図版	第２５図	方位	?	床高	496.63~496.59		方位	?
		規模	5.3x?	床面積	?		規模	?
柱穴	?							
備考	(1) SB-22を切る。 (2) 住居址の西側大半は調査区域外となる。 (3) 所属時期：８世紀末～９世紀初頭							

遺構	ＳＢ－２２	形態	隅丸方形？	壁高	0.10(S)~0.05(N)	竈	位置	?
図版	第２６図	方位	?	床高	496.67~496.57		方位	?
		規模	4.4x?	床面積	?		規模	?
柱穴	P1(0.54x0.02x0.20)　P2(0.75x0.37x0.22)							
備考	(1) SB-21に切られる。 (2) 住居址の西側は調査区域外となる。 (3) 所属時期：？							

遺構	ＳＢ－２３	形態	隅丸方形	壁高	0.16(E)~0.12(N)	竈	位置	東壁中央
図版	第２７図	方位	N-105°-E	床高	496.60~496.55		方位	N-89°-E
		規模	2.9x2.8	床面積	6.5		規模	0.9x0.9
柱穴	なし							
備考	(1) SB-32を切る。 (2) 所属時期：８世紀前半							

遺構	ＳＢ－２４	形態	隅丸方形	壁高	0.18(E)~0.06(N)	竈	位置	西壁北寄り
図版	第２８図	方位	N-94°-▽	床高	496.71~496.57		方位	N-96°-▽
		規模	3.1x2.7	床面積	8.3		規模	0.76x0.90
柱穴	なし							
備考	(1) 所属時期：８世紀後半							

遺構	ＳＢ－２５	形態	隅丸方形	壁高	0.23(S)~0.04(▽)	竈	位置	?
図版	第２９図	方位	N	床高	496.67~496.57		方位	?
		規模	3.74x3.70	床面積	?		規模	?
柱穴	なし							
備考	(1) SB-26、27に切られる。 (2) 所属時期：？							

第 6 表　遺構観察表（5）

遺構	ＳＢ－２６	形態	隅丸方形	壁高	0.32(E)	竈	位置	東壁南寄り
図版	第３０図	方位	N-96°-E	床高	496.44~496.52		方位	N-99°-E
		規模	4.40×3.90	床面積	17.1		規模	1.00×0.90
柱穴	？							
備考	(1) SB-20、25、27をきる。 (2) 竈内に土師器甕片が敷かれるように出土する。 (3) 所属時期：９世紀半ば							

遺構	ＳＢ－２７	形態	隅丸方形	壁高	0.25(E)~0.19(W)	竈	位置	？
図版	第３１図	方位	N-7°-E?	床高	496.52~496.48		方位	？
		規模	？	床面積	？		規模	？
柱穴	P1(0.68×0.58×0.17)　P2(0.44×0.41×0.17)							
備考	(1) SB-26に切られる。 (2) 所属時期：８世紀末～９世紀前半							

遺構	ＳＢ－２８	形態	隅丸長方形	壁高	0.05(W)~0(E)	竈	位置	東壁中央
図版	第３２図	方位	N-90°-E	床高	496.72~496.68		方位	N-90°-E
		規模	3.5×2.6	床面積	8.7		規模	0.54×0.60
柱穴	P1(0.46×0.34×0.12)　P2(0.34×0.21×0.16)							
備考	(1) SB-29に南壁を切られる。 (2) 所属時期：？							

遺構	ＳＢ－２９	形態	隅丸長方形	壁高	0.08(N)~0(S)	竈	位置	？
図版	第３３図	方位	N-7°-E	床高	496.74~496.68		方位	？
		規模	4.8×3.9	床面積	18.6		規模	？
柱穴	P1(0.22×0.21×0.14)　P2(0.60×0.43×0.15)　P3(0.36×0.34×0.11)　P4(0.34×0.30×0.15)							
備考	(1) SB-28を切る。 (2) 所属時期：？							

遺構	ＳＢ－３０	形態	隅丸方形	壁高	0.22(S)~0.10(W)	竈	位置	北壁東寄り
図版	第３４図	方位	N-16°-W	床高	496.55~496.46		方位	N-10°-W
		規模	4.8×4.8	床面積	21		規模	0.9×0.6
柱穴	P1(0.50×0.40×0.08)　P2(0.52×0.48×0.18)							
備考	(1) SB-33を切る。 (2) 所属時期：８世紀半ば							

第 7 表　遺構観察表（6）

遺構	ＳＢ－３１	形態 方位 規模	隅丸方形 N-99°-E 3.3×3.0	壁　高 床　高 床面積	0.22(N)~0.11(E) 496.62~496.55 8.9	竈	位置 方位 規模	東壁中央 N-92°-E 0.74×0.86
図版	第３５図							
柱穴	P1(0.18×0.18×0.06)							
備考	(1) 住居址西側を暗渠排水管に切られる。 (2) SB-32を切る。 (3) 所属時期：８世紀半ば～後半							

遺構	ＳＢ－３２	形態 方位 規模	隅丸方形 N-8°-E 3.58×3.54	壁　高 床　高 床面積	0.24(N)~0.13(W) 496.32~496.25 11.0	竈	位置 方位 規模	北壁東寄り N-8°-E? 0.4×0.7
図版	第３６図							
柱穴	なし							
備考	(1) SB-23、31に切られるものの、床面は完存する。 (2) SB-23に竈を切られ、竈の状態は不明確である。 (3) 所属時期：８世紀前半							

遺構	ＳＢ－３３	形態 方位 規模	隅丸長方形 N-87°-W 5.8×4.6	壁　高 床　高 床面積	0.12(E)~0.08(N) 496.55~496.50 23.7?	竈	位置 方位 規模	? ? ?
図版	第３７図							
柱穴	なし							
備考	(1) SB-30に大部分を切られる。 (2) 所属時期：？							

遺構	ＳＢ－４１	形態 方位 規模	隅丸長方形 N-5.5°-E 4.8×2.9	壁　高 床　高 床面積	0.18(W)~0.13(S) 498.70~498.62 14.4	竈	位置 方位 規模	北壁中央 N-5.5°-E 0.84×0.76
図版	第３８図							
柱穴	P1(0.57×0.46×0.29)　P2(0.24×0.22×0.29)　P3(0.27×0.24×0.12)							
備考	(1) 所属時期：不明							

遺構	ＳＢ－４２	形態 方位 規模	隅丸長方形 N-0.1°-E 4.4×3.7	壁　高 床　高 床面積	0.20(W)~0.06(E) 498.68~498.60 14.7	竈	位置 方位 規模	北壁中央 N-7°-E 1.2×0.9
図版	第３９図							
柱穴	P1(0.26×0.26×0.06)　P2(0.32×0.31×0.24)　P3(0.25×0.25×0.16)　P4(0.44×0.39×0.38) P5(0.47×0.46×0.12)　P6(0.26×0.25×0.06)							
備考	(1) 竈の東、住居址北東隅に貯蔵穴(0.74×0.60×0.28)がある。 (2) 南と東の壁の一部を暗渠排水に切られる。 (3) 所属時期：７世紀後半							

第 8 表　遺構観察表（7）

遺構	ＳＢ－４３	形態	隅丸長方形	壁高	0.26(W)~0.11(S)	竈	位置	北壁中央
図版	第４０図	方位	N-29°-E	床高	498.51~498.45		方位	N-32°-E
		規模	5.1x4.6	床面積	19.5		規模	0.9x1.0
柱穴	P1(0.43x0.28x0.06) P2(0.50x0.40x0.12) P3(0.43x0.40x0.18) P4(0.22x0.20x0.06) P5(0.38x0.36x0.08) P6(0.22x0.12x0.20) P7(0.68x0.53x0.10) P8(0.34x0.32x0.12) P9(0.34x0.33x0.08)							
備考	(1) 竈の残存状況は著しく悪い。 (2) 所属時期：７世紀後半							

遺構	ＳＢ－４４	形態	隅丸方形	壁高	0.25(E)~0.08(S)	竈	位置	北壁中央
図版	第４１図	方位	N-33°-E	床高	498.40~498.32		方位	N-32°-E
		規模	5.5x5.3	床面積	26.4		規模	2.5x0.8
柱穴	P1(0.30x0.28x0.18) P2(0.44x0.40x0.38) P3(0.44x0.37x0.14) P4(0.68x0.50x0.09) P5(0.48x0.40x0.38) P6(0.28x0.28x0.32) P7(0.50x0.43x0.32)							
備考	(1) 南壁際と東壁側に周溝が巡る。 (2) 住居址北東角を試掘トレンチで切る。 (3) 所属時期：７世紀後半							

遺構	ＳＢ－４５	形態	隅丸長方形	壁高	0.22(N)~0.13(S)	竈	位置	北壁中央
図版	第４２図	方位	N-26°-E	床高	498.50~498.40		方位	N-24°-E
		規模	4.6x3.6	床面積	14.2		規模	2.4x0.75
柱穴	P1(0.57x0.48x0.17) P2(0.23x0.18x0.12) P3(0.57x0.51x0.19) P4(0.40x0.37x0.12)							
備考	(1) 竈焚口に框石が据えられる。 (2) 所属時期：不明							

遺構	ＳＢ－４６	形態	隅丸長方形	壁高	0.32(S)~0.14(E)	竈	位置	北壁中央
図版	第４３図	方位	N-0.5°-E	床高	499.39~499.24		方位	N-0.5°-W
		規模	3.5x3.3	床面積	8.4		規模	0.42x1.02
柱穴	P1(0.53x0.50x0.08) P2(0.12x0.11x0.06) P3(0.62x0.39x0.09)							
備考	(1) 覆土から炭化物が多量に出土する。 (2) 床面中央から編物石が集中して出土する。 (3) 所属時期：５世紀後半～６世紀							

遺構	ＳＢ－４７	形態	隅丸長方形	壁高	0.10(S)	竈	位置	東壁中央
図版	第４４図	方位	N-85°-E	床高	499.30~499.22		方位	?
		規模	?x2.9	床面積	?		規模	?
柱穴	P1(0.22x0.21x0.13) P2(0.22x0.21x0.10) P3(0.34x0.32x0.08) P4(0.18x0.18x0.06)							
備考	(1) 住居址西側を試掘トレンチに切られる。 (2) 焼土が東壁際に残り、竈の跡と思われるが、不明確である。 (3) 所属時期：不明							

第 9 表　遺構観察表（8）

遺構	ＳＢ－４８	形態	隅丸方形？	壁高	0.07(NE)~0.06(SW)	竈	位置	？
図版	第４５図	方位	？	床高	499.15~499.20		方位	？
		規模	？	床面積	？		規模	？
柱穴	P1(0.38×0.34×0.30)							
備考	(1) 住居址の大部分は調査区域外となる。 (2) 所属時期：７世紀後半							

遺構	ＳＢ－４９	形態	隅丸方形	壁高	0.24(W)~0.10(E)	竈	位置	北壁中央
図版	第４６図	方位	N	床高	499.28~499.08		方位	N-6.5°-W
		規模	6.2×5.8	床面積	36.0		規模	2.2×0.8
柱穴	P1(0.54×0.52×0.11) P2(0.52×0.50×0.12) P3(0.38×0.34×0.11) P4(0.50×0.42×0.09) P5(0.29×0.26×0.09) P6(0.62×0.56×0.09) P7(0.34×0.29×0.07)							
備考	(1) 東壁際から銀環が出土する。 (2) 竈内に土師器甕が２個体出土する。 (3) SB-50を切る。 (4) 所属時期：７世紀後半～８世紀前半							

遺構	ＳＢ－５０	形態	隅丸方形？	壁高	0.18(E)~0.05(S)	竈	位置	北壁
図版	第４７図	方位	N-7°-E	床高	499.22~499.11		方位	N-6°-E
		規模	3.4×?	床面積	?		規模	1.6×0.6
柱穴	？							
備考	(1) SB-49に切られる。 (2) 住居址西側は調査区域外となる。 (3) 所属時期：不明							

遺構	ＳＢ－５１	形態	隅丸長方形	壁高	0.30(S)~0.18(W)	竈	位置	北壁中央西寄り
図版	第４８図	方位	N-4°-W	床高	498.98~498.90		方位	N-7°-W
		規模	5.0×4.2	床面積	19.5		規模	0.82×0.70
柱穴	P1(0.38×0.33×0.11) P2(0.38×0.32×0.11) P3(0.34×0.32×0.10) P4(0.30×0.26×0.12) P5(0.26×0.24×0.10)							
備考	(1) 西壁際に僅かに周溝がある。 (2) 所属時期：７世紀後半							

遺構	ＳＢ－５２	形態	隅丸長方形	壁高	0.31(N)~0.17(W)	竈	位置	北壁中央
図版	第４９図	方位	N-4°-E	床高	498.92~498.85		方位	N-19°-E
		規模	4.94×3.40	床面積	13.9		規模	0.7×0.7
柱穴	P1(0.39×0.32×0.20) P2(0.56×0.50×0.22) P3(0.32×0.32×0.18)							
備考	(1) SB-53を切る (2) 所属時期：７世紀後半～８世紀前半							

第１０表　遺構観察表（９）

遺構	ＳＢ－５３	形態 方位 規模	隅丸長方形 N-5°-E 4.36×3.50	壁　高 床　高 床面積	0.24(S)~0.14(N) 498.65~498.53 ?	竈	位置 方位 規模	? ? ?
図版	第５０図							
柱穴	なし							
備考	(1) SB-52に切られる。 (2) 所属時期：不明							

遺構	ＳＢ－５４	形態 方位 規模	隅丸長方形 N-82°-W 5.28×4.36	壁　高 床　高 床面積	0.24(S)~0.18(W) 498.83~498.82 20.7	竈	位置 方位 規模	? ? ?
図版	第５１図							
柱穴	なし							
備考	(1) 検出のプランが不明確で、サブトレンチを入れて、SB-55に切られていると判断して彫り上げたが、あるいはSB-55の拡張、もしくは壁際のベッド状遺構に相当する可能性もある。 (2) 所属時期：不明							

遺構	ＳＢ－５５	形態 方位 規模	隅丸長方形 N-11°-E 5.2×3.5	壁　高 床　高 床面積	0.38(W)~0.30(E) 498.85~498.78 14.36	竈	位置 方位 規模	北壁中央 N-10°-E 1.7×0.6
図版	第５２図							
柱穴	P1(0.38×0.38×0.38)　P2(0.36×0.35×0.12)							
備考	(1) ＳＢ－５４遺構観察表の備考(１)を参照されたい。 (2) 床面から獣骨出土 (3) 所属時期：７世紀後半							

遺構	ＳＢ－５６	形態 方位 規模	隅丸長方形 N-14°-E 5.04×4.56	壁　高 床　高 床面積	0.42(S)~0.22(N) 498.70~498.20 21.5	竈	位置 方位 規模	北壁東寄り N-15°-E 1.5×0.43
図版	第５３図							
柱穴	P1(0.20×0.18×0.11)　P2(0.55×0.52×0.32)　P3(0.28×0.27×0.16)　P4(0.28×0.27×0.16) P5(0.44×0.34×0.18)　P6(0.46×0.44×0.16)							
備考	(1) 所属時期：７世紀後半							

遺構	ＳＢ－５７	形態 方位 規模	隅丸方形 ? ?	壁　高 床　高 床面積	0.14(NW)~0.08(NE) 498.31~498.25 ?	竈	位置 方位 規模	? ? ?
図版	第５４図							
柱穴	P1(0.59×0.56×0.31)　P2(0.52×0.48×0.17)　P3(0.29×0.27×0.41)							
備考	(1) 所属時期：不明							

第１１表　遺構観察表（１０）

遺構	ＳＢ－５８	形態 方位 規模	隅丸方形 N-4°-E 4.5×4.1	壁　高 床　高 床面積	0.13(N)~0.06(S) 498.80~498.65 17.2	竈	位置 方位 規模	北壁中央 N-23°-E 0.90×0.60
図版	第５５図							
柱穴	なし							
備考	(1) 所属時期：不明							

遺構	ＳＢ－５９	形態 方位 規模	隅丸方形 N-13°-E 5.2×5.0	壁　高 床　高 床面積	0.36(S)~0.20(N) 498.40~498.26 22.6	竈	位置 方位 規模	北壁中央 N-12°-E 1.56×0.85
図版	第５６図							
柱穴	P1(0.35×0.33×0.25)　P2(0.38×0.38×0.16)　P3(0.20×0.20×0.10)　P4(0.37×0.34×0.18) P5(0.32×0.30×0.20)　P6(0.44×0.24×0.12)　P7(0.50×0.47×0.25)							
備考	所属時期：７世紀後半							

遺構	ＳＴ－０１	図版	第５７図	形態	側柱式(4×2間)	方位	N-2°-E	規模	4.64×3.64
柱穴	P-59(0.36×0.34×0.16)　P-54(0.38×0.36×0.10)　P-51(0.40×0.36×0.24) P-49(0.42×0.39×0.37)　P-55(0.38×0.32×0.27)　P-56(0.42×0.37×0.20) P-50(0.33×0.27×0.08)　P-58(0.25×0.22×0.13)								
備考	庇付か？								

遺構	ＳＴ－０２	図版	第５８図	形態	側柱式(6×2間)	方位	N-10°-E	規模	9.30×7.70
柱穴	P-102(0.36×0.34×0.18)　P-103(0.54×0.42×0.24)　P-105(0.44×0.42×0.12) P-106(0.72×0.71×0.40)　P-107(0.42×0.34×0.22)　P-108(0.75×0.64×0.30) P-109(0.80×0.71×0.47)　P-110(0.49×0.45×0.15)　P-111(? ×0.58×0.40) P-112(0.47×0.44×0.25)　P-113(0.68×0.67×0.33)　P-114(0.52×0.48×0.15) P-115(0.58×0.54×0.24)　P-116(0.62×0.60×0.34)　P-117(0.62×0.60×0.17) P-118(0.50×0.47×0.32)　P-120(0.54×0.45×0.44)　P-121(0.50×0.44×0.37)								
備考									

遺構	ＳＴ－０３	図版	第５９図	形態	側柱式(3×2間)	方位	N-15°-E	規模	4.08×3.50
柱穴	P-162(0.71×0.70×0.36)　P-163(0.53×0.51×0.24)　P-164(0.69×0.64×0.32) P-165(0.62×0.60×0.26)　P-166(0.62×0.59×0.28)　P-167(0.78×0.72×0.32) P-168(0.68×0.64×0.27)　P-169(0.48×0.45×0.29)　P-170(0.70×0.64×0.34)								
備考									

第１２表　遺構観察表（１１）

遺構	ＳＴ－０４	図版	第６０図	形態	側柱式(2x2間)	方位	N-12°-E	規模	5.30x5.10
柱穴	P-147(1.04x1.02x0.46) P-148(0.84x0.82x0.63) P-149(1.03x0.96x0.63) P-150(0.93x0.84x0.35) P-151(1.20x1.02x0.88) P-152(1.04x0.92x0.50) P-153(0.74x0.73x0.32) P-154(0.88x 0.62x0.70)								
備考									

遺構	ＳＴ－０５	図版	第６１図	形態	側柱式(2x1間)	方位	N	規模	2.25x1.93
柱穴	P-204(0.53x0.49x0.51) P-205(0.51x0.44x0.49) P-206(0.58x0.52x0.52) P-207(0.54x0.51x0.48) P-208(0.63x0.56x0.37) P-209(0.59x0.55x0.52)								
備考									

遺構	ＳＴ－０６	図版	第６２図	形態	側柱式(2x2間)	方位	N-11°-E	規模	3.66x3.56
柱穴	P-193(0.41x0.40x0.20) P-194(0.25x0.22x0.13) P-195(0.27x0.24x0.20) P-196(0.20x0.16x0.10) P-197(0.26x0.25x0.15) P-198(0.26x0.23x0.10) P-199(0.32x0.30x0.23) P-200(0.45x0.44x0.14) P-201(0.40x0.36x0.16)								
備考									

遺構	ＳＴ－０７	図版	第６３図	形態	側柱式(2x2間)	方位	N-12°-E	規模	3.88x3.86
柱穴	P-175(0.57x0.49x0.16) P-176(0.37x0.36x0.12) P-177(0.64x0.58x0.24) P-178(0.56x0.52x0.15) P-179(0.48x0.45x0.20) P-180(0.46x0.43x0.18) P-181(0.52x0.48x0.16)								
備考									

遺構	ＳＴ－０８	図版	第６４図	形態	側柱式(2x1間)	方位	N-10°-E	規模	3.14x3.10
柱穴	P-154(0.89x0.83x0.47) P-155(0.74x0.72x0.40) P-157(0.74x0.72x0.40) P-158(0.82x0.78x0.38) P-159(0.51x0.46x0.41) P-160(0.87x0.82x0.39)								
備考									

遺構		ＳＫ－０１	ＳＫ－０２	ＳＫ－０３	ＳＫ－０４	ＳＫ－０５	ＳＫ－０６
図版		第６５図	第６５図	第６５図	第６６図	第６６図	第６６図
平面形態		楕円形	楕円形	楕円形	円形	楕円形	楕円形
断面形態		たらい状	舟底状	たらい状	たらい状	たらい状	たらい状
規模	長径	１．２８	２．８８	１．８１	?	１．５８	２．６０
	短径	０．９８	１．５０	０．７４	１．２６	１．０８	１．６０
	深さ	０．２３	０．８４	０．０７	１．４８	０．２２	０．１７

第１３表　遺構観察表（１２）

1　A地区全体写真（北から。写真奥丘陵裾を浦野川が流れる）

2　A地区（写真中央）B地区（写真右）全体写真（東から。写真右奥に子檀嶺岳）

3 B地区全体写真（東から。写真右奥に子檀嶺岳）

4 B地区全体写真（西から。写真右奥手前に川西丘陵、その奥に小牧山塊）

5　SB-01礫出土状況
（南から）

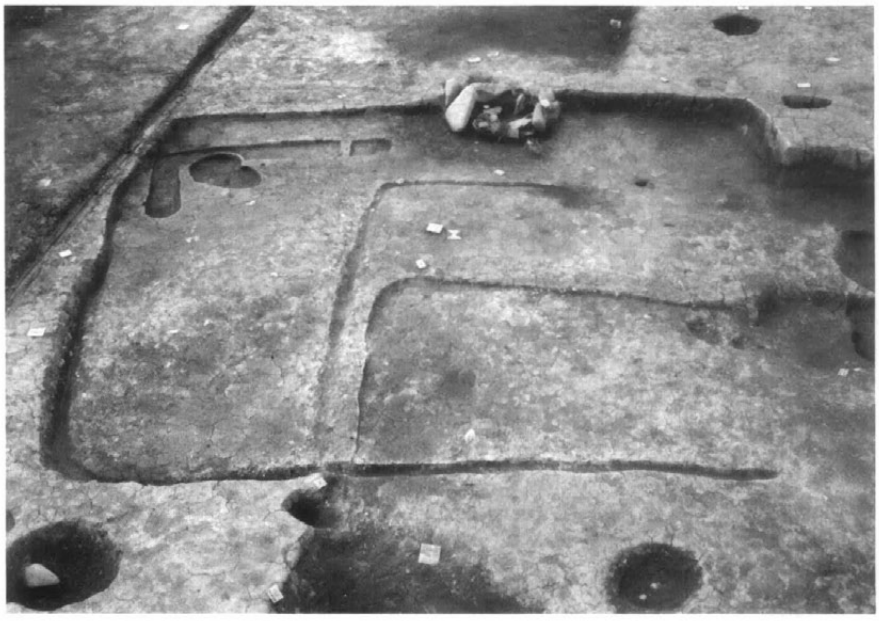
6　SB-01竈
（南から）

7　SB-01竈
（南から）

P
L
4

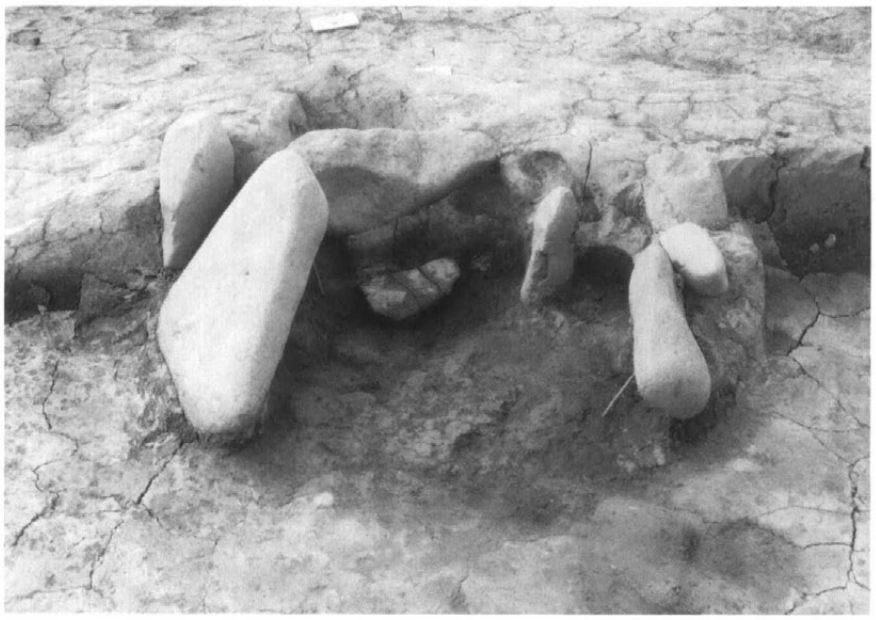
8　SB-01竈（天井石撤去）
（南から）

9　SB-02完掘状況
（西から）

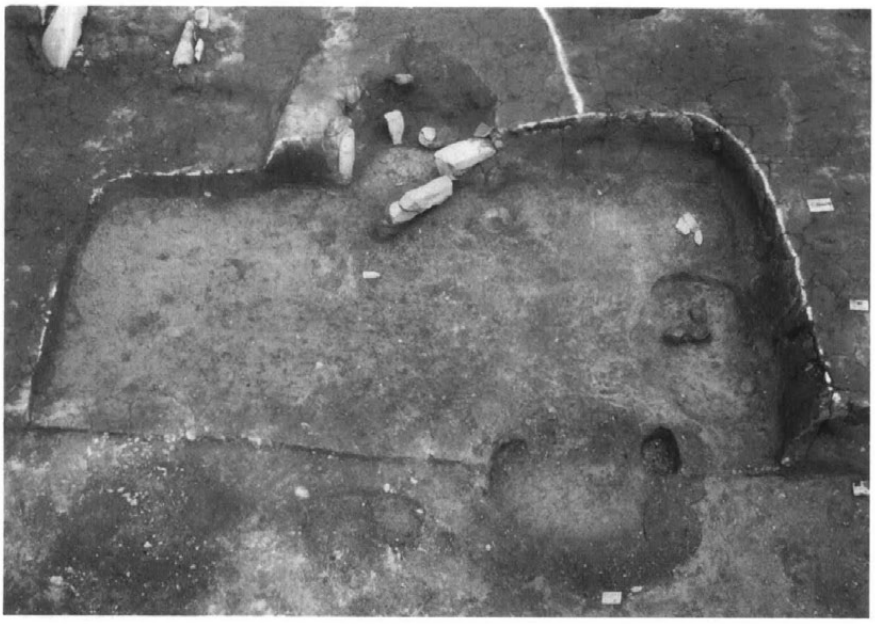


10　SB-03
（SB-04，05に切られる）
（南から）

11　SB-03竈（甕出土状況）
（南から）



12　SB-03竈完掘
（南から）



13　SB-04完掘状況
（SB-05に切られる）
（南から）

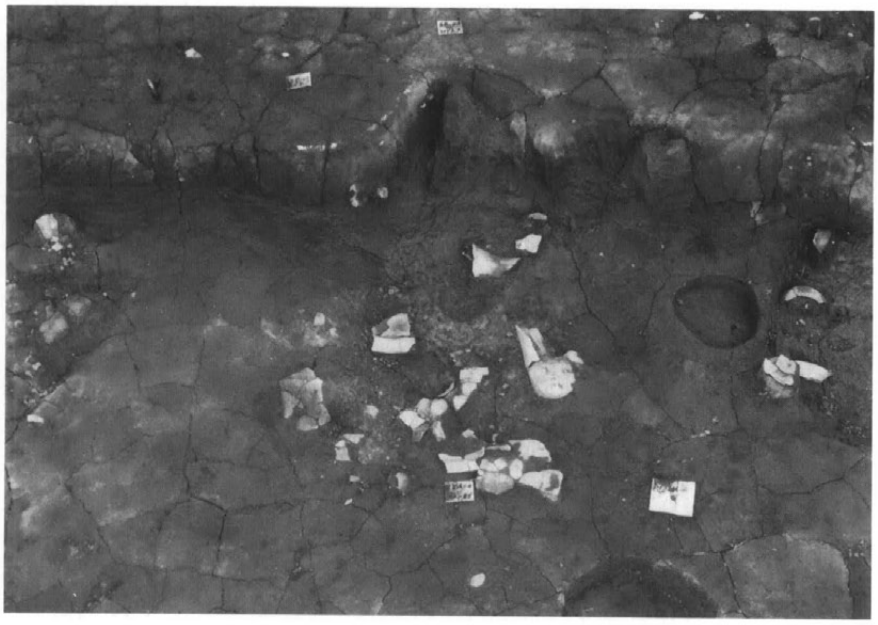
P
L
6

14　SB-04竈
（南から）

15　SB-05礫出土状況
（南から）

16　SB-05竈
（南から）

17　SB-06
（西から）



18　SB-06竈
（西から）

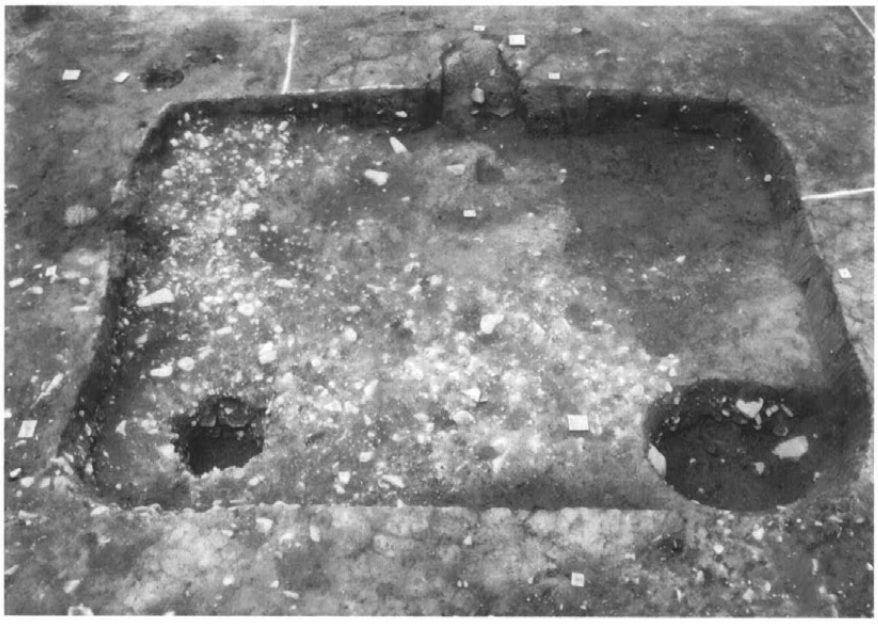
19　SB-07礫出土状況
（南から）

20　SB-07竈
（南から）

21　SB-08
（南から）

22　SB-08竈
（南から）

23　SB-09
（西から）



24　SB-10（SB-11を切る）
（西から）

25　SB-10竈
（西から）

P
L
10

26　SB-11
（SB-10に切られる）
（南から）

27　SB-11竈
（南から）

28　SB-12（SB-11を切る）
（西から）

29　SB-12竈
（手前はトレンチ）
（西から）

30　SB-13
（西から）

31　SB-13竈
（西から）

P
L
12

32　SB-14
（西壁側は暗渠排水）
（南から）

33　SB-15礫出土状況
（南から）

34　SB-15完掘
（南から）

35　SB-16
（東から）

36　SB-16竈
（東から）

37　SB-17（SB-18を切る）
（南から）

38　SB-18（手前をSB-17に、中央を暗渠排水に切られる）（西から）

39　SB-18竈（西から）

40　SB-19（南から）

41　SB-19竈
（南から）

42　SB-21（SB-22を切る）
（南から）

43　SB-23（SB-32を切る）
（西から）

P
L
16

44　SB-23竈
（西から）

45　SB-24
（東から）

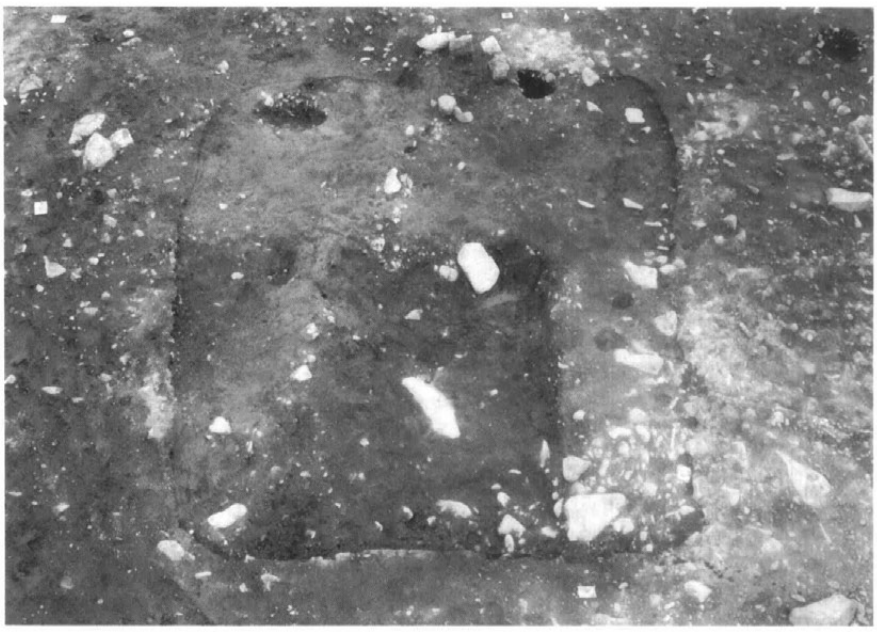
46　SB-24竈
（東から）

47　SB-26，27（奥壁の手前の僅かな段差がSB-26のプラン）（西から）

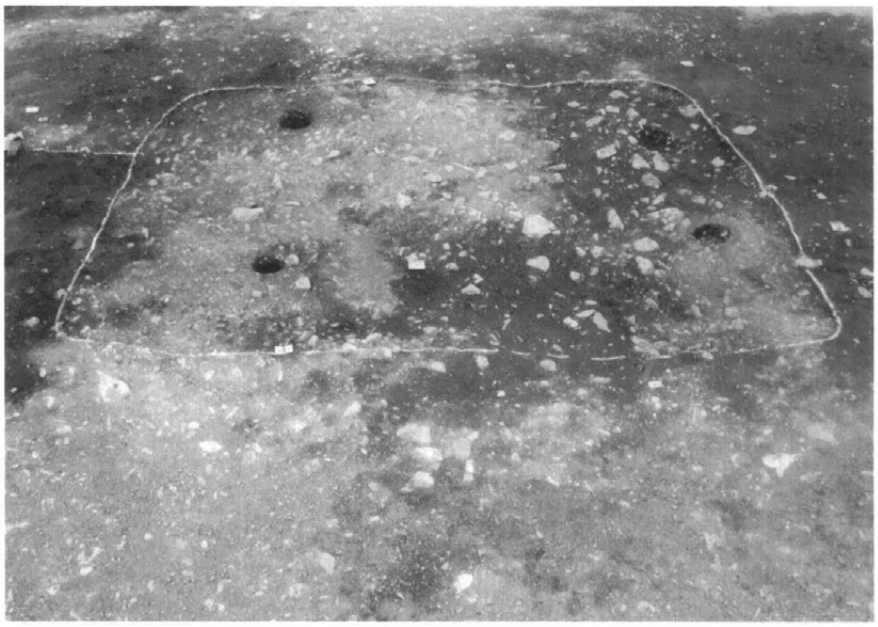
48　SB-26竈（土器が散いたように出土）（西から）

49　SB-26竈完掘（西から）

P
L
18



50 SB-28
（西から）



51 SB-29
（西から）

52 SB-30（SB-33を切る）
（南東から）

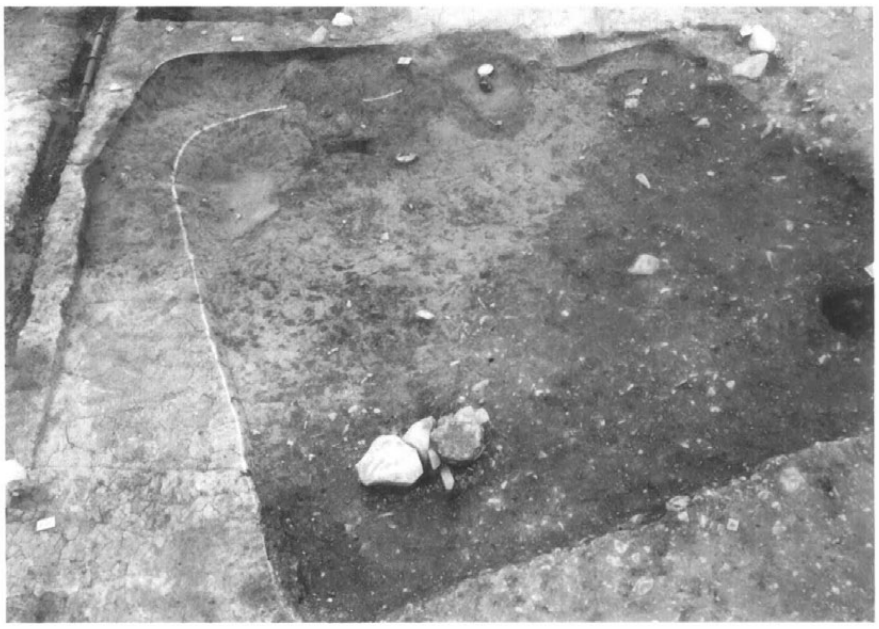
53　SB-30竈
（南東から）

54　SB-31（SB-32を切り、暗渠排水に切られる）
（西から）

55　SB-31竈
（西から）

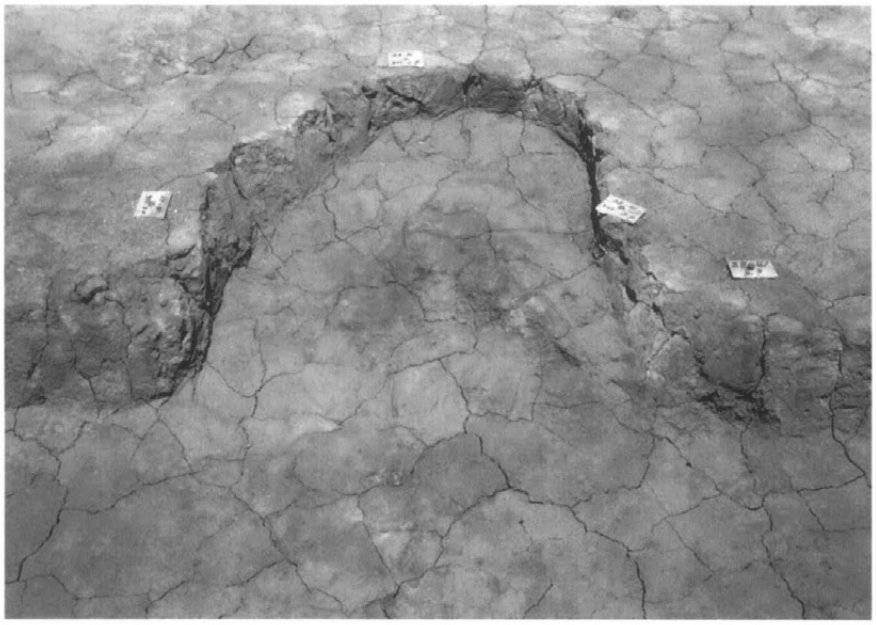
P
L
20

56　SB-32
（SB-23，31に切られる）
（南から）



57　SB-33
（SB-31に切られる）
（南から）

58　SB-41
（南から）



59　SB-41竈
（南から）

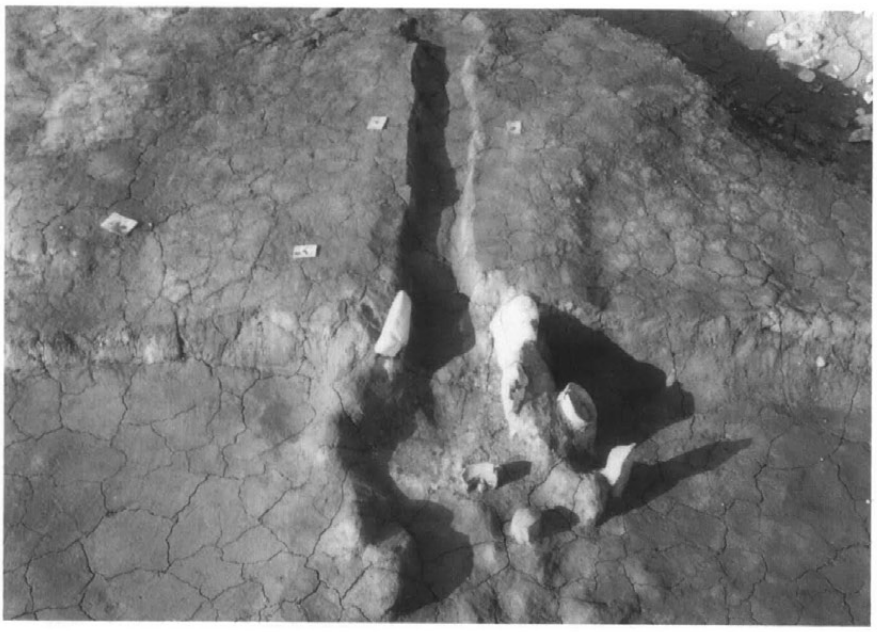
60　SB-42
（南から）

61　SB-42竈
（南から）

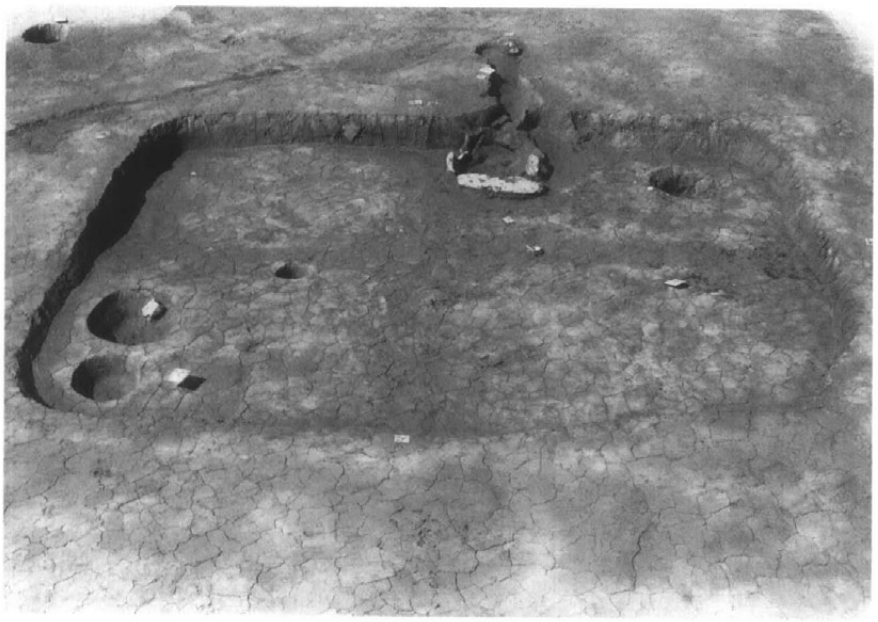
62 SB-43
（南から）

63 SB-43竈
（南から）

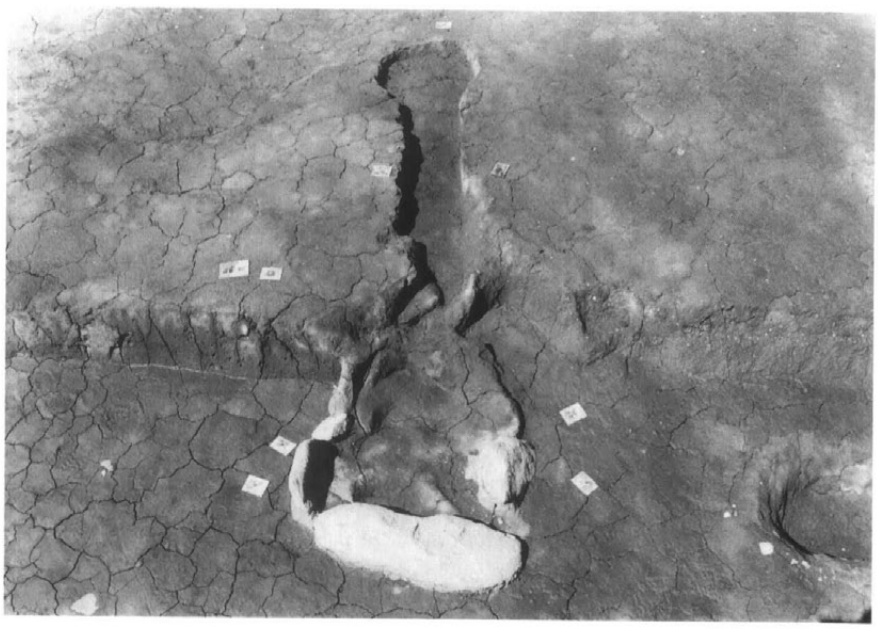
64 SB-44
（南から）



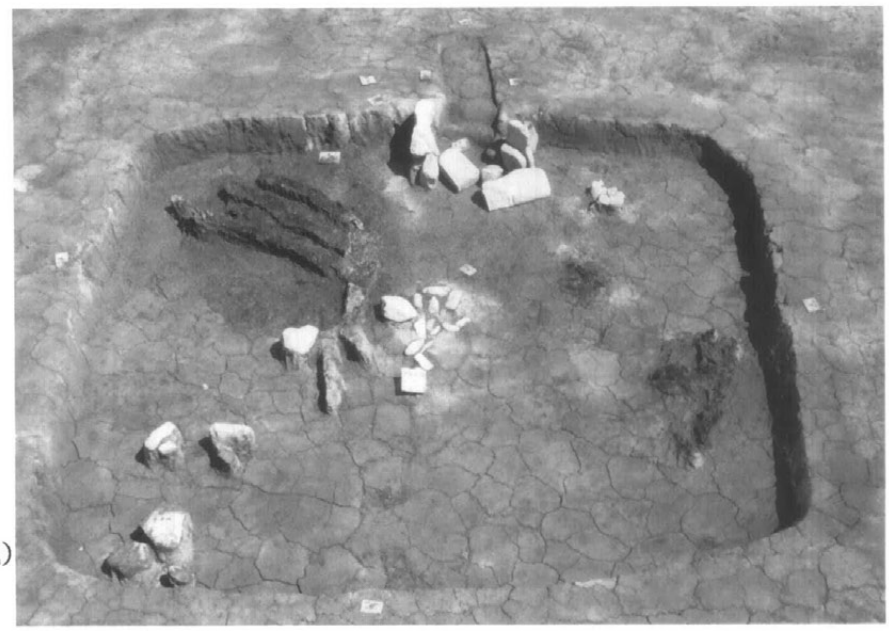
65　SB-44竈
（南から）



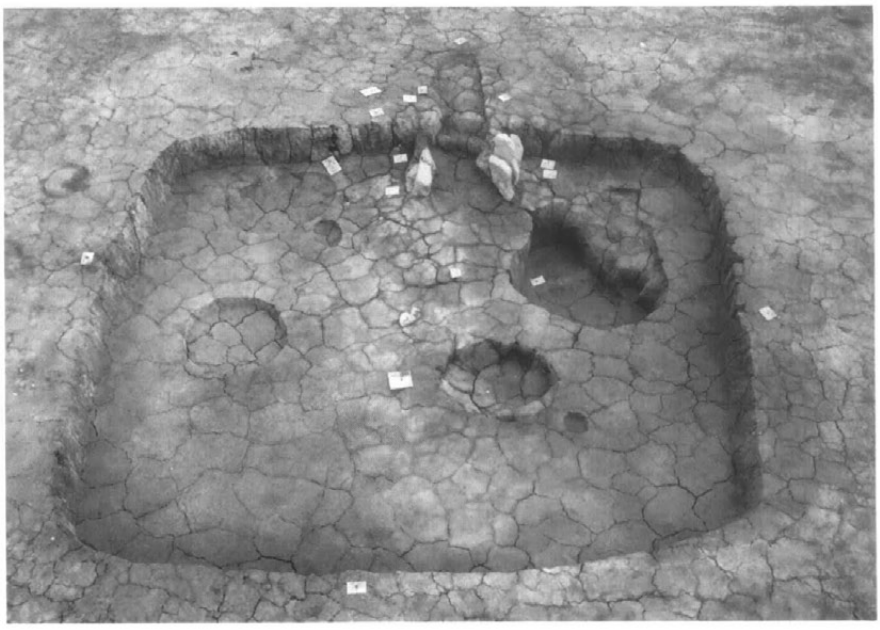
66　SB-45
（南から）



67　SB-45竈（焚口に転石）
（南から）

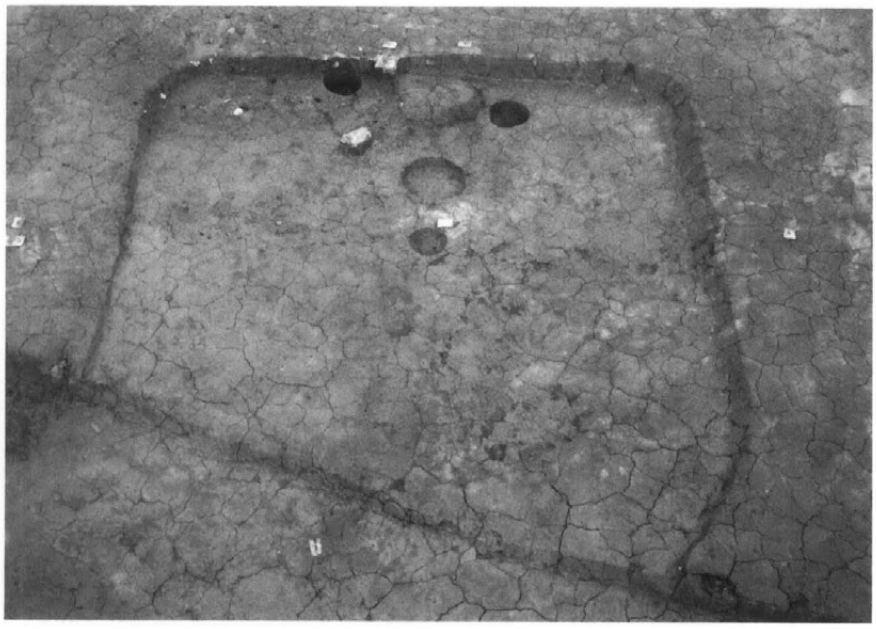


68　SB-46（炭化材・礫出土状況）
（南から）



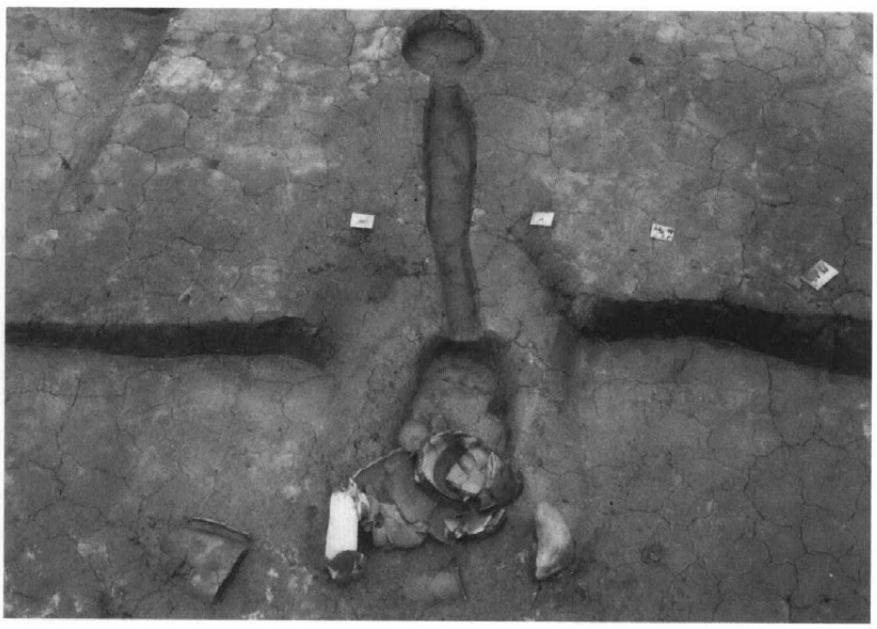
69　SB-46完掘
（南から）

70　SB-46竈
（南から）



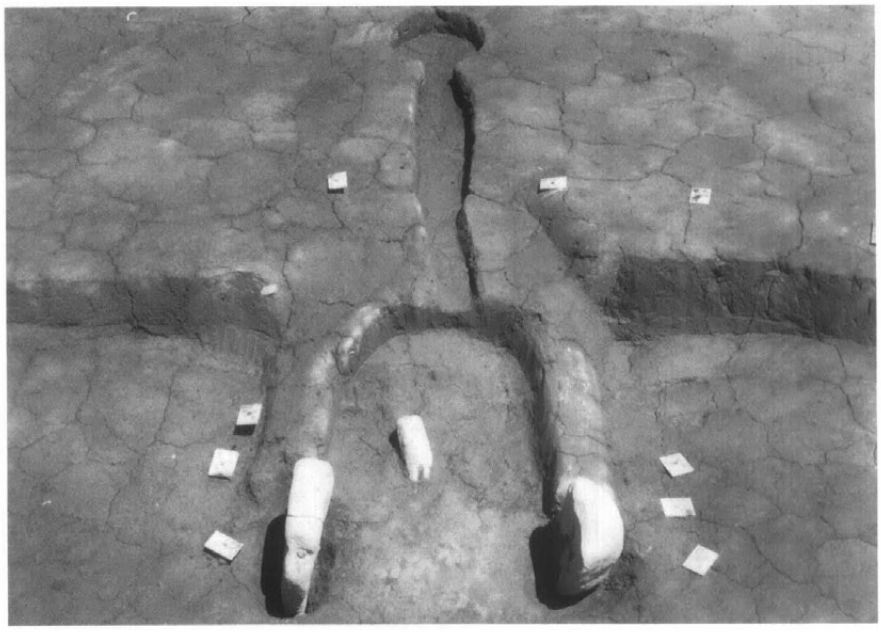
71　SB-47(手前はトレンチ)
（西から）

72　SB-49
（南から）



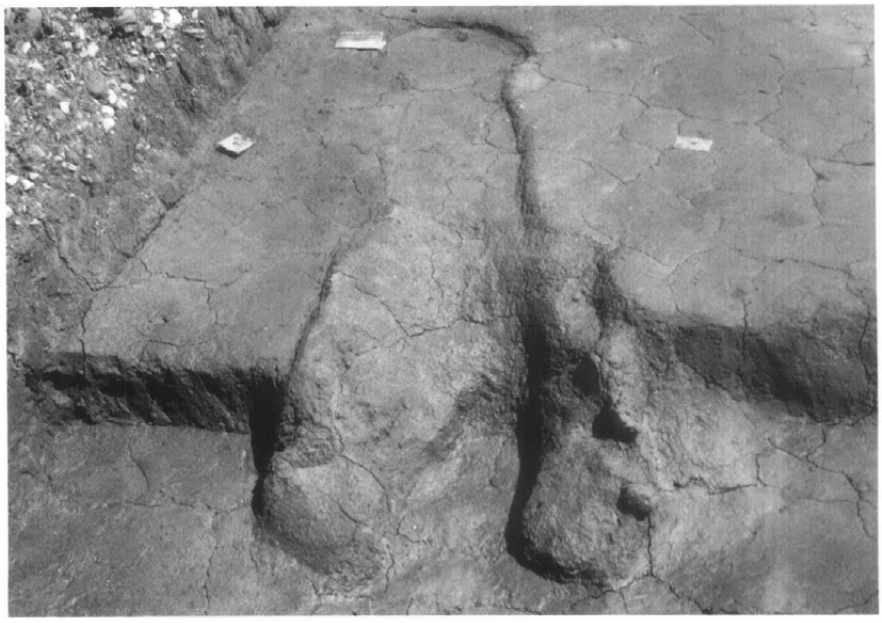
73　SB-49竈（甕出土）
（南から）

P
L
26



74　SB-49竈完掘
（南から）

75　SB-50
（南から）



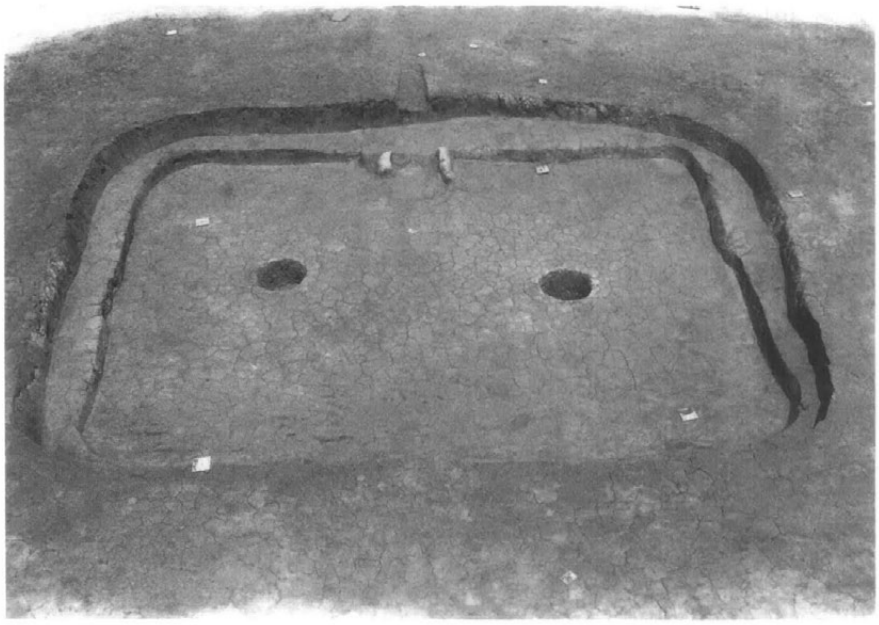
76　SB-50竈
（南から）

77 SB-51
（南から）

78 SB-51竈
（南から）

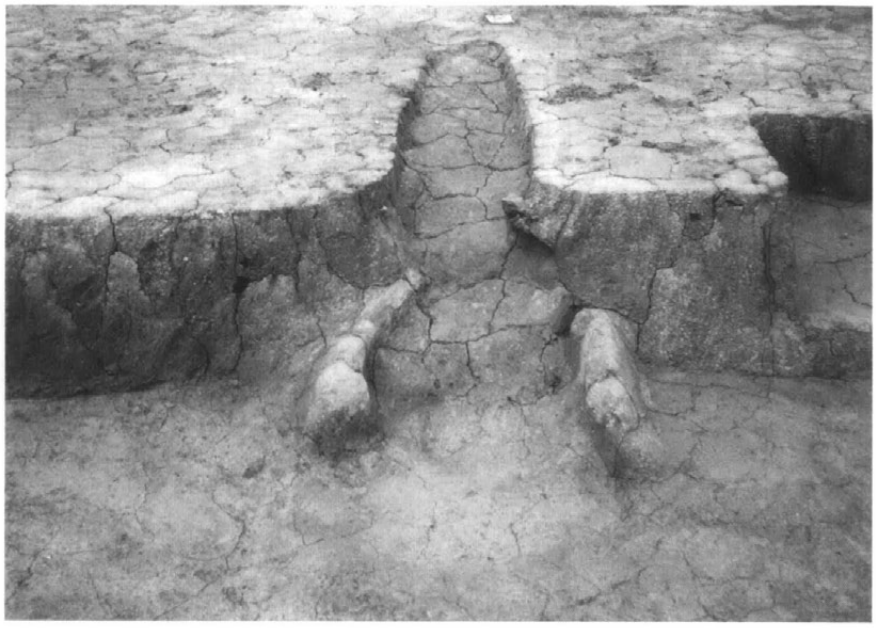
79 SB-52
（南から）

80　SB-53
（南から）



81　SB-54（内側のプラン=SB-55に切られる）
（南から）

82　SB-55（SB-54を切る）
（南から）



83　SB-55竈
（南から）

84　SB-55獣骨出土
（南から）

85　SB-55獣骨出土
（南から）

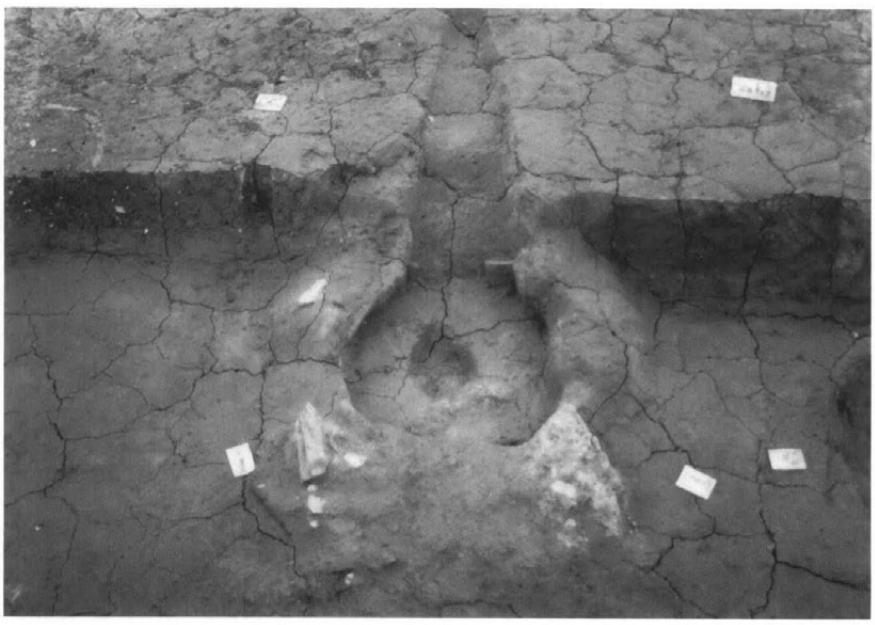
86 SB-56
（南から）

87 SB-56竈
（南から）

88 SB-58
（南から）

89　SB-58竈
（南から）

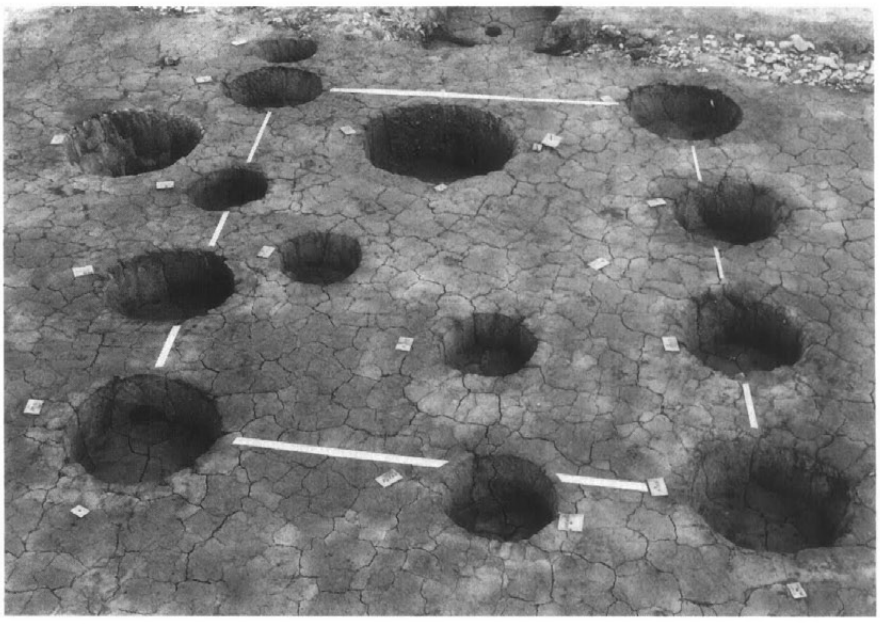
90　SB-59
（南から）



91　SB-59竈
（南から）

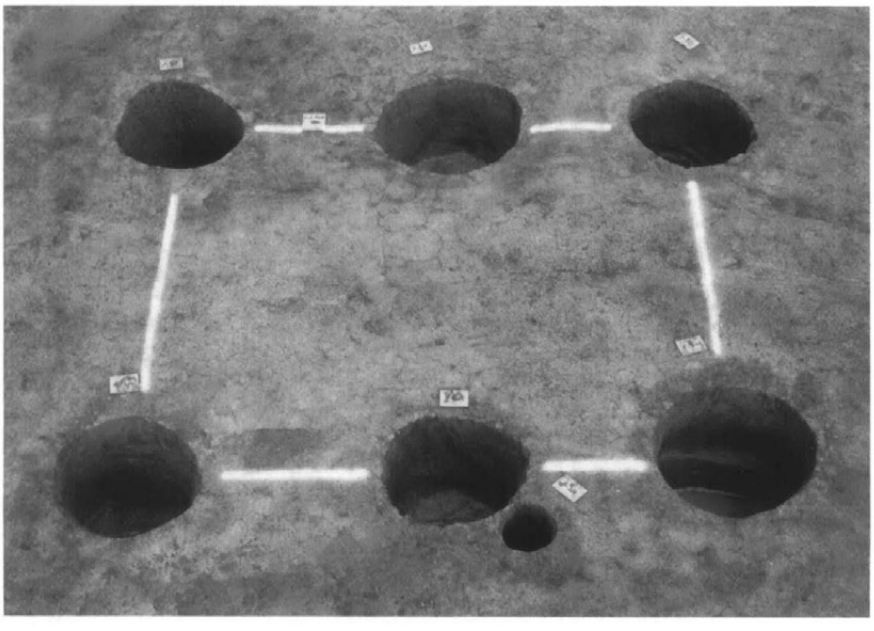
92 ST-01
（南から）

93 ST-02
（西から）

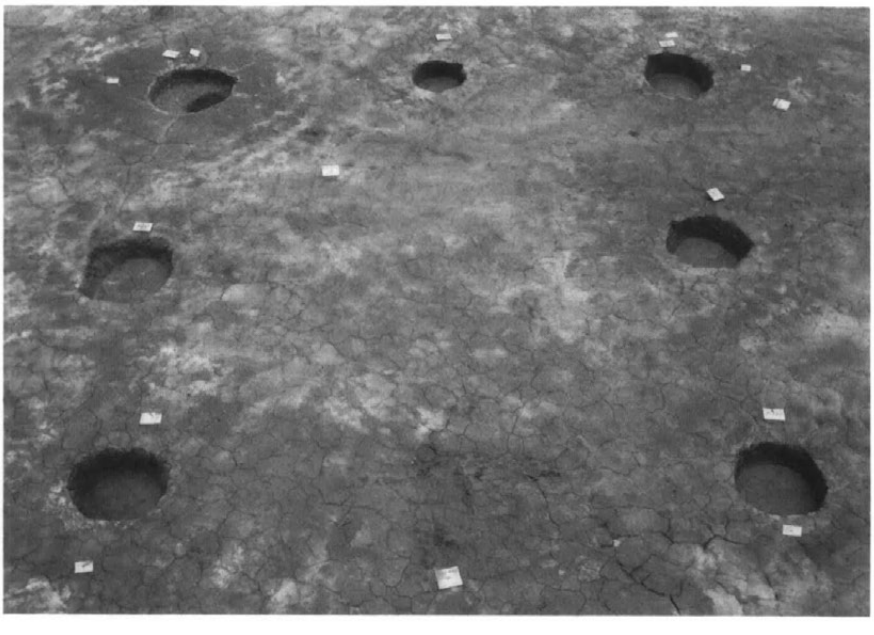


94 ST-03
（西から）

95　ST-04
（北から）

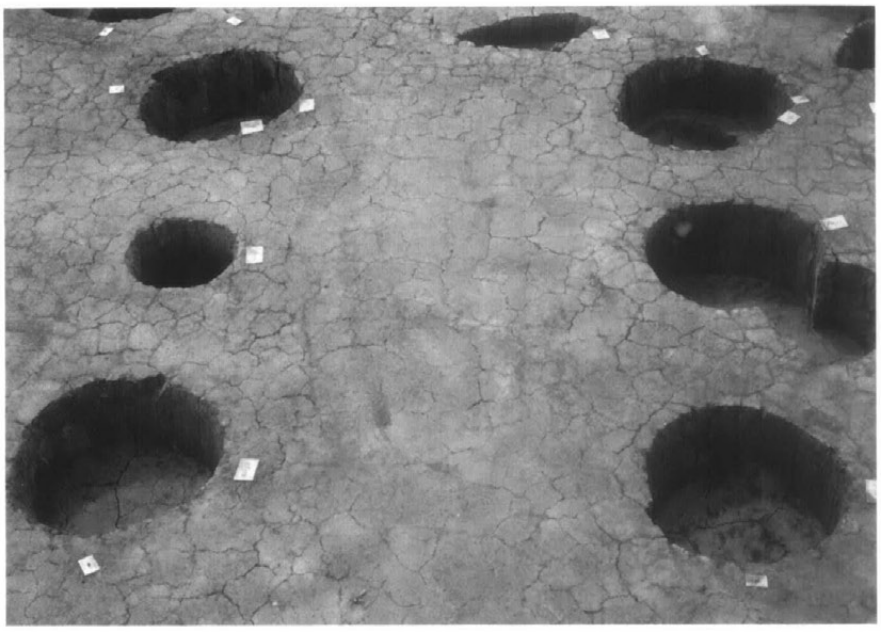


96　ST-05
（南から）

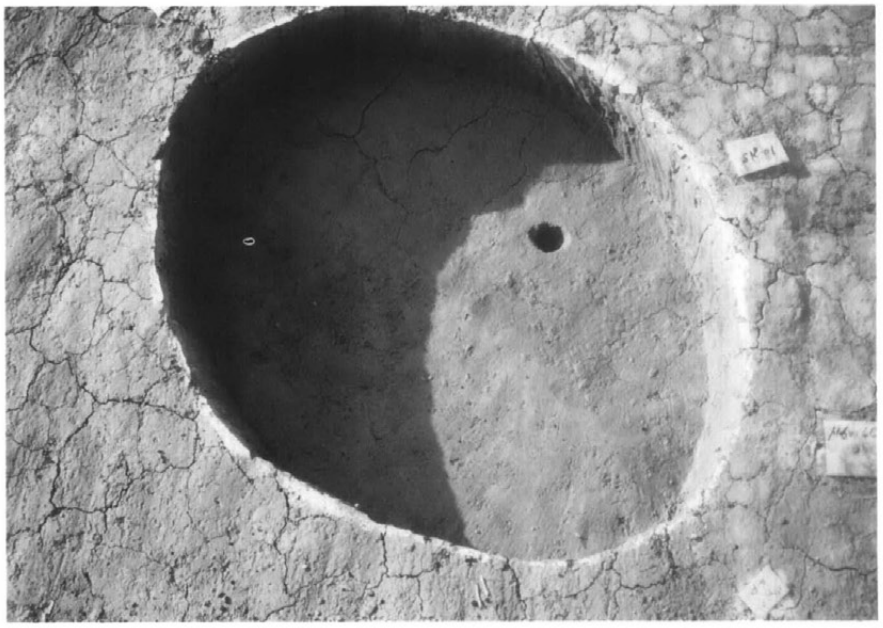


97　ST-07
（南から）

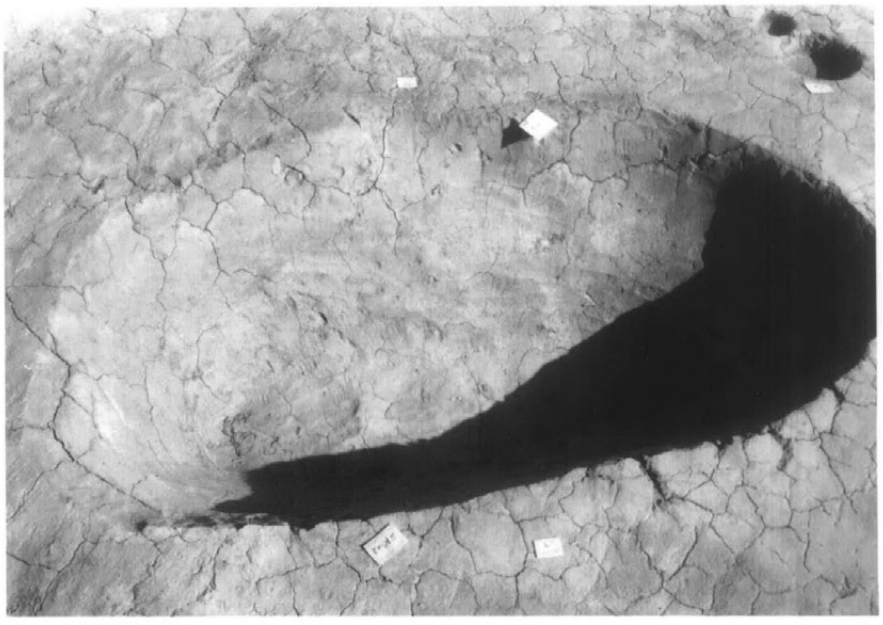
P
L
34



98 ST-08
（東から）

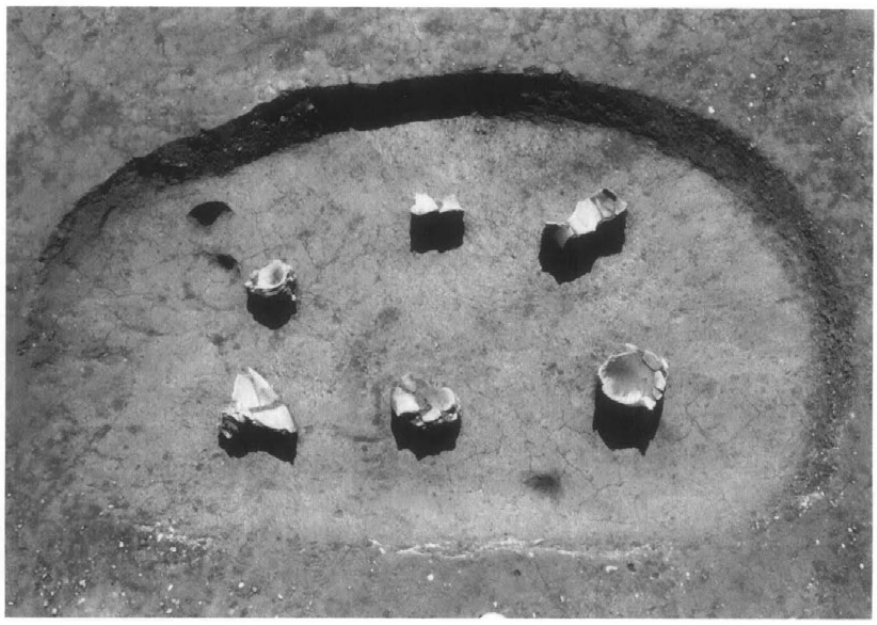


99 SK-01
（南から）

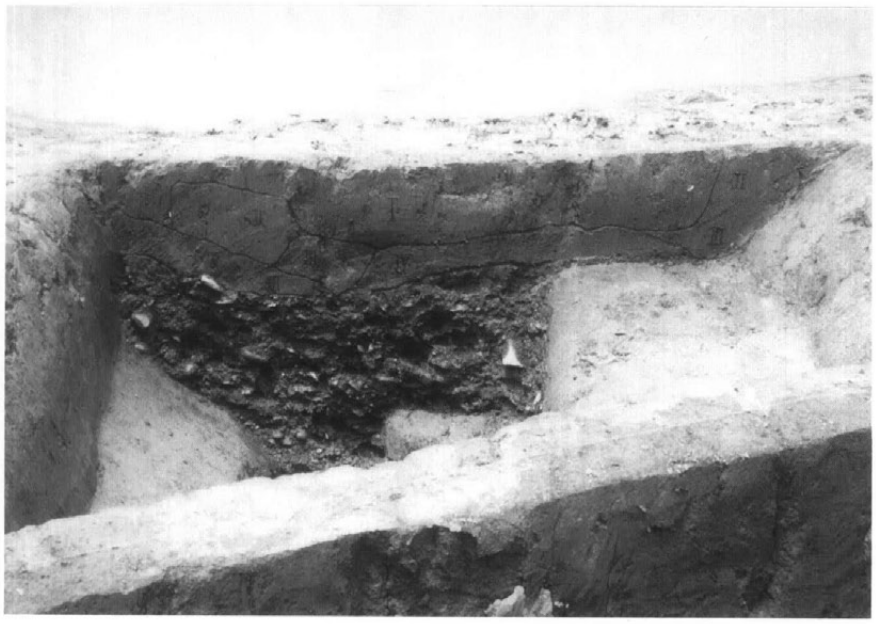


100 SK-02
（北から）

101　SK-04
（南から）



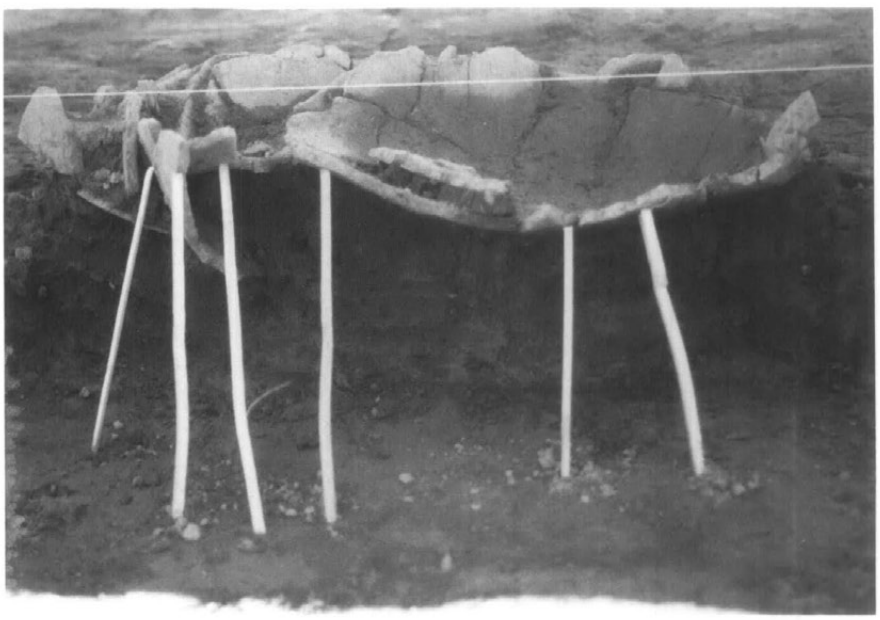
102　SK-06土器出土
（西から）



103　SD-01セクション

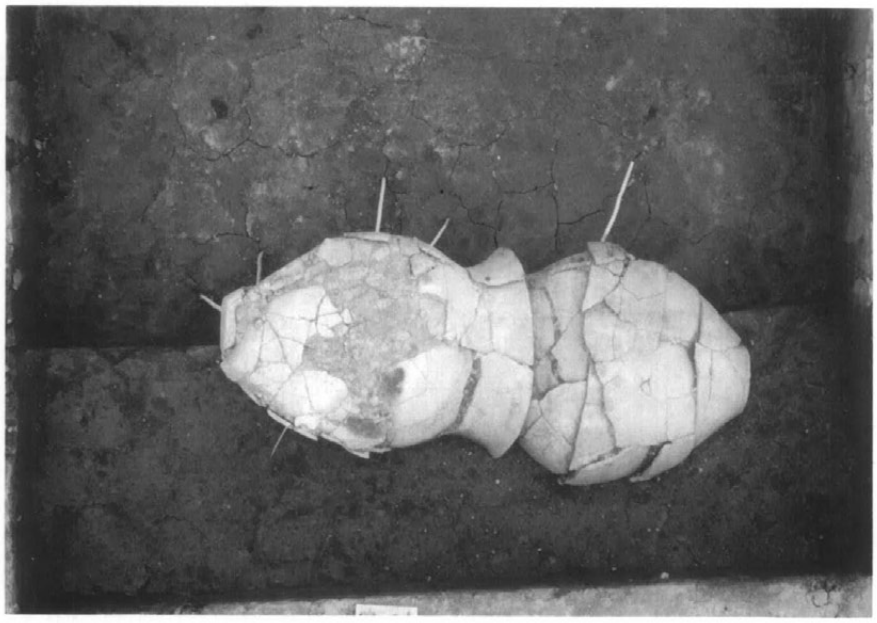
104　Po-01半切
（東から）

105　Po-01下部
（東から）

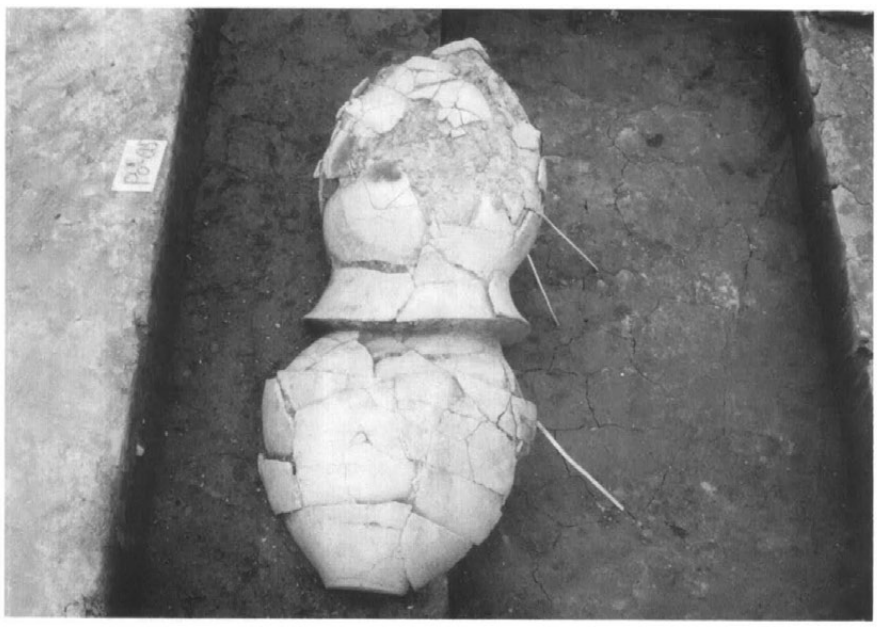


106　Po-02半切
（北から）

107　Po-05(右), 10(左)
（南から）

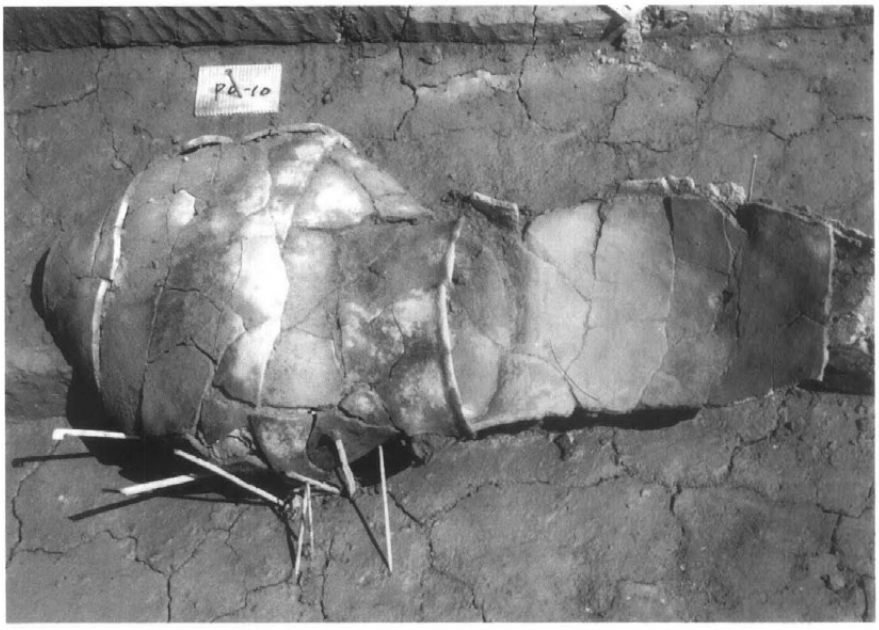


108　Po-05(左), 10(右)
（北から）

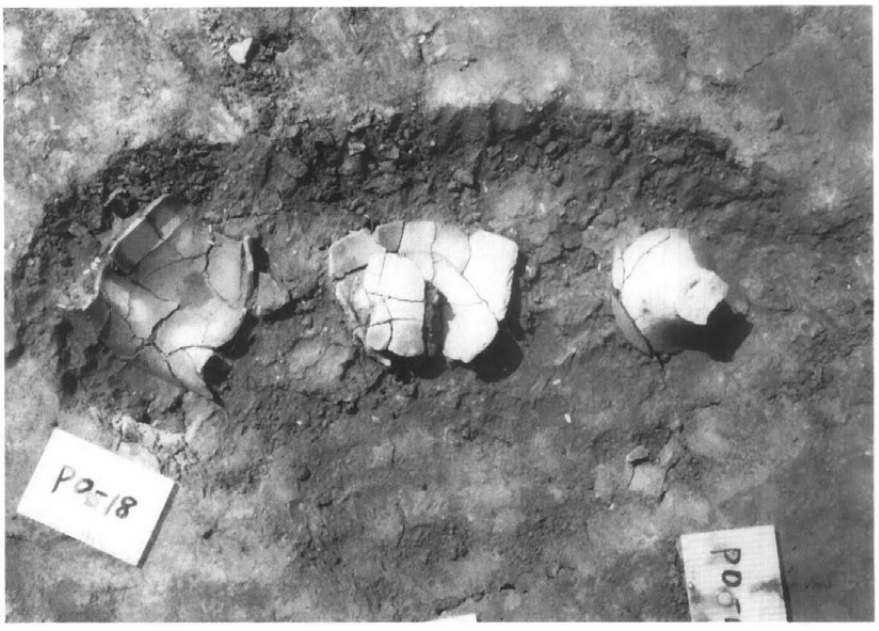


109　Po-05(上), 10(下)
（西から）

P
L
38

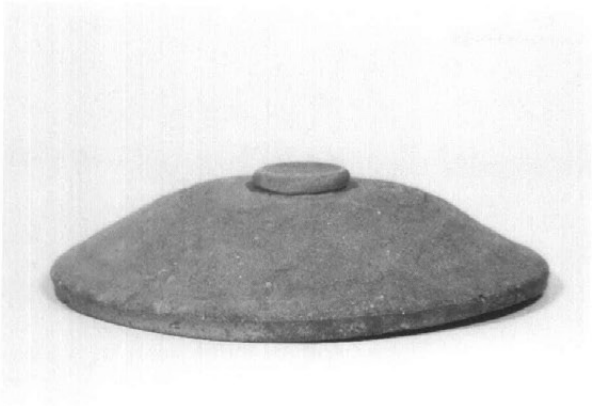


110 Po-05(右), 10(左)
(南から)

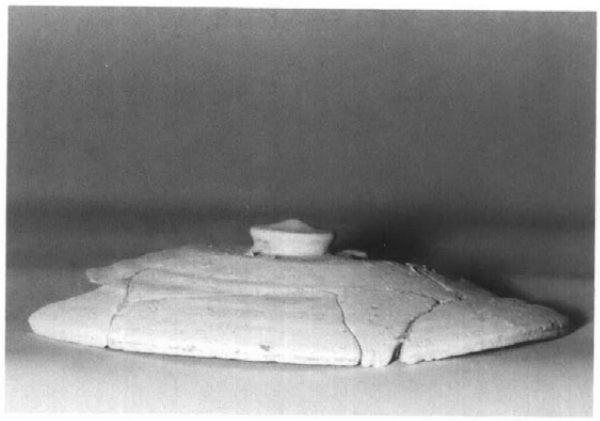


111 Po-16(右), 17(中),
18(左)
(南東から)

112 作業員の皆さん



113　SB-01須恵器・蓋

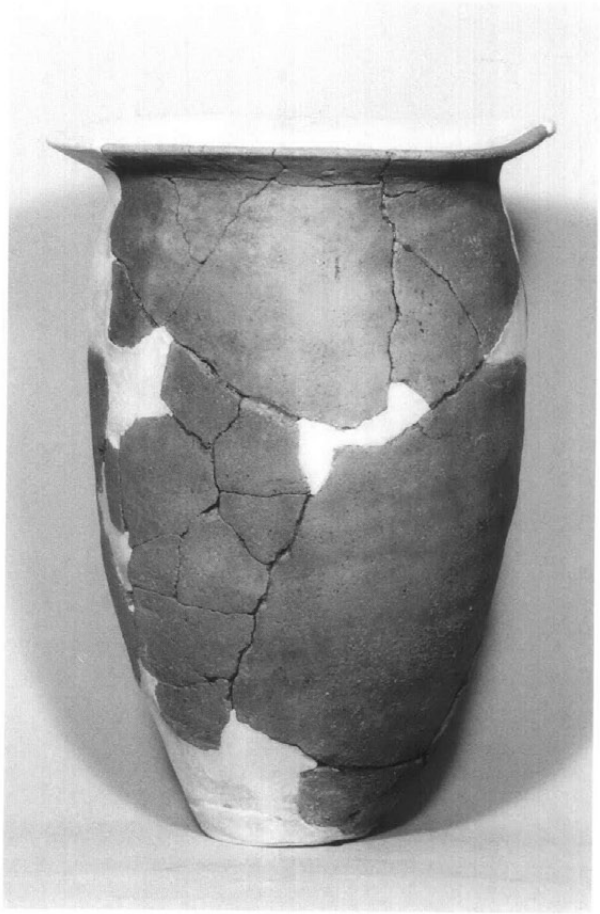


116　SB-02須恵器・蓋

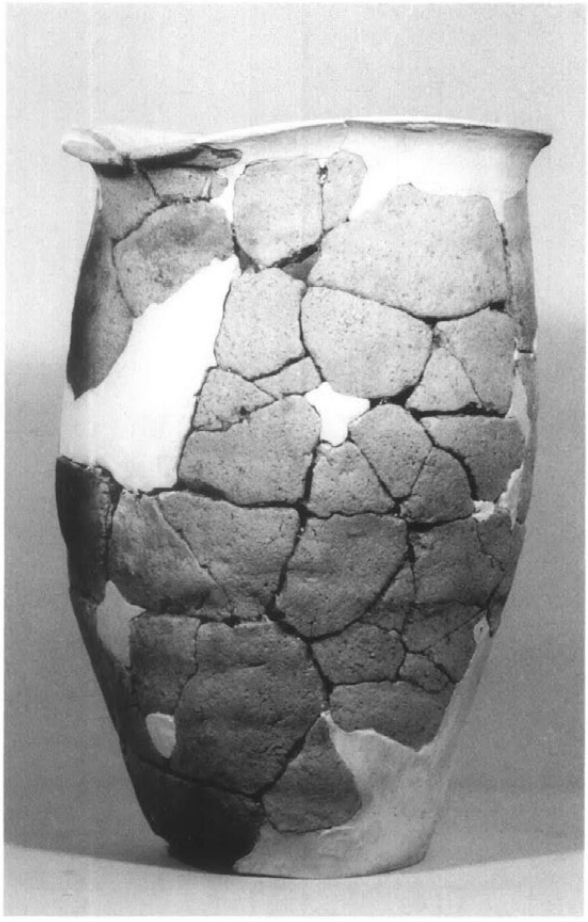
114　SB-01須恵器・坏（底部回転糸切）

117　SB-02須恵器・坏（底部回転糸切）

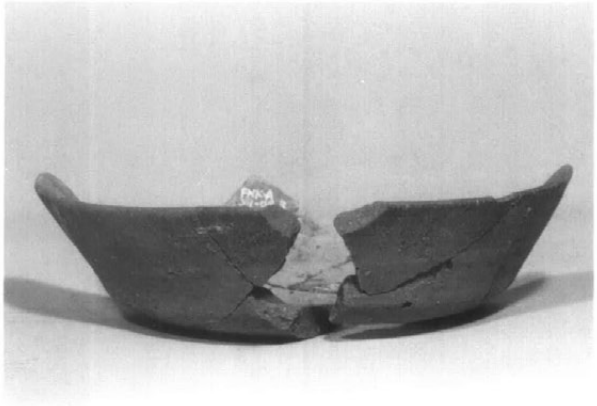
115　SB-01土師器・甕（胴部横・縦位の篦削り）



118　SB-03土師器・甕（甑？）



119　SB-03土師器・甕



120　SB-04須恵器・坏(底部回転篦切・篦調整)

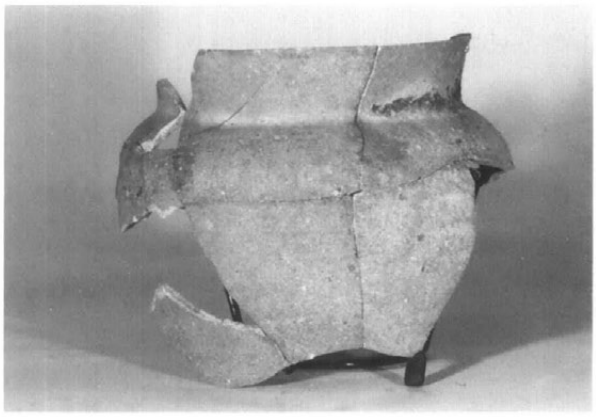
121　SB-04土師器・甕

122　SB-05須恵器・坏(底部回転糸切)

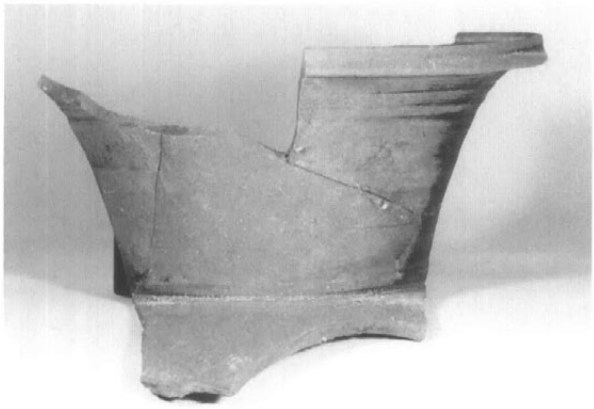
123　SB-06須恵器・坏(底部回転糸切)

124　SB-07須恵器・坏(底部回転糸切)

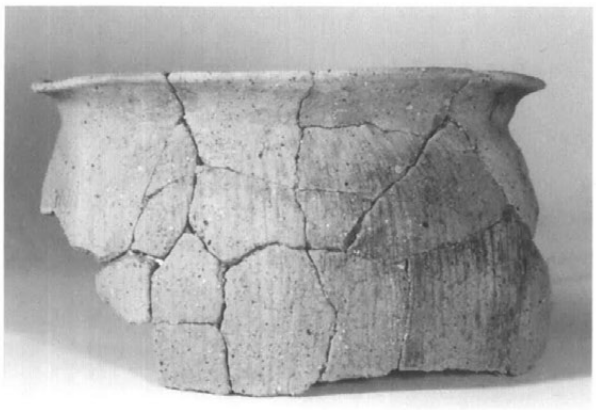
125　SB-07須恵器・坏



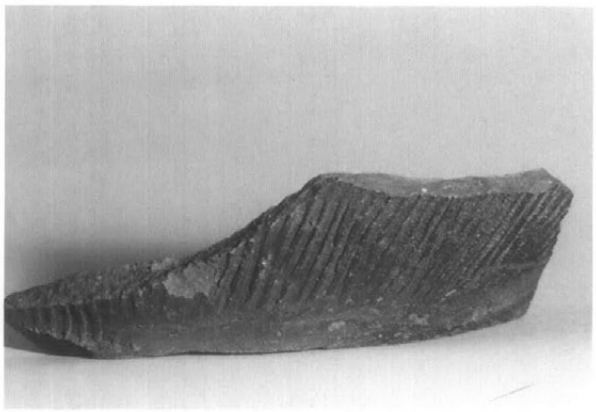
126　SB-07須恵器・壺



127　SB-07須恵器・甕



128　SB-07土師器・甕（胴部刷毛状工具の縦撫で）

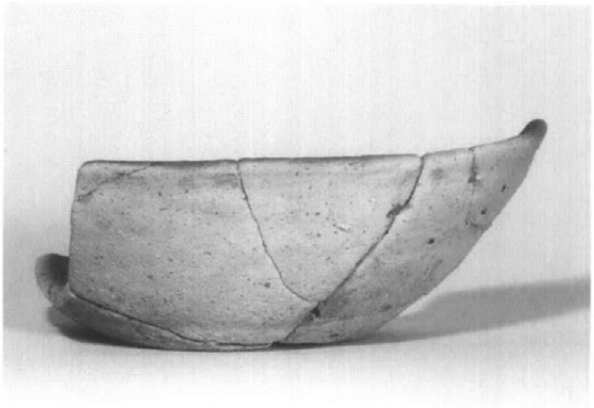


129　SB-07須恵器・甕（胴部叩き調整）

130　SB-08須恵器・坏（丸底篦調整）

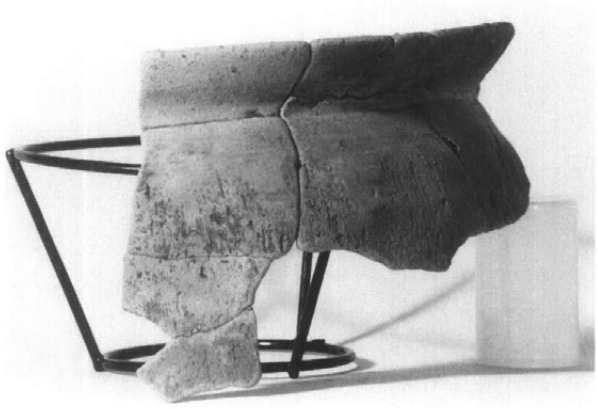
131　SB-11須恵器・坏（底部篦切・末調整）

132　SB-11須恵器・坏（底部回転篦切）

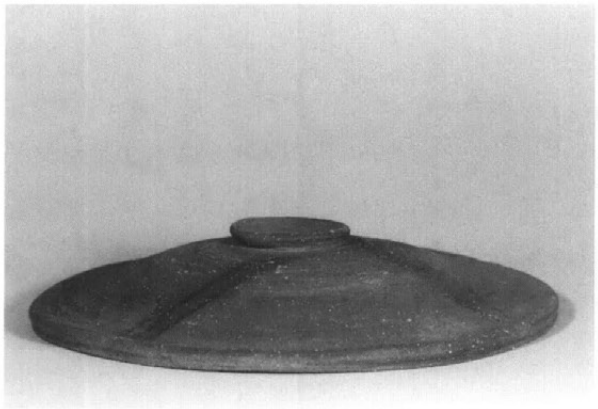


133　SB-12土師器・坏（底部篦切・内黒）

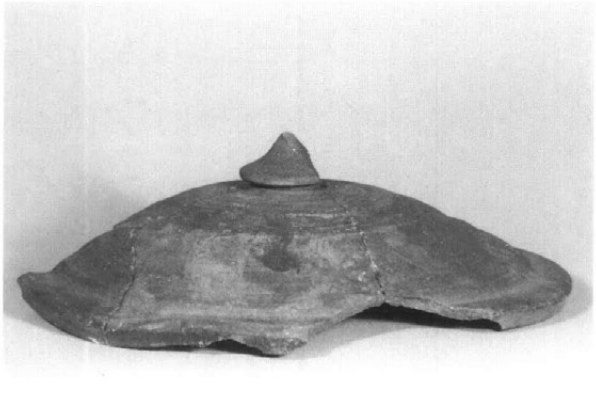
134　SB-12須恵器・坏（底部回転糸切）



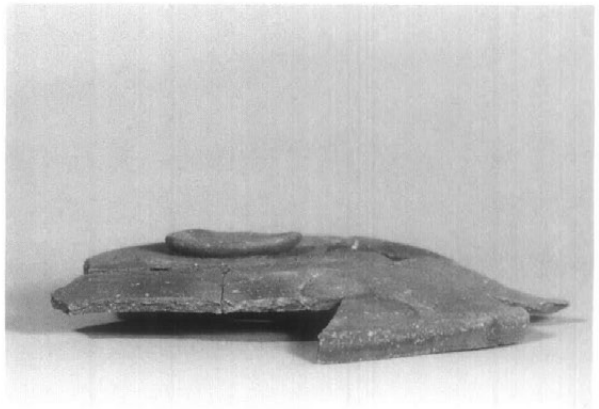
135　SB-12土師器・甕（胴部縦位の箆削）



136　SB-13須恵器・蓋

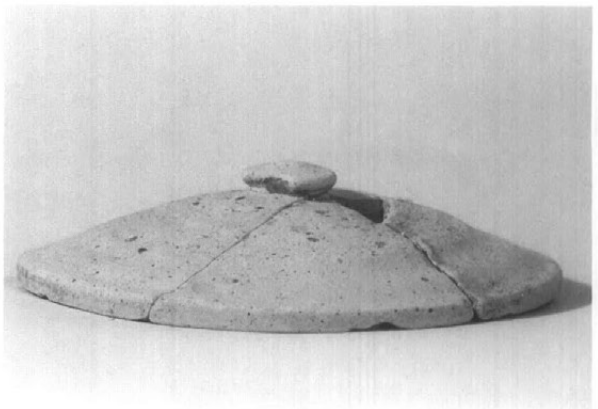


137　SB-13須恵器・蓋

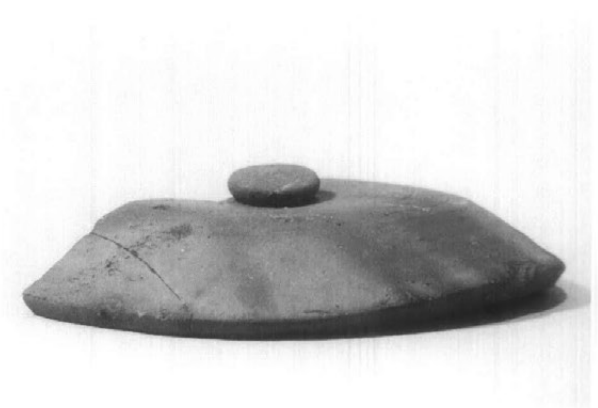


138　SB-13須恵器・蓋

139　SB-14須恵器・坏（底部回転糸切）

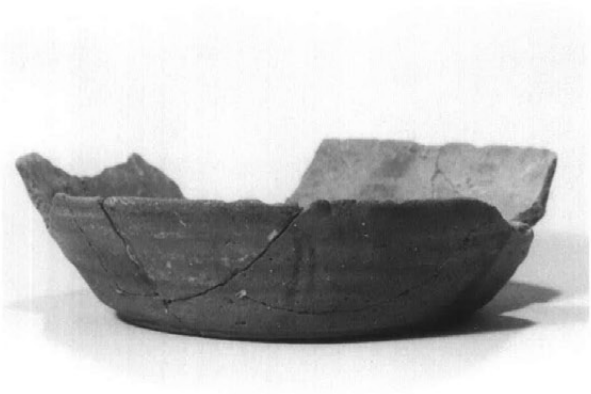


140　SB-15須恵器・蓋



141　SB-15須恵器・蓋（焼歪み大きい）

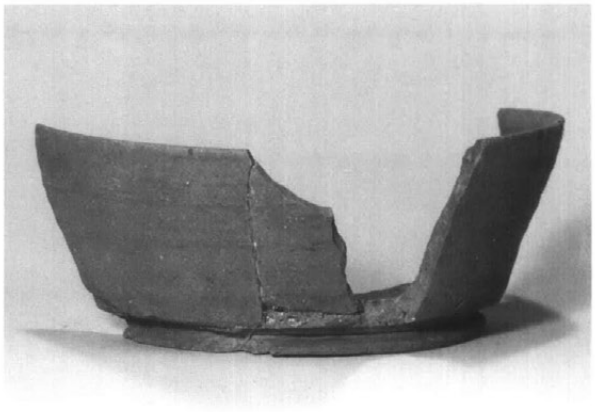
142　SB-15須恵器・蓋(天井部回転糸切)



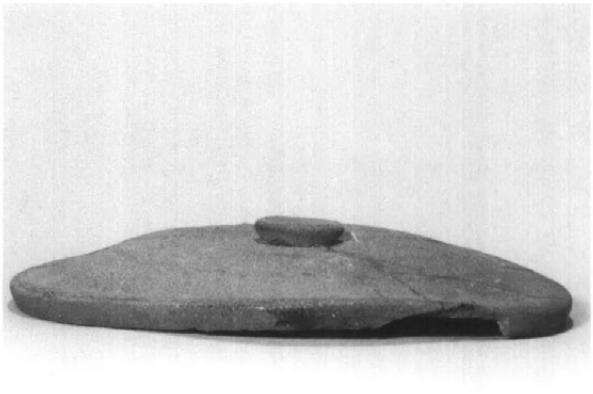
143　SB-15須恵器・坏(篦切底・火襷あり)

144　SB-15土師器・坏(底部篦調整・内面黒色処理)

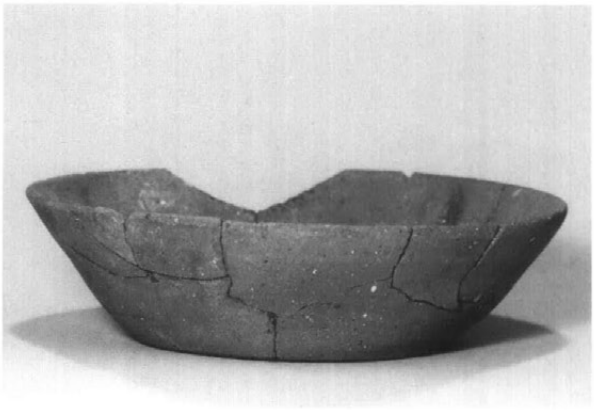
145　SB-15須恵器・坏(底部回転篦切)



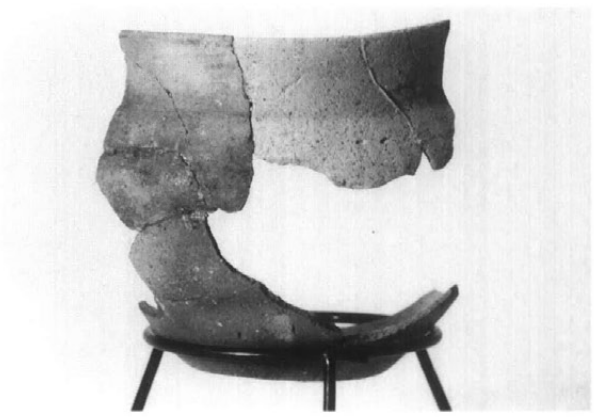
146　SB-15須恵器・坏(底部回転篦切)



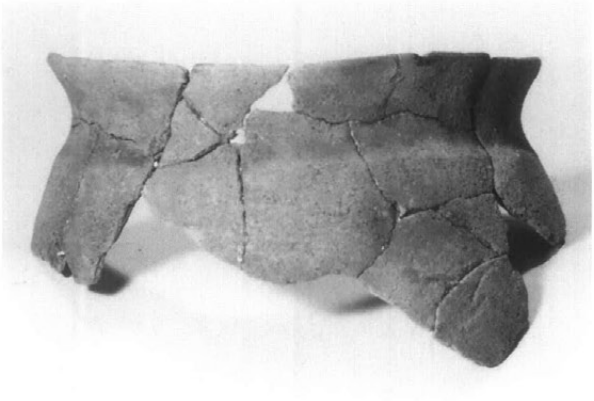
147　SB-16須恵器・蓋



148　SB-16須恵器・坏(底部回転篦切)

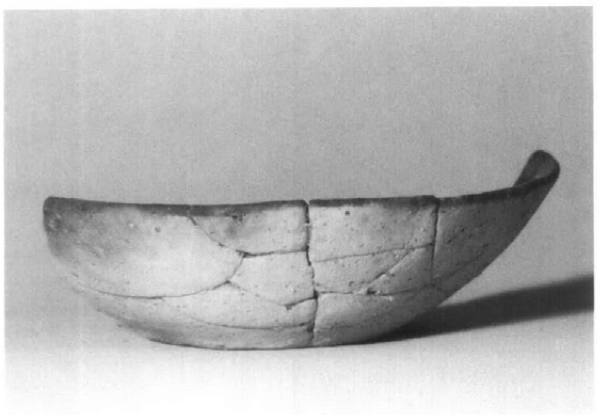


149　SB-18土師器・甕(胴部篦削)

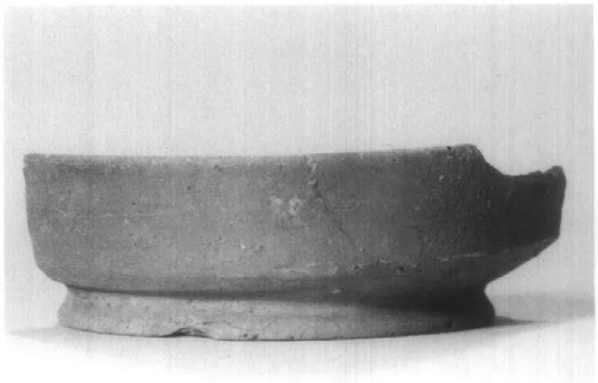


150　SB-18土師器・甕

154　SB-24須恵器・甕



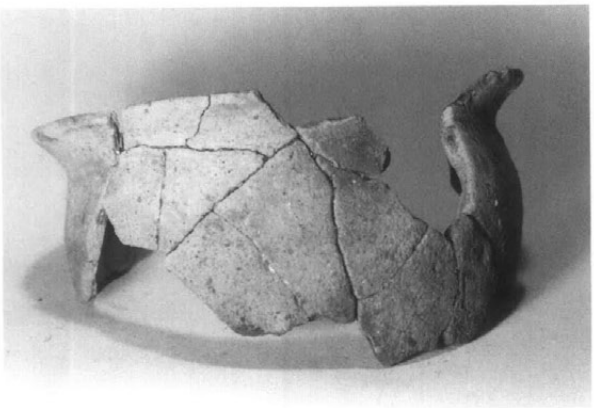
151　SB-20土師器・坏（底部回転糸切・内面黒色処理）



155　SB-26須恵器・坏（底部回転糸切）

152　SB-21須恵器・坏（底部回転糸切・火襷）

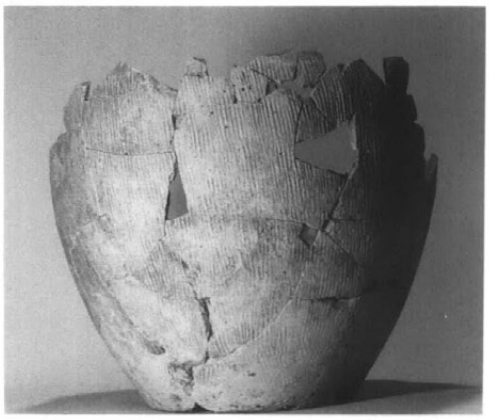
156　SB-30須恵器・蓋（163蓋と同径・同色）



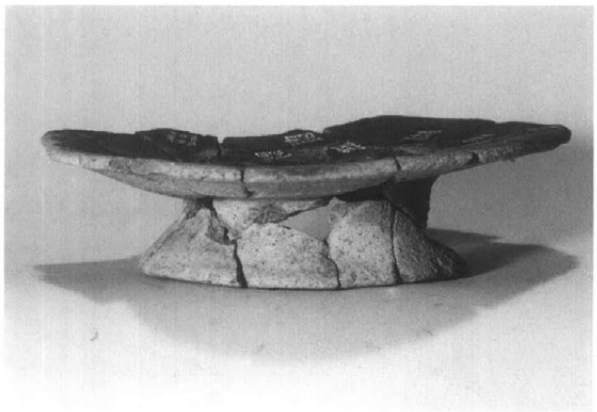
153　SB-22土師器・甕

157　SB-30土師器・坏（底部回転糸切・内面黒色処理）

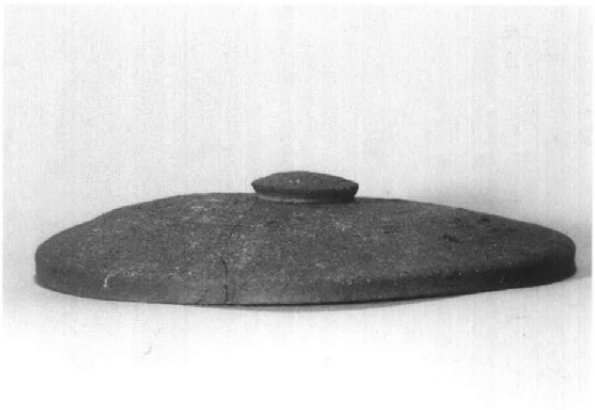
158　SB-30須恵器・坏



162　SB-30須恵器・甕（叩き調整）



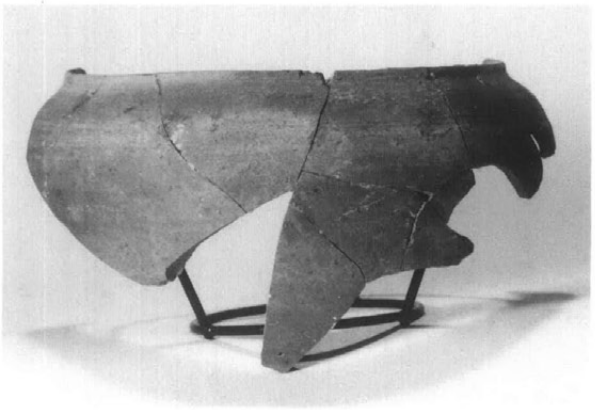
159　SB-30土師器・坏？（内面黒色処理）



163　SB-31須恵器・蓋（156蓋と同径・同色）

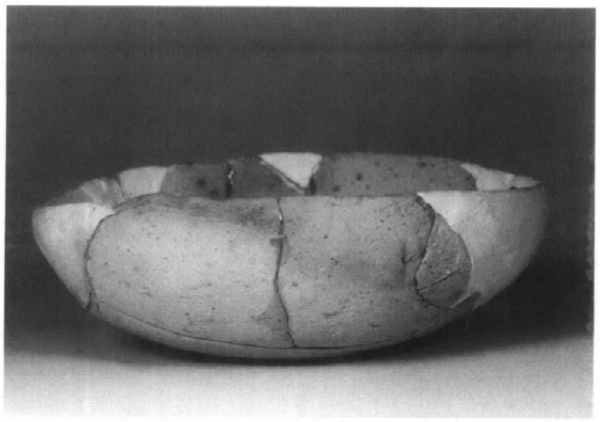
160　SB-30土師器・高坏（脚部縦位の箆削）

164　SB-32土師器・坏（底部静止箆切・内面黒色処理）



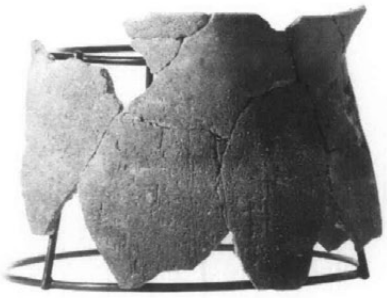
161　SB-30須恵器・壺

165　SB-32須恵器・坏（底部静止箆切）

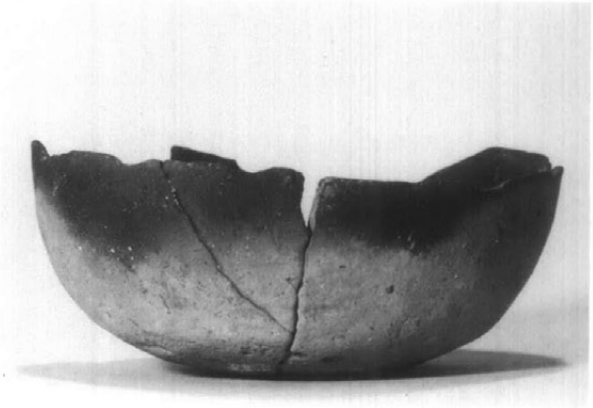


166　SB-42土師器・坏(丸底)

169　SB-48須恵器・高坏(3方に透かし)



167　SB-42土師器・甕(胴部縦位の箆削)

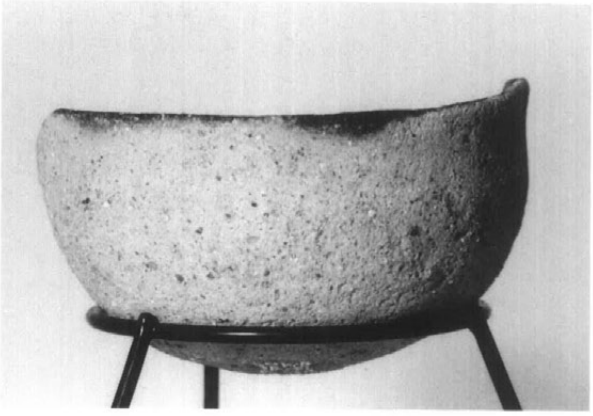


170　SB-49土師器・坏(丸底・内面黒色処理)

168　SB-44土師器・坏(丸底)

171　SB-49土師器・甕

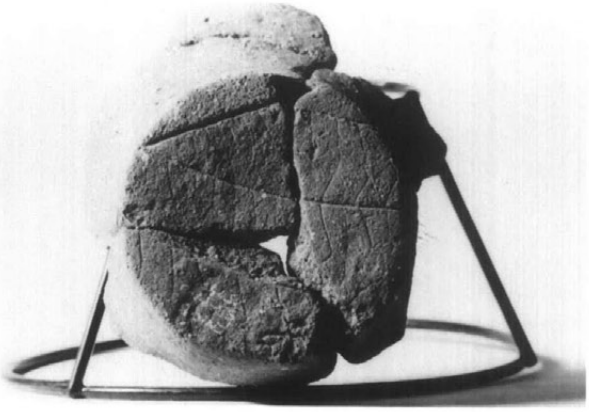
172　SB-49土師器・甕



174　SB-51土師器・坏（丸底・内面黒色処理）

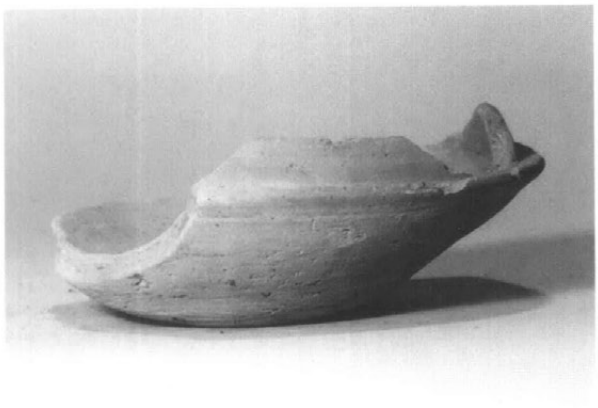
175　SB-51土師器・甕

173　SB-49土師器・甕

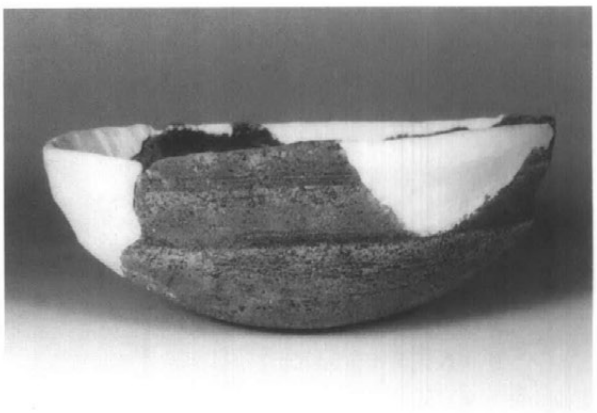


176　SB-51土師器・甕（底部木葉痕）

177　SB-52須恵器・蓋



178　SB-52須恵器・坏

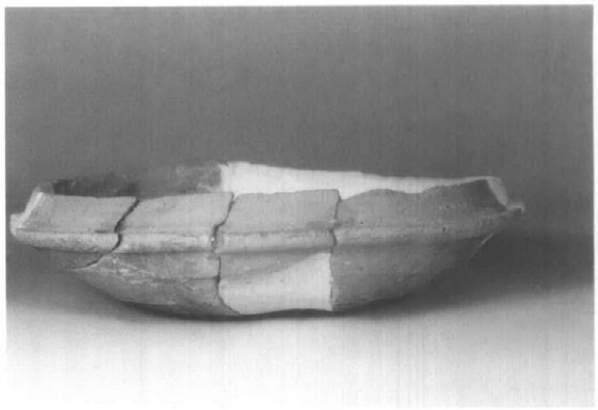


182　SB-57土師器・坏（丸底）

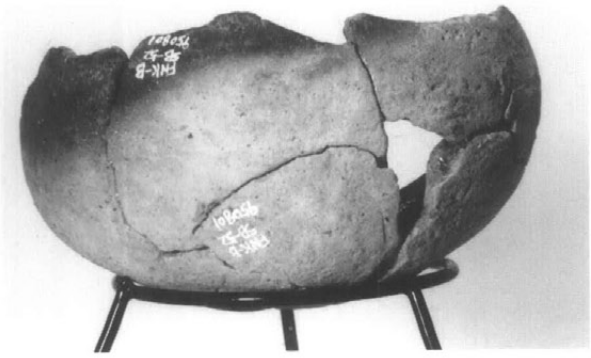
179　SB-52須恵器・瓶

183　SB-59須恵器・蓋（歪みが大きい）

180　SB-52須恵器・瓶（同上）



184　SB-59須恵器・坏



181 SB-52 土師器・坏（丸底・内黒）

185　SB-59須恵器・蓋

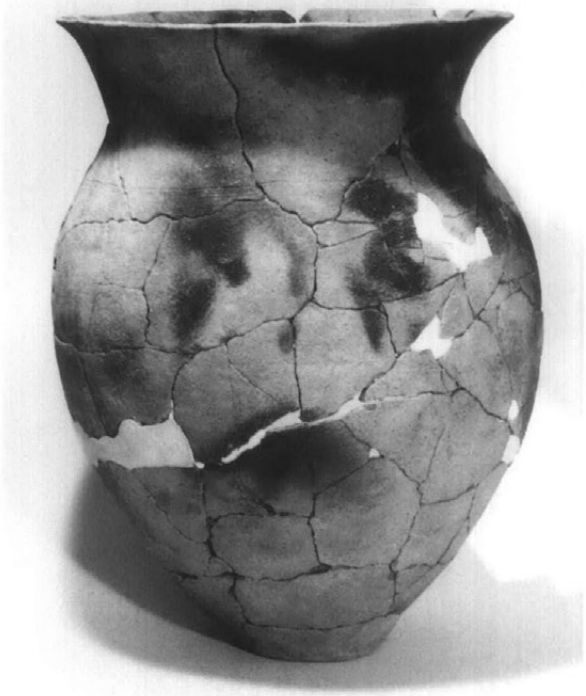
186　SD-01土師器・壺

187　SD-01須恵器・甕(叩き調整)

188　SK-06弥生土器・高坏(赤色塗彩)

189　Po-08弥生土器・甕(波状文)

190　Po-12弥生土器・鉢(赤色塗彩)



191　Po-05弥生土器・甕(簾状文・波状文・甕棺)

192　Po-10弥生土器・甕（簾条文・波条文・甕棺）

193　Po-13弥生土器・壺

194　95.4.27調査風景（A区表土剥・遺構検出）

195　95.5.26調査風景（B区表土剥・遺構検出）

196　95.6.26雨天・土器洗い

197　95.8.7 現地調査最終盤

198　A地区全体写真（写真下が南）

199　B地区全体写真（写真下が北）

報告書抄録

書名（ふりがな）	藤之木遺跡（ふじのきいせき）
シリーズ名	上田市文化財調査報告書
シリーズ番号	第５７集
編著者名	中沢徳士
編集機関	上田市教育委員会
所在地	〒３８６　長野県上田市天神二丁目４番74号
発行年月日	1996年３月31日
所収遺跡名（ふりがな）	藤之木遺跡
所在地	上田市大字浦野字湯道
コード（市町村・遺跡番号）	２０２０３・３８０
北緯・東経（°′″）	36° 23′ 30″ ・ 138° 09′ 45″
調査期間	1995・４・17～８・12
調査面積	6,500㎡
調査原因	浦里住宅団地造成事業

遺跡名	種　別	主な時代	主　な　遺　構	主　な　遺　物	特記事項
藤之木遺跡	集落跡	古墳 奈良 平安	竪穴住居址 掘立柱建物跡 土壙 溝址	弥生土器 土師器・須恵器 人骨・獣骨 銀環・ガラス小玉	

上田市文化財調査報告書第57集
藤之木遺跡
－藤之木遺跡発掘調査概報－

発　行　１９９６年３月３１日
編　集　上田市教育委員会
印　刷　有限会社　竹内印刷所